

稼堂叢書
第一冊

三州遺事

上

156
113

156-113

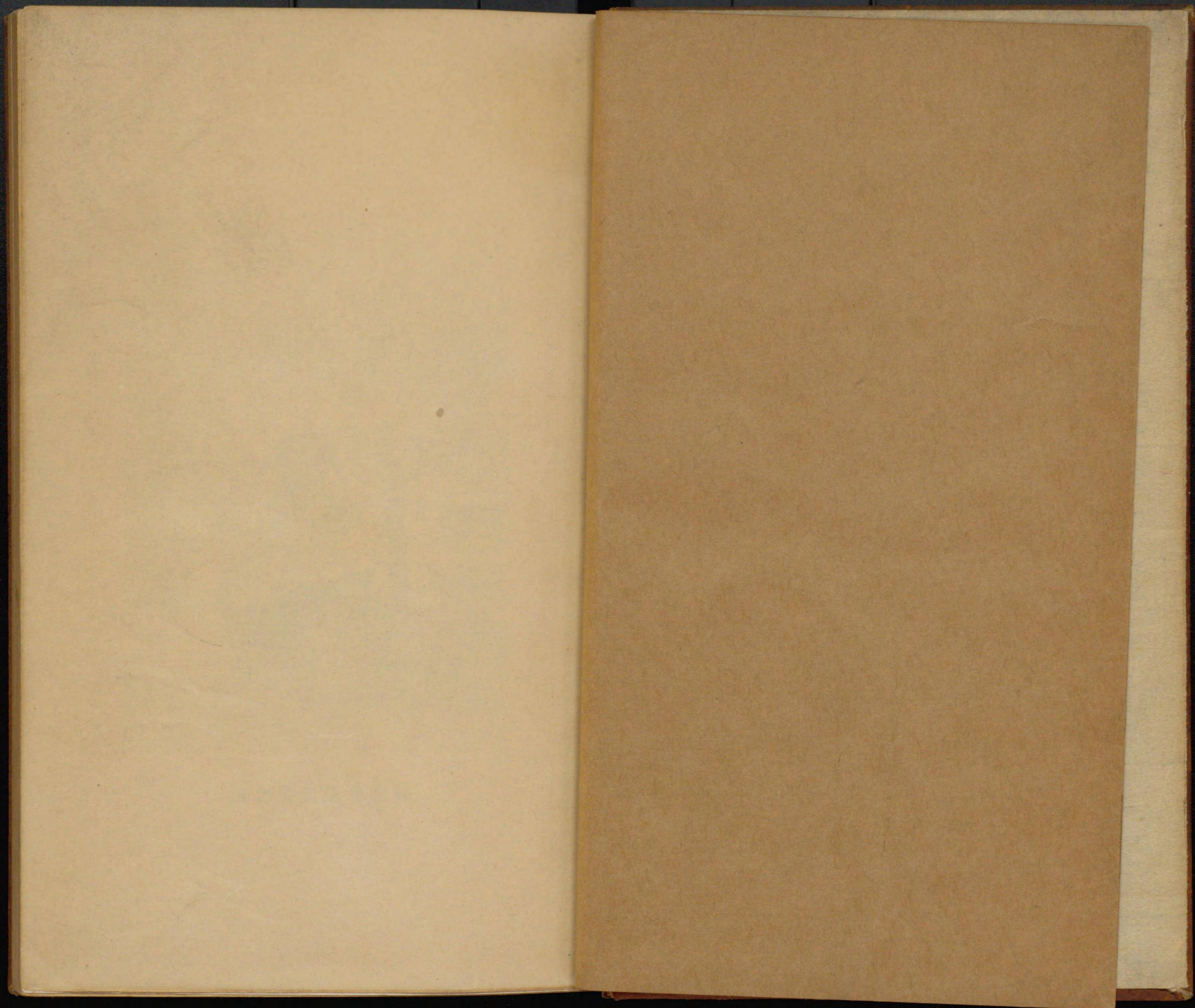


1200701772072

稼
堂
叢
書

三
州
遺
事
上

156
113





圖之裝武生先堂稼



遺

事

前

編



三州遺事緒言

大凡載籍ハ、其人ノ主トスル所ニ由テ、其体異ナリ、ワカ藩富田痴龍翁ノ著、燕臺風雅ハ、其文精金美玉ノ如ク物セラレタレハ、學者文人ニハ珍重セラルレドモ、世俗一般ノ人ニハ通曉シガタケレハ、世ニ遍ネク行ハレス、其意ハ、ワガ藩古來ノ風雅ヲ傳フルニ在テ、其人ヲ詳ニスルニアラス、故ニ風雅ト稱シテ、小傳ヲ附スルノミ、是ソノ体シカルナリ、先師容齋翁、晩年和譯ノ志アリ、一日燕居ノ折、之ニ着手スルトキハ、助力ヲ頼ムト申サレシガ、程ナクコノ世ヲ逝リ、終ニ着手ヲ見スシテ終ヌ、ヤツガレ、ソノ遺志ヲ果サントテ、一年間ヲ偷テ着手功ヲ畢フ、其志ス所ハ、其人ヲ傳フルニ在テ、風雅ニアラス、先師ノ志モコ、ニ在リシナリ、サレドモ風雅ハ、ソノ人精華ノ發スル所ナレバ、其華ヲ見テ其實ヲ察スルニ足ル者ハ、一二首ツ、采テ、ソノ尾ニ附ス、スベテ載スル所ハ、皆コノ意ナリ、

原書ニハ、風雅ノ沿革ヲ述ヘテ、千年以前ニマテ遡テ論スル所アレドモ、其主トスル所ハ、

元和以後ニ在リ、故ニコノ書モ風雅中ノ人物ヲ中編トシ、其以前ノ人ヲ前編トシ、以後ノ人ヲ下編トシテ其他ニ及ヘリ、ソモ〜今日ニ至テハ、我侯爵家ニハ、歷世ノ纂述ヲ命セラレ、縣ニハ縣史ノ編著アリテ、萬遺漏ナキヲ期セラル、コトナレハ、コノ著ノ如キハ、今ハ殆ト覆瓿ノ用ニ充ツヘケレドモ、先師ノ遺志モダシガタク、且數十年ノ勞ヲ吝テ捨ツルニ忍ヒサレハ、叢書ノ中ニ收ムルコト、ハシツ、

且又、古ノ史家ハ、槩シテ名君賢臣學者文人ニ詳ニシテ、農樵百工商賈草莽ノ徒コトツキニ略タルハ、人ノ慊焉タラサル所ナリ、但シ是ヲモ種々ノ書出テ、世ニ弘マルトイヘドモ、老生モ聞見ノ及フカギリ、此方ヲ詳ニシテ彼方ニハ却テ略タルナキニシモアラス、要ハ虛名ヲ抑ヘテ實力ヲ揚グルニアリ、兵ハ精ニ在テ多キニ在ラスト云リ、人モ何カ一節フシアリテ其人傳フヘク、ソノ一節ノナキ人ハ、イカバカリ名高クトモ、ソレハイハユル虛名ニシテ貴フニタラス、故ニオノレ此書ヲ譯スルニ當テハ、前後ニワタリテ、ソノ一節アル人トダニ聞ケハ、口碑ニ傳フル所トイヘドモ必傳ヲ立テ、ソノ詳シキハ後人ニ待ツコト、セリ、其傳ノエタ、ザル者ハ、叢書ノ末ニ一卷ソヘテ其名號ハカリヲ付ス、

老生壯年以來、一塊ノ凝塊シヨリノ如キモノ、胸ニ蟠マリテ撐拄セリ、硯池ノ酒ヲ以テ之ニ澆カザレバ、渙釋セサルナリ、是種々ノ書ニ着手セル所以ニシテ、一ハ古人ノ幽光ヲ發シ、一ハ自家ノ磊塊ニ澆クノミ、其事實ノ穿鑿ニ至テハ、世ニ考證家アリ、老生ノ任スル所ニ非ス、カノ漢ノ太史公ノ如キ、我ガ山陽賴氏ノ如キ、皆文章ニ遊戲セル者ナレバ、其書ニハ、マチガヒ多カレトモ、其人ノ志コ、ニナケレハ、無理ナラス、唯古人ヲ以テ孤憤ヲ洩ラセハ、吾事畢ルトス、マシテ老生ノ如キハ、孤陋寡聞ニシテ、且ツ日暮テ道遠シ、讀マン人ソノ謬ヲ正シテ世ニ教ヘ給ハ、老生死後ノ幸ナリ、

昭和六年歲辛未二月節分日、

稼堂老人識ス、

三州遺事前編目次

卷一

大伴宿禰家持卿

守朝野鹿取

介內藏忌寸繩麿

掾大伴宿稱池主

目秦忌寸八千島

主帳能登臣乙美

史生土師宿禰道良

孝子財部造繼麿

節婦和邇部廣刀自

同今古

菅原右大臣道真公

源順

卷二

六條左京太夫顯輔卿

清原賴業卿

藤原光隆卿井家隆卿

佛御前

長谷部右衛門尉信連

齋藤別當實盛

大豆作彌七

宗良親王

僧瑩山

同大智

同峩山

同大徹

同玄翁

蟪川右衛門尉親當

德大寺實通卿

冷泉為廣卿

能登永閑

芋堀藤五郎

長谷川等伯

同信春

林光明

前編卷一

大伴宿禰家持卿

大伴家持卿ハ、大納言安麿ノ孫大納言旅人ノ男也、天平十八年丙戌閏七月、續紀ニハ九月ニ閏アリ、考フヘシ

越中守ニ任セラレテ下ル、同國射水郡布勢ノ丸山ニ古墟アリ、卿ノ住居セラレシ所ニテ、

水影明神ノ小祠ハ、卿ヲ祭ルナリト云リ、今同國ニ古國府フルコフトイフ所アリ、國府ノアリシ所

也、ソノ京師ヲ發スル時、卿ノ姑坂上郎女イラツメガ餞別ノ歌アリ、

草枕旅ユク君ヲ幸クアレト祝イハヒベス瓶居エツ我カ床ノ邊ニ、

今ノ子ト戀シク君ヲオモホエバイカニカモセムスル術スノ無サ、

前ナルハ道中ノ安全ヲ祈ル也、後ナルハ卿ヲ子ノゴトクオモヒ愛デシナリ、親ヤ姑ノ身ヨ

リミレハ、イツトテモ子ノゴトクオモフハ、古今人情ノ常也、越中ニ着セラレシ後、サラ

ニ又贈ラレシ、

旅ニ往ニシ君シモ着テ夢ニミユ我カ片戀カタコヒノ繁シケケレハカモ、

道ノ中國ナカクニ御神ミカミハ旅行キモシ知ラヌ君ヲ惠メクミ賜ハナ、

前ナルハ我カタ戀ノ繁ケレバニヤ夢ニミユト也、後ナルハ旅行シタルコトモナキ人ナレハ、國ツ神ノ惠ミ賜ヒテヨト也、國守トモナリシ人ヲ旅行スルコトモエ知ラヌトイフ、母姑タル人ノ慈悲也、コノ外、平郡氏ガ女郎ノ、時々便ノ使來レルニツケテ贈リシ歌ドモ、多ク萬葉ニ見ユ、就テミルベシ、

卿ノ越中ニアリテヨメル歌ドモ極テ多シ、詩モ見ユ、ソノ感興ノ歌、

雁ガネハ使ニ來ントサワクラム秋風寒ミソノ川ノ邊ニ、

馬並ナメテイザ打行ナ、澁谷ノ清キ磯間ニ寄スル波見ニ、

天平十八年八月、越中掾大伴宿禰池主大帳使ニ附テ京師ニ上リ、同年十一月任地ニ還リ來シ時、詩酒ノ宴ヲ設ケ、絲ヲ彈ジテ飲樂セラレケルニ、ヲリフシ白雪尺餘地ニ積リ漁舟波ニタ、ヨヒケルヲミテ、

庭ニフル雪ハ千重チヘシクシカノミニ思ヒテ君ヲ我カ待マタナクニ、

白波ノヨスル磯間ヲ漕船ノ揖取ル間マナク思ホエシ君、

コノ池主ノ俄ニ疴疾ニ罹リテ、連旬イタミ苦シミ、百神ニ祈リテ、少シク瘳エツレドモ、身イタク衰ヘテ、花ハ盛ニナリツレドモ、杖ヲ引クニ堪ヘス、一人病牀ニフシケルヲ慰メントテ、

春ノ花今ハ盛ニ匂フラン折リテ頭挿ム手力モガモ、

鶯ノナキチラスラン春ノ花イツシカ君ト手折カザ、ン、

マタ三月上巳ノ日、桃ノ花ミガテラ友ドチト、野客ノ家ヲスギ、樽ヲ開キテ春ヲ賞シ、池主ノ慰ミニモトテ詩ヲ遣ハサレケルモアレド略ス、

立夏四月ニ入りヌレドモ、郭公モナカズ、且又越中ニハ橙橘マレナリトテヨメル、

足引ノ山モ近キヲ郭公月立ツマテニ何カ來鳴カヌ、

玉ニ貫ク花立花ヲ乏トモシシコノ我里ワカニ來鳴ズ有アルラシ、

四月十六日ノ夜、遙ニ郭公ノナキユクヲキ、テヨメル、

奴羽玉ヌバノ月ニ向ヒテ雲公鳥ネハルナク音遙ケシ里遠ミカモ、

射水郡ナル二上山ヲヨメル長歌、

泉河、イ行き回レル、玉笥ツシケ、二上山ハ、春花ノ、咲ケル盛ニ、秋ノ葉ノ、匂ヘル時ニ、
 出立テ、振放見フリサケレハ、カムカラヤ、若干ソコバク太キ、山カラヤ、見カホシカラム、皇神スメカミノ、
 裾見スツノ山ノ、澁谷ノ、崎ノ荒磯ニ、朝和アサナキニ、寄スル白波、夕和ニ、滿來ル汐ノ、彌増
 ニ、絶ユル事ナク、古ユ、今ノ現ニ、斯シコソ、見ル人ゴトニ、掛テ忍バメ、』
 澁谷ノ崎ノ荒磯ニ寄スル波彌重々イヤシクニ古思ホユ、

玉笥二上山ニ鳴鳥ノ聲ノ戀シキ時ハ來ニケリ、

游覽ノ歌猶數々アリ、國司ハ毎年一タヒ屬郡ヲ巡リ、風俗ヲ觀、囚徒ヲ錄シ、冤枉ヲ理シ、
 政刑ノ得失ヲ問ヒ、百姓ノ患苦ヲ察シ、敦ク五教ヲ諭シ、勸メテ農功ヲ務メシメ、郡内ニ
 好學篤道孝悌忠信清白異行ノ郷閭ニ聞エタル者アレハ、舉ゲテコレヲ進ツルト令ニ見エテ、
 國司タル人ハ、必ス巡行アリ、ソノヲリヲリニヨメル、アマタアリ、下ニヒクヘシ、且又
 國守ハ、稅帳使トナリテ京ニ上ルコト年々アリ、一國ノ租稅ヲ政府ニ納メテ、ソノ皆濟帳
 ヲトリテ來ル也、越中大目秦忌寸イミキ八千島ノ館ニテ、卿ノ正稅帳ヲモテ京師ニ上ラル、ヲ餞
 スル歌ニ、

奈古ノ海ノ沖ツ白波重々シククニオモホエンカモ立別レナバ、

トヨミケルニ、返シ

我妹子セコハ珠ニモガモナ手ニ卷キテ見ツ、行カンヲ置テ行カハ惜シチ

布勢ノ海遊覽ノ歌

武夫ノ、八十伴ノ男ノ、思フドチ、心遣ラント、馬並ウマナメテ、遠近振チチコチフリノ、白波ノ、荒磯ニ
 寄スル、澁谷ノ、崎モ徘徊モトホリ、未津マツタエノ、長濱過ギテ、宇奈比ウナヒ河、清キ瀬ゴトニ、
 鵜河ウカハタチ、カ往ユキカク往キ、見ツレドモ、ソコモ飽マガニト、布勢ノ海ニ、船浮居ウケスエテ、沖ヘ
 漕コキ、邊ニ漕ミレハ、渚ニハ、アヂムラ騒ギ、嶋ミニハ、小ヌレ花咲キ、許多コ、ハクモ、ミ
 ノサヤケキガ、玉笥ツシケ、二上山ニ、這フ薦ツタノ、行ハワカレズ、アリ通ヒ、彌年イヤノ葉ニ、
 思フ友トチ、カクシ游バム、今モミル如ゴト、

布勢ノ海ノ沖ツ白波アリカヨヒ彌年ノハニミツ、忍ムシスハ、

四月二十六日、掾大伴宿禰池主ガ館ニテ、再上ラル、ヲ餞スル時ノ歌ニ、

玉鉾ノ道ニ出タチ別レナハ見ヌル久シミ戀シケムカモ

二十七日、立山ヲヨメル長歌

天^{アマサカ}避^{ヒナ}ル、鄙^{ヒナ}ニ名カ、ス、越^{コエ}ノ中、國^{クニ}中^{ナカ}コト、山^{ヤマ}ハシモ、繁^{シバ}ニアレドモ、河^{カハ}ハシモ、澤^{ワタ}ニ行ケドモ、皇^{ミコ}神^{カミ}ノ、領^{ウシ}イマス、新^{ニホ}川^{カハ}ノ、ソノ立^{タチ}山^{ヤマ}ニ、常^{トコ}夏^{ナツ}ニ、雪^{ユキ}フリシキテ、オバセル、片^{カタ}貝^{ガイ}川^{カハ}ノ、清^{スガ}キ瀬^セニ、朝^{アサ}宵^ヨゴトニ、起^{タツ}霧^{キリ}ノ思^{オモ}ヒ過^スギメヤ、ア^アリ通^トヒ、彌^{ヨシ}年^{トシ}ノハニ、餘^{ヨリ}所^{トコロ}ノミモ、振^{フリ}放^{サケ}見^ミツ、萬^{マン}代^{ダイ}ノ、語^{コト}ラヒ草^{クサ}ト、未^イ夕^マ見^ミヌ、人^{ヒト}ニモ告^{ツク}ム、音^ネノミモ、名^ナノミモ聞^クキテ、トモシフルガネ、

立山ニフリ置ケル雪ヲ常夏ニ見レトモアカス神カラナラシ、

片貝ノ河ノ瀬清ク行ク水ノ絶ユルコトナクアリ通ヒ見ム、

礪波郡ノ雄神河ヲ

ヲガミ河、紅ニホフ乙女ラシ葦^{アシ}附^{ツキ}トル湍^{ヒラ}ニタ、スラシ、

婦負郡ウサカ河邊ヲワタリテ

ウサカ川渡ル瀬多ミコノアガ馬^{ウマ}ノアガキノ水^{ミヅ}ニ衣^{キヌ}沾^{ヌル}レニケリ、

ソノワタリニテウカヒヅカヒヲミテ

婦負河ノ早キ瀬ゴトニ篝火^{カガリ}サシ八十伴ノ男ハ鶴川タチケリ、
新河郡延槻河ヲワタリテ、

立山ノ雪シ消ラシモ延槻ノ河ノワタリ瀬澄ツカスモ、

氣多大神宮ニマキラントテ、

汐路^{シホヂ}ウラ徒^タ越^コ來^キレハ羽咋ノ海朝和シタリ船楫モガモ、

能登部香島津ヨリ船出シテ熊木村ヲサシテユク時ニヨメル、

飛^ト翅^{フサ}タテ船木伐ルトイフ能登ノ島山ケフミレハ木立^{コト}繁^{チシケ}シモ幾代^{カミ}神^{カミ}ヒソ、

香嶋ヨリ熊木ヲサシテコグ船ノ楫取間ナク京シオモホユ、

鳳至郡ノ饒石河ヲワタルトテ、

妹ニ逢ハズ久シクナリヌ饒石河清キ瀬ゴトニ水占ハヘテナ、

珠洲郡ヨリ舟出シテ知沼ノ郷ニ還ル時、長濱ノ浦ニ泊テ、月ノサシイツルヲミテ、

珠洲ノ海ニ朝開^{ヒラキ}シテ漕來^{ウラ}レハ長濱ノ灣ニ月照ニケリ、

天平二十年春三月二十三日、左大臣橘家ノ使者造酒司令史田邊史福磨ノ來リシヲ饗^{アルシ}シテ、

ソノ明日、布勢ノ水海ナト游覽セシメケルニ垂水邊ノケシキヲメデ、福鷹ガ、

神サブル垂水邊ノ崎漕メグリミレドモ飽ズイカニ我セム、

トヨメルニ、卿ガ園女ノ土師トイフモノ、

タルヒメノ浦ヲ漕ツ、ケフノ日ハ樂シク游ヘ言繼ニセム、

トヨミケルニ卿モ、

タルヒメノ浦ヲ漕ク舟楫間ニモ奈良ノ我家ヲ忘レテ思ヘヤ、

トヨミシトソ、垂水賣ハ今ノ氷見ノ郷也、畧シテヒミトイヘル也、

同年ノ夏マテ獨居シケルニ、五月十七日妻ナル人ノ使ヲモマタデ尋ネコシ、ヨシ、ソノ時土師ノヨメル、

サブル子カ齋キシ殿ニ鈴カケヌ早馬下レリ里モ轟ニ

天平勝寶二年二月十八日、懇田地ノ事ニヨリテ、礪波郡主帳多治比部北里ガ家ニ宿リシニ俄ニ雨風タチテ、辭シ去ルコトヲエス、

藪並ノ里ニ宿カリ春雨ニ籠リツ、ムト妹ニ告ツヤ、

四月十二日、布勢ノ水海ニ游ヒテ、舟ニテ田子ノ浦ニツキ藤花ヲミテ、

藤波ノ影ナル海ノ底清ミ雫ク石ヲモ珠トソ我ミル、

三年七月十七日、卿、少納言ニ進ミ給ヘリ、卿、國守トナリ給シヨリ既ニ六年、期滿チテ、遷替ノ運ニアヒ、此地ノ事、末々マテモ忘レストテ、歌二首ヨミテ、朝集使掾久米朝臣廣繩カ館ヘ送リシ、

荒玉ノ年ノ緒長ク相見テシ、カノ心ヒキワスラレメヤモ、

岩瀬野ニ秋萩凌キ馬並メテ初鷹狩ダニセデヤ別レム、

八月五日、大帳使ニ附テ、京師ニ上ラル、四日ノ日、介内藏伊美吉繩磨、厨ノ饌ヲソノ館ニ設ケテ、卿ヲ餞シケル時ヨミシ、

シナサカル越ニ五年住々テ立別レマク惜シキ夜カモ、

五日ノ朝、卿出立アリシカハ、國司次官以下ノ諸僚皆々見送テ、射水郡大領安努君廣島門前ノ林間ニ豫テ餞別ノ筵ヲ設ケテ別レヲヲシミケルニ、内藏伊美吉繩磨カ蓋ヲ捧ケテヨメル歌ニ和シテ卿ノヨミ給ヘル

毛錡ノ遺ニ出立往ク吾ハ公カ事跡ヲ負テシ往カム、

神護元年八月、太宰少貳トナリ、累進シテ延暦三年二月兼持節征東將軍トナリ、慶雲五年五月、重病ニ臥シ、度者二十人給ハリ、和銅元年正月正二位ニ叙セラレ、右大臣ニ任セラレ、養老四年八月三日薨去、年六十二、詔アツテ太政大臣正一位ヲ贈ラレ、諡シテ、淡海公トイヒ、近江國十二郡ニ封セラル、我北越ハ、古蝦夷侵入シテ一種ノ蠻俗ヲナシ、人氣犇猛ニシテ、王化ヲ蒙ラス、獸跡ハ國中ニ交ハリ、土民ハ獵矢ヲ荷ウテ東西ニ奔リ行クニ橋梁ナク、居ルニ筵席ナク、ソノ狀詞ニモ絶エタル所ナリシヲ、卿ノ越中守トナリテ下ラル、諸郡ヲ巡行シ、土民ヲ教導シ、風ヲ易ヘ俗ヲ變シ、高山大川河海池沼イタル所、風詠ヲ題シ、游跡ヲ留メラレシカハ、コレニ隨ツル司々、即、伊美吉繩鷹、掾大伴宿禰池主、介内藏、及久米朝臣廣繩、大目高安倉人種鷹、少目秦伊美吉石竹、史生、土師宿禰道良、射水郡大領安努廣嶋、礪波郡主帳多治比部、羽咋郡主帳能登臣乙美ナドノ人々モ、皆文雅ニ心ヲ用ヒテ、互ニ相唱和シ、僻陬荒蒙ノ地、一朝煥然トシテ、名地絶勝ノ區トナリ、ソノ游覽ノ蹟、歴々トシテ今ニ存シ、ソノ風雅ノ詞、粲々トシテ萬葉ニ薫リ、土地ノ夷言ニ

サヘ、大和詞ヲ移シ給シヨリ、北越三州質朴鄙野ノ風ニモ似ス、學士文人ノ天下ニ冠タルハ、ソノ後ノ世々ノ教化ニモ固ヨリヨルトハイヘトモ、抑亦卿在任六年、混沌開拓ノ餘澤ニアラズンハアラス、今ソノ傳ヲ述フルニ及ンテ、聊感ヲ記スナリ、詳ナル所ハ、日本史ニ傳アリ、且又三州志、檜葉越ノシヲリナトニ詳ケレハ、付テ見ルヘシ、今ハ卿ノ在任中ノ事ノミヲ萬葉ノ辞ニ徵シテ記シ、ソノ風化ノ原スル所ハ、遠ク千年以前ニアルコトヲシラスルノミ也、猶ソノカミノ介椽目ナトノ名高キ人ヲノ歌ドモヲイサ、カツ、下ニ附ス、

天平勝寶三年正月三日、介内藏忌寸繩鷹カ館ニ、宴樂ノ時、雪フリ、夜ニ入リテ諸人酒酣ナリシ時、アルジ内藏伊美吉繩鷹カ歌

打羽フリ鶏ハ鳴クトモカクバカリフリシク雪ニ君イマサメヤモ、

天平十九年四月二十六日、家持卿稅帳使トナリテ京ニ上リ給シ時、越中國介忌寸繩鷹

我妹子カ國ヘマシナハ郭公鳴ンサ月ハサブシケムカモ、

又多古灣ノ藤花ヲミテ、

多枯ノ浦ノ底サヘ匂フ藤波ヲカサシテユカンミヌ人ノ爲、

掾大伴宿禰池主ハ、家持卿ト同シク來任セシニヤ、後越前掾ニ轉任セシガ、家持卿ノ猶越中在任ノ時ハ、度々歌ヲ遣ハシケルガ萬葉ニミユ、歌ヨクヨミテ好敵手タリ、卿モナツカシクオモハレケム、人並ナラス愛セラレタルモノ、ゴトク、ソノ歌ドモ

アマサカル鄙ニアル我ヲウタカタモ紐解サゲテオモホスラメヤ、

コノ歌ハ、故郷ノ妻ニ贈リシ也、帶ヲトカズオモフナルヘシトノ意也、來任中圖ラス疋疾ニカ、リ、今モ死ナンバカリ危クミエシ時ヨメル、

大君ノ、任ノマニマニ、丈夫ノ、心フリオコシ、足引ノ、山坂コエテ、天サカル、鄙

ニ下リテ、息氣ダニモ、未休メズ、年月モ、幾ラモアラヌニ、現身ノ、世ノ人ナレハ、

打靡キ、床ニコイ臥シ、痛ケクシ、目ニ異ニマサル、母親ノ、母ノ御事ノ、大船ノ、

ユクラユクラニ、シタ戀ニ、イツカモ來ムト、待タスラン、心サブシク、ハシキヨシ、

妻ノ御事モ、明暮ハ、門ニ寄立チ、衣手ヲ、折返シツ、夕サレバ、床打拂ヒ、奴羽

玉ノ、黒髮シキテ、何時シカト、歎カスランゾ、妹モ夫モ、若キ兒共ハ、遠近ニ、騒

キ啼クラン、玉鉾ノ、道ヲタドホミ、間使モ、遣ル由モナシ、思ホシキ、言傳ヤラス、

戀フルニシ、心ハモエヌ、玉環ハル、命ヲシケド、爲ン術ノ、便ヲ知ラニ、斯シテヤ、

アラシ男スラニ、歎キフセラシ、

世ノ中ハ數ナキモノ歎春ノ花ノ散ノマガヒニ死ベク思ヘハ、

山河ノソギヘヲ遠ミハシキヨシ妹ヲ逢ミズ斯クヤナゲカム、

誠ニ哀レナル歌ナリ、天平二十年春三月比、越前國掾ニ轉セシトミユ、同年三月十四日、深見村トイフ村ニ至リテ、北方ヲ望ミ、家持卿ノ方ヘ、常ニ芳徳ヲ念ヘル、何レノ日ニカ休マン、殊ニ隣近ナレハ、忽チ戀情ヲマシヌ、シカノミナラス、先書ニ暮春ヲシムヘシ、促膝期シガタシ、生別ノ悲、復何ヲカイハントイヒ遣ハシ、尙馳心ニ堪ヘス、紙ニ臨ミテ惆然タリトカキノヘテ、十五日ニ遣シケル歌ドモ、

月ミレハ同シ國ナリ山コソハ君ガアタリヲ隔テタリケレ、

コノ歌ニ古人云トアリ、古人ノヲ引ケルニヤ、

櫻花今ヲサカリト人ハイヘト我ハサブシモ君トシアラネバ、

相思ハズアルラン君ヲアヤシクモ歎キ渡ル人ノ問フマテ、

掾久米朝臣廣繩、天平二十年三月二十六日、ソノ館ニテ、田邊史福麿ヲ宴セシニ、

此ノ暮ニナリヌルモノヲ郭公何カ來鳴ヌ君ニアヘル時、

多古ノ浦ノ藤ヲ、家持卿ダチト伴ヒテ見ニユキテ、

聊ニオモヒテ來シヲ多古ノ浦ニサケル藤見テ一夜ヘヌヘシ、

天平十八年八月、家持卿カ館ニテ、宴樂ノ時、大目秦忌寸八千鳥

日クラシノ鳴ヌル時ハ女郎花咲タル野邊ヲ行キツ、見ヘシ、

又ソノ館ニテ、

奈子ノ海人ノ釣スル舟ハ今コソハ舟バタウチテアヘテ漕テメ、

ソノ館ハ蒼海ニ臨ミテ景色ヨシ、コレニヨツテ、主人コノ歌ヲ作りシヨシノ註ミユ、

羽咋郡主帳能登ノ臣乙美、天平二十年夏四月一日、掾久米朝臣廣繩ノ館ニテ、

明日ヨリハツキテ聞エンホト、キス一夜ノカラニ戀ワタルカモ、

史生土師宿禰道良

ヌハ玉ノ夜ハ更ヌラシ玉筒二上山ニ月傾ヌ、

按ニ家持卿ノ越中ニアリテ妻トセラレ遊行女、土師トイヘル女ハ、コノ家筋ノモノナラ
ン、

仁明帝ノ比、承和元年甲寅從五位下石川朝臣越智人越中介トナル、コノ人文才アリ、經國
集殘篇第十四ニ五言奉試詠之詩一首載ス、

承和九年春正月、朝野鹿取參議越中守ヲ兼ヌ、鹿取ハ朝野道長ノ養子ニテ、少キ時大學ニ
游ヒ、頗史漢ニ涉リ、和漢音ヲ兼ヌ、ソノ傳日本史ニ詳也、文華秀麗集ニ詩數首見ユ、詩
ハ引クマテモナケレハ畧之、

孝子財部造繼麿

財部造繼麿ハ、加賀能美郡ノ産ナリ、性至孝ニシテ、父母存命ノ中、イサ、カモ定省ノ禮
ヲ失ハス、ナクナリシ後モ、操行ヲ變セス、朝夕父母ヲコヒシタヒ、隣近ノモノ皆ソノ孝
心ニ服セサルモノナク、コノ事天朝ニキコエケレハ、承和三年十一月、敕アリテ、位三階
ニ叙セラレ、終身ソノ租ヲ免ジ、門閭ニ旌表シテ、世ノ子弟ヲ勸奨セシメラル、令ニスヘ

テ孝子順孫義夫節婦ノ志行高ク國郡ニキコエタルモノアル時ハ、太政官ニ申シテ、ソノ門ニ表シ、ソノ課役ヲ免セシム、モシ精誠感通ノモノアル時ハ、別ニ優賞ヲ加フトアリ、是コノ賞アリシ所以ナリ、承和ハ仁明天皇ノ年號ナリ、

節婦和邇部廣刀自

和邇部廣刀自、年十四歳ニシテ、山城國人秦眞勝ニ嫁シ、眞勝身マカリシ後、哀慕ヤマス、冢側ニ廬ヲ作りテ墓守スルコト三十餘年、一口ノ如ク、誠ニ殊勝ノ至リ也トテ、齋衡元年甲戌五月爵二級賜フ、女ハ加賀ノ人也、津田鳳卿ガ椋部考古游記ニ云、按ニ姓氏錄ニ曰ク、和邇部ハ、小野朝臣ト同祖、彦姥津ノ命四世孫、矢田宿禰ノ後ナリト、續日本紀モ同シ、且ツ前ニハ、並河天民之ヲ山城府志ニ載セ、後ニハ水戸史コレヲ列女傳ニ載セ、ソノアト炳然タリト云リ、ソモソモ廣刀自ハ、イカナル者ノ子ナリケム、ソノ傳モ詳ナラザレハ、身分ノイヤシキモノナルコト、ウツナカルヘシ、シカルニ、カ、ル名門ノ人ニ嫁シテ、ソノ家名

ニモハチヌ貞婦ノ名ヲ留メテ、世ノ物學セル女ヲ、アシモトニフマヘタル、誠ニ仰クヘク、尊ムヘシ、

節婦今古

節婦今古ハ、加賀國加賀郡後河北郡ニ改ム大野郷今石川郡ニ屬スノ産ナリ、年十三ニシテ、加賀國權掾オホミツ大神高名ニ嫁シ、二十餘年ヘテ、夫身マカリケレハ、朝夕悲慕ヒ、墓ノ側ニ廬ヲ作り、年ヲヘテ去ラス、哭泣ノ聲、日夜絶エス、其事朝廷ニキコエテ、仁和元年己巳、十二月二十九日、位ヲ二階授ケ、ソノ田租ヲユルシ、ソノ門閭ニ表シ、モテソノ貞節ヲ賞シ給ヒキト云、今石川郡二塚郷北笹塚村ノ前ニ、一丘ノ古塚アリ、俗ニ御丸塚ト稱ス、加茂直兄譽塚ノ訛ナルヘシ、トイヒシヨシ、此説信カダシ、丸キ故丸塚也、サレトモ、タゞ人ノ塚ニハアルマジ、ト里人ノオモフヨリ尊ミテ御丸塚トハ云ルナリ、數株ノ老松ソノ上ニ生シ、昔ヨリ狐ノスミカトナリ、ソノ數イクツトモイハス、コレヲ御丸塚ノ狐トイヒ傳ヘテ、近年イカナルモノ、イヒ出ツラン、ソノ狐ヲ念スレバ、オモフコト叶フトテ、ハルバル歩ヲハコビテ願カケシモノクワン幾人トイフコトヲシラスアリケルガ、今ハソノサタモヤミ、狐モスマ

ズナリス、天保ノ頃、津田鳳卿コノ地ニ游ヒ、ソノ事ヲ椋部考古游記ノ中ニ載セテ、世ニ傳ヘタレトモ、知ルモノ少ナク、吾師モ一篇ノ文ヲカキテ、世ニシラシメラレケルヲ、村ノ人モ傳聞キテ、今ハソレト恭敬ヲ加フルニイタレリ、今古ノ母ハ、古姓箭集ナリ清河ノ子ニシテ、コレモ年二十一歳ノ時、ハシメテ人ニユキ、ソノ夫身マカリシ後、再ヒ嫁セス、年七十六歳ニテ、ソノ家ニ終リシト、三代實錄ニ見ユ、母子アトヲツギテ、貞節ヲ虧カザル、只ソノ人一人ノ譽ナルノミナラズ、人タルモノ、龜鑑ヲコノ國ニ掲ケシトオモヘハ、サテモマタコノ國ノ譽トイフヘキ也、先師ソノ文ノ尾ニ

タヲヤ女ヨ今古塚ノアト、ヒテアヤシキ道ニフミナマヨヒソ、

余一年美濃ノ養老ニ游ヒシニ、醴泉ノ側ニ一片ノ石ヲ立テ、細川潤次郎ヌシノ詩ヲ刻ス、ソノ詩ニ

一脉甘泉似綠醴、由來至性動山靈、學童今日皆豚犬、孝子不曾讀孝經、

イツレモ今日學童ノ針砭ナリ、教育ハ學童ノ肥料ナレトモ、コノ肥料ヲ加フレハ加フルホ

ド、醜草生茂リテ、良苗生セス、歎スヘシ、

菅原右大臣道真公

菅原右大臣道真公ハ、字ハ三、幼名ハ阿呼、從三位菅原是善ノ第三子也、是善、文德帝御即位ノ年、正五位下加賀權守ヲ授ケラレ、元慶四年ニ至リテ卒ス、年六十九、公幼ニシテ穎悟、十一歳ノ年、父君島田忠臣ヲシテ詩ヲ試ミシム、公即坐ニ賦シテ曰ク、

月耀如晴雪、梅花似照星、可憐金鏡轉、庭上玉房馨、

是善コレヲ見テ、蘭生シテ芳シトイフ、信ナルカナト嘆美セラレシト也、貞觀十四年、渤海ノ國使、能州ノ海岸今ノ福浦ニ着ク、ヨツテ加賀ノ便地ニ移シオカル、時ニ公存問使トナリテ、正月初旬、加賀ニ下向アリ、十二日間滞在、尋デ入京ノ時、接伴役トナリテ唱和アリ、元慶七年ニ至リテ、加賀ノ權守ニ任セラレ、コレヲ喜ハレシ七律アリ、曰ク、

喜被遙兼賀員外刺吏

家門認得樊箕裘、最喜先君任此州、月俸曾因舍哺飽、泉途更欲計恩酬、無奈北陸行殘雪、只望西成遇大秋、腰底三龜知意否、仁

風爲我漲春流、

ソノ自註ニ、予先辱三官、文章博士式部少輔ヲ云重兼州任、恩澤無極、士林榮之、トアリ、ソノ加賀ニ下ラル、途中ノ詩アリ、菅家文章ニミュ、

祈神到越州二首

行々山不盡、念々意無聊、步曆三秋暮、離家五日朝、白雲何澗口、紅樹幾崑腰、每有涼氛判、空令旅思焦、整粧寒蓐食、催駕曉燈挑、委曲斜穿路、傾○邪聳橋、地危常轉石、天近暫摩霄、來省人身換、宛如世界超、疲驂嘶布水、石川郡野々市河老僕困綿嶠、能美郡和田山指過僧持錫、逢迎客採樵、低頭臨邑里、拳手謝塵囂、戶牖基千峙、江湖帶一條、薜蘿新衲結、榆莢古錢銷、解渴流泉漱、承温落葉燒、煙嵐心慘々、骨髓氣蕭々、豈趁飛丹術、非求束帛招、拜神趨社廟、齋幣拂災祆、日脚光陰走、年華物色凋、風驅應達旦、月送自通宵、問著程多計、初知向復遙、其一

海上月夜

千時祈神到越州

秋風海上宿芦花、况復蕭々客望賒、語笑心期聲鬧浪、詩篇口號指書沙、行遲淺草潮痕沒、坐久深更月影斜、若放往來憐勝境、越州買得一儒家、

コノ二首、公カ恤民ニ厚キヲ見ルニタル、我尤モソノ豈趁飛丹術云々ノ數句、若放往來云々ノ二句ヲ拜讀シテ、時事ノ感、ヤムコトアタハス、我神ニ祈ルハ、神仙ノ術ヲ學ハントニモアラス、束帛ノ招ヲ求ムルニモアラス、幣帛ヲ神前ニ供ヘテ、默禱スル所アルハ、只災祆ヲ掃ヒテ蒼生ヲ救ハントテ也、又我ノ越州ヲエタルヲ喜フハ、オノカ利慾ヲ窮メントニハアラス、家ハコレ元來一寒儒也、只政務ノ暇、逍遙ノ自由ヲ得テ、勝境ヲ探リ、マタ踏マサル所ヲフミ、未見サル山ヲ見ルコトヲエハ、一寒ノ儒生ニテ、越州ノ山水ヲカヒエタルト同様也、コノウヘノ望ミ何カアルベキゾトナリ、ソノ雅量ノ洪大ナル、恤民ノ深切ナル、カクテコソ空前絶後ノ名賢、日東一人ノ文窟トハ稱セラル、ナレ、殊ニ菅公ハ、我舊藩君ノ祖神也、祖神ニマシマシテ、父子二世マテ、加賀ノ權守トナリ給ヒテ、コノ國ノ

民ヲ養ヒ、人ヲ教ヘ玉ヒシ後、數百年ヲヘテ、ユクリナクソノ末裔高德公ノ尾張ヨリ再ヒ
 コノ藩ニ封セラレ、三百年間ソノ芳蹟ヲ繼キテ、マスマス教化ヲ施シ、民生ヲ安ンシ給ヒ
 シコト、返ス返ス冥感幽契ノアリシコト、ゾオモヒハカル、按ニ公ノ歸京セラレシハ、
 仁和二年ニテ、ソノ在任ハ僅ニ三年バカリナリ、サレトモ、ソノ流風餘韻ハ、格別ナレハ、
 コノ國ニ係リシ詩ナトヲ、コ、ニ記シテ、後ノ人ヲシテ、神德ノ廣大ナル所ヲシラシムル
 也、ソノ詳ナルコトハ、國史ニ本傳アレハ、記スルニ及ハス、ソノ著述ハ、類聚國史二百
 卷、諸儒ト撰ヒ給ヒシ三代實錄五十卷、菅家萬葉集、菅家文章十二卷、菅家後集一卷、菅
 家和歌集一卷、及昭明文選訓點、王義之蘭亭帖等ナリ、文選ノ訓點正本ハ、壬生坊城家ニ
 傳フトイヘリ、コノ餘二十餘種ノ書目、嘗テ我藩侯松雲公ヨリ高辻總長卿ニ御尋アリシト
 キク、延喜元年太宰權神ニ貶セラレ、三年二月二十五日、配所ニ於テ薨シ給ヒキ、年五十
 九、安樂寺ニ葬リ奉ル、延長元年三月宣旨アリテ、本官ニ復シ正二位ヲ贈ラレ、天曆元年、
 祠ヲ右近馬場ニ立テ、祀ラル、北野ノ文廡是也、一條帝ノ正曆四年五月、再敕使ヲ太宰府
 ニ遣ハサレ、太政大臣正一位ヲ贈リ給ヒ、神德イヨイヨイヤチコ也、

源 順

源順ハ、左馬允源攀ノ男、弘仁帝四代ノ孫ナリ、博聞強記文ヲ屬^ツリ詩ヲ賦シ、且歌ヲヨク
 ス、壯ニ及テ名ヲ進士ニ舉ケ、煇學院ニ直シ、學生ノ身ヲ以テ選ハレテ、河内掾清原ノ元輔、
 近江掾紀ノ時文、讚岐掾大中臣能宣、御書歌所坂上ノ茂樹トトモニ天曆五年宣旨ヲ蒙リテ、昭
 陽舍ニ於テ、後撰和歌集ヲ撰ヒ、カネテ古萬葉集ノ讀解ヲ試ミタル、コレヲ世ニ梨壺ノ五
 人ト云傳フ、梨壺トハ昭陽舍ノ事ナリ、時ニ左近衛少將藤原朝臣伊尹ヲ、ソノ別當ニ任シ、
 帝ミ、ツカラ宣旨ヲ書シテ賜ヒシ時、順ソノ制詞ヲ書ケル中ニ、雄、劔、在、腰、拔、則、秋、
 霜、三、尺、雌、黃、自、口、吟、又、寒、玉、一、聲、ノ句アリ、時人稱シテ名句トイヒアヘリケル
 トゾ、時ニ年四十一、カ、ル文才ノアリシ人ナリシカトモ、トカク官途沈滯鬱々トシテ樂
 マス、嘗テ河原院ニ游ヒテ、賦ヲ作り、源左大臣融カ奢侈ヲ窮メシヲ刺ル、ソノ文中ニイ
 ヘラク、

嗚乎黃閣早ク闕チテ翠微登リ易シ、脚ニ信セテ彼ノ織草ヲ踏ミ、手ヲ舒ヘテ此ノ垂藤
 ヲ援ク、何ヲ携ヘテカ來游フ、屈曲ノ横首杖、誰ニ向テカ往事ヲ語ラム、一兩ノ白眉

僧、我固ニ知ル陵谷猶遷リ、海田皆變ス、何ノ地ニカ萬古ノ形体ヲ同クシ、誰家ニカ百年ノ游宴ヲ全クスル、強吳滅ヒテ荆棘アリ、姑蘇臺ノ露瀼々タリ、暴秦衰ヘテ虎狼ナシ、咸陽宮ノ烟片々タリ、何ソ唯涼風坊中一ノ河原院而已ナランヤ、原漢文

ソノ題ニ人事則非、改之僧院ヲ以テ韻トストアリ、按ニ左大臣ノ逝去セラレシ後、間モナク僧院ニ改メラレシト見ユ、今ノ本願寺ノ枳殻殿ハ、即ソノカミノ遺趾ナリトイフ、ゲニモ盧生カ榮華ノ夢ハ五十年、ソノ邯鄲ノカリ枕、粟飯カシク程ゾカシト古人ノイヒシモ理也、順ノソノ地ニ游ヒテ、コレヲ刺リ給シモ、カタガタソノ身ヲカコチシ也、

扱順ハ、天曆十年、勘解由ノ判官トナリテ、六年ノ勞ヲ積ミシハ、古ニモソノ例ナシトテ、應和元年ノ暮ニ羸馬ノ形ヲ作りテ、勘解由長官朝成朝臣ニ遣シケル長歌アリ、

新タマノ、年ノハタチニ、タラザリシ、常盤ノ山ノ、山寒ミ、風モ障ラヌ、藤衣、再立チシ、秋霧ニ、心モ空ニ、マドヒソメ、ミナ白雲トナリシヨリ、物オモフコトノ、葉ヲ繁ミ、』消ヌヘキ露ノ、夜半ニオキテ、夏ハ渚ニ、燃ワタル、螢ヲ袖ニ、拾ヒツ、冬ハ花カト、ミエマガフ、木ノ間木ノ間ニ、降りツモル、雪ヲ袂ニ、聚メツ、父ミ

緑衣、六位ノ
袍ヲイフ、勘
解由判官ハ六
位也、
ユモハユメモ
ノ略カ、

テ出シ、道ハ猶、身ノ憂ノミニ、アリケレバ、コ、モカシコモ、苜根ハフ、下ニノミ
コソ、沈ミケレ、』誰九ツノ澤水ニ、鳴ク鶴ノ音ハ、久方ノ、雲ノ上マテ、隠レナク、
高ク聞エテ、甲斐アリト、イヒ流シケン、我ハナホ、カヒモナギサニ、満潮ノ、世ニ
ハ辛クテ、住ノ江ノ、松ハ空シク、老ヌレド、緑ノ衣、脱變ヘン、春ハ何時トモ、シ
ラ波ノ、波路ニイタク、行カヨヒ、ユモコリアヘズ、成ニケル、』船ノ我ヲシ、君シア
ラバ、アハレ今ダニ、沈メジト、海人ノ釣繩、打延ヘテ、挽クトシ聞カハ、物ハ思ハジ
コノ歌ナト常人ヨリミレハ、誠ニ官ヲ貪ルヤウナレトモ、順ノ才ヲモテイハ、勘解由ノ
判官ナトニ、六年バカリモオキシハ、ヲシトイハンモ疎ナリ、ソノ身ノイカバカリクヤシ
クヤオモハレケン、ソノ情、詞ニアラハレテアハレ也、唐ノ韓退之トヤラン人ノタグヒナ
ルヘシ、按ニ家集ニ、應和元年七月十一日ニ、四ッナル女子ヲウシナヒ、同年ノ八月六日
ニ、又イツ、ノ男ノ子ヲウシナヒテ、無常ノオモヒ、事ニフレテオコリ、悲ノ涙乾カス、
古萬葉集ノ中ニ、沙彌滿誓ガヨメル歌ノ中ニ、世ノ中ヲ何ニ、譬ヘントイヘルコトヲトリ
テ、頭ニオキテヨメルトテ、歌十首見ユ、コノ歌ノ初メニ、コノ事ヲイヘルヲミレバ、同

年ノクレニヨミシナルヘシ、又常盤山ハ、山州葛野郡ニアル名所也、源常ノ常盤亭ノ山莊ヲオキシハ、同郡雙丘ノ南常盤村ニアルヨシ、順モソノ邊ノ山ニ住マレシナルベシ、同二年正月、東宮ノ藏人ニナリテ、同月ノウチニ式部丞ニウツレリ、ソノ時オモヒヲノヘテ、右近ノ命婦ニ遣シケル、

挽ク人モナシトワビツル梓弓今ゾウレシキ諸矢シツレハ、

前ノ長歌ヲ長官ニ奉リシニヨリテアゲラレシナルヘシ、サレトモ順ノ志ハ政務ノ官ニアリシ也、コレニヨリテ康保中ニ至リテ淡路守ニ補セラレンコトヲ請ハレシニ、許サレス、ソノ心ノ不平ハ、下總守藤原季高ガ國ニ下ルニヨミテ遣シケル歌ニテシラルヘシ、

君ハハヤ人ナミナミニ出立テ、沈ミニシツム我ニアフナヨ、

天元三年、伊賀伊勢守ニ任セラレンコトヲ請ヒシモ、マタ許サレス、順憤懣ニタヘス、尾ノナキ牛ノ歌ヲ作りテ、ソノ懷ヲ述フ、ソノ文本朝文粹ニ見エタリ、カ、ル驥才ヲ沈淪セシメテ露モ省ミス、都モ鄙モ盜賊ノ巷ト化シケル、ソノ外官ヲ望マレシモ、亦已ムコトヲエザルニ出シナルヘシ、ソハ歌中ニ無尾牛ノ五徳ヲアゲタルニテモ、ソノ志察スルニ餘アリ、帝コレヲ憐ミテ漸ク能登守ニ任ジ給フ、ソノ下ラントスル、右衛門督藤原將軍ノ宅ニテ餞別アリ、ソノ時オノオノ詩ヲ作りテ慶滋保胤、ソノ序ヲ書ケリ、是モ文粹ニ見ユ左ノ如シ、

春日於右監門藤將軍亭、餞能州源刺史赴任、勸醉惜別、慶保胤

右監門藤將軍、花下移榻、月前命觴、餞源能州、重文道也、刺史雖三三
百盃、莫敢辭、邊土是不醉鄉、此一兩句可重詠、北陸豈亦詩國、古人
惜其一日不見、况將四年相隔哉、故以別恨、宜代離歌云爾、

又續後拾遺集ノ中ニ

源順能登守ニテ下リ侍リケル時申送リケル 中務

何クゾト待ホトスギナバ白山ノ雪間ノアトヲ尋ネザラメヤ、

ミヅカラノ歌ハ家集ニ

天元三年ノ春、能登守ニナリテ下ルニ、一條大納言ノ家ノ人々餞スル日ノ歌
越ノ海ニ群レハキルトモ都鳥都ノカタゾ戀シカルベキ、
家集ニ天徳トアルハ誤ナリ

同シコロ左衛門佐誠信餞スル日ノ歌、

神ノマス氣多ノミ山木繁クトモワキテ祈ラン君カ千年ヲ、コノ歌今ニ一宮土人ノ口碑ニ言傳フ

按ニ一條大納言トイフハ、保胤カ詩序ニイヘル藤將軍ニヤ、モシモサアランニハ、大納言

ニテ左衛門督ヲ兼タル人ナルヘシ、猶集中ニ右兵衛督忠公朝臣トイフ人見ユ、コノ人ニヤ

考フヘシ、ソノ能州ニ下リケル後、京ノ人ニ遣シケルト見ユル歌、

ヲト、シモ、コゾモコトシモヲト、ヒモキノフモケフモ我戀ハ君、

カキタエ、問ハヌハウクト覺ホエズ、カ、ルニ死ナヌ身ヲイカニセン、

ソノ戀君思郷ノ情、楮表ニ溢レ出ツル、一字一涙ノ歌ナリ、且句法ノ巧ミナル、常人ノ及

フ所ニ非ス、猶能州ニアリテヨメリシ歌、類字名所和歌集ニ一首アリトゾ、ソノ歌、

待人モ見エネハ夏モシラ雪ヤ猶フリシケル越ノシラ山、

五日菖蒲ニツケテ、アル所ヘ參ラセケルトテ、カケル一種ノ書体面白ケレハヒクヘシ

進上 コ、ロサシ

深フカキ

右葉之菖蒲草 ミギハノアヤメクサ

千年五月五日可刈 チトセノサツキイツカカルヘキ

ソノ下ニカケルハ讀法ナリ、コレハ後ニ加ヘタルナルヘシ、コノ書法ハ順ヨリ始マリシナルヘシ、後コレニ例ヒテ大江匡房太宰府ヨリ上ヘ菖蒲ヲ奉リケルトキ

進上

水邊菖蒲

千年五月五日大江爲武

トカケルヨシ、コノ讀法ハ、タテマツリアグルミギハノアヤメグサ千年ノサツキイツカタエセムトナリ、コノ事東見記ニミユ、

在任三年ニシテ、永觀元年ニ卒ス、享年七十三、ソノ守トナリテモ住ミシ所ハ、今ノ七尾邊古府府中村ノ邊ニテモアルヘシト三州誌ニイヘリ、コノ順ハ家持卿ニ繼ギテノ名公ニテ、ソノ在任僅三年ナリシカドモ、ソノ徳ノ人ヲ化シ俗ヲ變フル、鮮少ニアラサルベケレハ、ソノ歌ドモヲヒキテコ、ニ記シオク也、順ハ和名抄ノ作者ニシテ、ソノ博聞強記ハ、

此書ニ於テシラルヘク、ソノ學界ニ貢獻セラレシモ、比類ナク、後ノ節用集ノ一法門ヲ開
キシハ此書ナリ、大日本史ニハ勤子^{キンシ}内親王ノタメニ著ハシ、ナリトアリテ、スヘテ二十卷
アリ、卷中部ヲ分チ、門ヲ立テ 四十部二百六十八門ナリ、

前編卷二

六條左京大夫顯輔卿

六條顯輔卿ハ、藤原魚名ノ苗裔、攝津守澄經カ孫、六條修理大夫顯季カ弟三男ニシテ、清輔
重家顯昭ナトノ父也、鳥羽帝天永二年十月廿五日、越後守ヨリ轉シテ加賀守ニ任ゼラル、
ソノ赴任セラル、白山參詣アリ、新古今集神祇部ニ、

加賀守ニテ侍リケル時、白山ニ詣テタリケルヲ思出テ、日吉客人宮ニテ詠侍リケル、
年經トモコシノ白山忘レズハ頭ノ雪ヲアハレトモ見ヨ、

トアリ、イニシヘハ國司トナリテ、任國ニ下ル時ハ、先部内ノ一宮ニ參詣アリ、コレヲ神
拜トイフ、更科日記ニモ、菅原孝標ノ東國ヘ國司トナリテ下リシ時、神拜ノアリシヲ見ユ、
顯輔ノ白山社參モ、ソノ事ナリト三州誌ニイヘリ、顯輔卿ハ和歌ノ達人ナルコト、古今著聞
集十訓抄ナトニ見エテ、詞花集ハ新院^{崇徳帝ヲ}御讓アリテ左京顯輔一人コレヲ撰フト袋草子
ニ見ユ、サテ天養元年六月三日コレヲ献レリ、一時和歌ノ領袖タリ、堀河、鳥羽、崇徳、

近衛ノ四帝ニ歷仕シテ、參議正三位兼左京大夫皇太后宮亮ニ至レリ、カヤウノ人ノ加賀ノ守トナリテ、コノ國ニ下リシ、イトメヅラシ、

俊成卿モ初ハ顯輔卿ノ養子ニテ顯廣ト申サレシガ、風体ヲ後ニ見破リテ、サテ基俊ガ弟子トナリテ、二條家ヲ立給ヒシ也トソ、又袋草子ニ故將作ノ許ニテ、左京

アフトミテウツ、ノカヒハナケレドモハカナキ夢ゾイノチナリケル、

トヨミケルヲ、俊頼ミテ感歎シテイハク、人ハウツ、ニトヨム處ヲ、ノ、字油瑩^{アブラミカキ}ノ上ニ花アブラヒク所ナリトイハレシト也、又新古今秋ノ部ニ、

秋風ノタナビク雲ノ絶マヨリモレ出ツル月ノ影ノサヤケサ、

コノ歌ヲ稱名院殿ノ御説ニ、雲カクレタル月ヲ待キタル程ニ、俄ニサシ出タル体、ヒトキハ花ヤカ成ベシ云々、源氏物語ニモ、雲カクレタル月ノ俄ニサシ出タルトカケリ、詩ニモ月在^ニ浮雲殘處^ニ明云々、タケ高キ歌ナリトイヘリ、
歌道人 物志 歿年未詳、

清原頼業卿

清原頼業卿ハ、清原真人カ孫吉柯ヨリ六世祐隆カ子也、高倉帝ノ比、加賀介トナリテ下リス、

頼業卿學和漢ヲ兼ネ、ソノ比雙ナキ人ナリシヨシ、玉海ニ頼業ハ、國ノ大器、道ノ棟梁、古今ニ耻チストイフヘシトアリ、スヘテ朝儀典故咨議スル所アレハ、必ス古ヲヒキ今ヲ證シ、辨拆精覈、ソノ説旨ニ稱ハストイフコトナカリシトソ、子孫社ヲ建テ、祭リシニ、アル人車ニノリテソノ前ヲ過キケレハ、車忽チ拆キケルトテ、後嵯峨院ヨリ車拆大名神ト號ヲ下賜ヒシト也、高倉院ノ御代ニハ、マダ朱子ノ四書モ渡ラザリシニ、常ニ禮記ヲ讀ミテ、大學中庸ノ二篇ニ至ルゴトニ嘆ジテイハク、コノ二篇ハ尤スグレタリ、後世達識ノ人アラバ、必コレヲ表章スヘシ、若コレヲ取出テ、二經トセハ、天下ノ至寶コレニ過クヘカラスト申サレシヨシ、後朱子ノ四書ヲタリコシヲトリテ見レハ、ハタシテ論孟ニ併セテ四書トセリ、豪傑ノ士ハ、文王ヲ待タスシテ興ルトヤラン、達識ノ人ハ、且暮ニ相遇フトイフヘシ、尤モ大學ハ朱子ノ四書ニ初マリシニハアラス、司馬文正公ガ大學廣義ヨリ創マリシナリト、太田錦城ガ九經談ニイヘリ、大學廣義トテモワタラザリシ前也、コノ人ニシテ此國ノ介トナリテ下ル、誰人カソノ芳躅ヲ繼カント志サザルベケムヤ、

藤原光隆卿并家隆卿

藤原光隆卿ハ、猫間中納言ト稱ス、源平盛衰記ニ、源義仲ノ猫間殿カトアザワラヒシハ、コノ人也、安徳帝文治元年十二年己巳、越中守トナリテ下ル、ソノ頃源義經北國ニ下ラントノ風聞アリ、源頼朝公國々ノ國司ニ沙汰アリシ時、越中ヲ光隆卿ニ給^{アタ}ヘラレシニヨリテ來任セシ也、家集并ニ玉吟ナトニ越中ノ歌多ク見ユトソ、ソノ歌トモ、

フバキスルコシノ大山越エナヤミ、日影モ見エズクル、空哉、

能登ノ海ノ長閑ニカスム春ノ日ハ沖ニ出ソフ海人ノ釣舟、

京ニ歸リテ後ヨメル歌トモ、

朝霞越路モ見エス立ヌレハ音ニコソキケ多枯ノ浦波、

傳ヘ來テ再ヒキ、シ多枯ノ浦ニ匂フ藤波今モ散ルラン、

音ツレヨ越ノ端山ノ子規多枯ノ浦藤今サカリナリ、

ソノ子家隆卿モ封ヲツギテ越中守トナル、家隆卿ハ世人モヨクシルコトク、和歌ノ達人ニテ、新古今集ヲ撰ヒ、定家卿トソノ名ヲ齊シクシ、嘉禎三年四月年八十二才ニテ逝去 三州誌古今著聞集ニ云、家隆卿ハマダワカクシテ坊城侍從トテ寂蓮聲ニテ同宿シタリケルガ、尋

ネキテイヒケルハ、圓位ハ往生ノ期、近付侍リヌ、此歌合 宮川歌合御裳濯川歌合 ハ愚詠ヲ集メタル物ナ

レトモ、秘藏ノモノ也、末代ニ貴殿バカリノ歌ヨミハアルマジキ也、オノレオモフ處侍レ

ハ付属シ奉ル也トテ、二卷ノ歌合ヲ授ケシトゾ、ゲニモ彼卿ハ定家卿ノゴトキ重代ニアラ

ザル身ナガラモ、新古今ノ撰者ニ加ハリ、定家卿トツガヒテ其名ヲ殘セル、イミジキ事也、後

鳥羽院始メテ歌ノ道ヲ御沙汰有ケル時モ、後京極殿ニ問合給ケレハ、家隆ハ末代ノ人丸ニ

テ候也、ソノ歌ヲ學バセ給フヘシト申サレケルト云々、

俊成卿モ申サレシハ、家隆ハ未來ノ歌仙タルヘシ、見參ノ度ニ、歌ノ難義ナドイフ事ハ問

ハズ、イツモ歌ヨムベキマサシキ心ハ、イカニ侍ルベキゾトイフ事ヲトフトテ感ゼラレシ

ト云々、

新勅撰夏部ニ、寛喜元年女御入内ノ御屏風ニトアリテ、

風ソヨクナラノ小川ノ夕クレハ身滌^{ミソギ}ゾ夏ノシルシナリケル、トイフヲ、定家卿イタク

感ジ給ヒケルニヤ、百人一首ニモ入ラレタリトゾ云々、 歌道人物志

佛御前

佛御前ハ、加賀國能美郡小松ノ郷塔原

花山法皇北陸御巡幸ノ頃、白川某ヲシテ、五重塔ヲ小松ノ郷ニ建立セシメラル、因テ塔原ト云、

ノ人也、父ヲ

白川兵太夫トイフ、ソノ先ハ即右ノ五重塔ヲ建テシ某ニテ、世々工匠官タリ、久壽元年兵

太夫一女ヲ生ム、容貌玉ノゴトシ、人ミナ長壽ノ相アリト稱シケレハ、名ヲ千載ト名ヅケ

シト云フ、長寛二年ノ春、千載母ニ從テ上洛シ、神社佛閣ヲ巡拜ス、時ニ千載年十一才人

ミナ佛御前ト稱シケリ、俗ニ人ノ美麗ナルヲ佛或ハ地藏或ハ觀音ト稱ス、ソノ比左大臣平時信ガ家臣ニ白川兵内トイフ

者アリ、乃チ兵太夫ノ兄ニテ、千載ノ爲メニハ伯父タリ、兵内ソノ容貌ノ艷麗ナルヲ見テ

大ニ悦ビ、年十五才ノ時六波羅ニ出デ、奉公セシム、兼テ絲竹及歌舞ニ妙ヘナリシカハ、

平相國清盛一日召シテソノ歌舞ヲ一覽シ、愛慕ヤマス、館中ニトゞメオキテ返サス、寵遇

尤厚リシガ、其比祇王祇女トイフ姉妹ノ者アリテ、清盛ニ愛セラレタルヲ二人イタク悲ミ

テ、『モエイヅルノ歌ヲヨミテ、潜ニ館カタヲ逃出テ、剃髮シテ尼トナリ、ヒタスラ佛門ニ

歸依シケルトキ、テ、千載アハレニオモヒ、オノレモ尼トナランコトヲ願ヘドモ許サレス、

乃チ、

オモハスモ秋ニアヒヌルコト草ノ我身ノウヘニ生茂ルラン、

トヨミオキテ、サガノ往生院ニユキ、堪空上人ノ弟子トナリ、報音比丘尼ト稱シケル、時

二年十七才、繼テ祇王祇女ノ草庵ヲ尋ネテ同シクスマケルトゾ、相國戀慕ヤミガタシトイ

ヘトモ、ソノ志操ノカタキニ感ジ、三國傳來住立空中履行阿彌陀如來ヲ賜ヒケルヲ、終身

守本尊トス、壽永ノ比、圓光大師ニ參シ、祇王祇女ノ身マカリシ後、再郷里ニ歸リ、奉佛

ニ餘念ナク、終ニ塔原ニテ病死シケルトソ、ソノ年齢詳ナラス、大聖寺正覺開基深譽上人

ハ、華頂山一心院行阿上人ノ弟子トナリ、一日偶、右ノ所ニ到リ、一夜履行彌陀如來ノ靈

夢ニ感ジ、大聖寺ニ至リテ一字ヲ建テ、幽谷山履行院ト號シケルガ、ソノ如來ノ像ト深譽

上人ガ刻ミシ佛御前ノ木像ト、今猶ソノ寺ニ藏ストイヘリ、ソノ寺ヲ建シハ、今ヨリ三百

年前ノ事ナリ、明治三十三年佐々木義祥子順ノ撰傳其故跡ヲ考フルニ、能美郡原村ヨリ北東山ノ麓若狹田トイフ

所ニ三間許ノ堂アリ、ソノ中ニ佛御前ノ像ヲ安置シ、村ノ者トモ守護シケルニ、寶永年中

郡奉行巡回ノ折、右ノ堂ヲ取拂ヒ、像ハ村方ニ指置クヘシトアリテ村方ニ取ヨセ、月番シ

ケルホドニ、所々損ジタレハ修覆ヲ加ヘ、ソノ後ハ道場ノ清右衛門ニ頼ミテソノ家ニ安置

シケルトイフ、ソノ彌陀如來ハ、イカナル故ニヤ、正覺寺ノ寶物トナリ、又ソノ所持ノ錫

杖ハ、金澤泉寺町大圓寺ノ寶物トナリケルトナン、縁記モアリツレド、村出火ノ際、盡ク失タルニ、ソノ後京都ヨリ修行者ノキテ、村ニ滯在中、佛御前ノ由來等ヲ取調テ、一冊奉納シタルヲ、後々マテ持傳ケル、ソノ居住ノ跡ハ、小松ヨリ二里斗東白山禪定ノ道筋中林トイフ御用地ノ内ニ、八尺四方斗ノ中ニ古塚アリ、即ソノ草堂ノ地ニテ、同所北ノ山腰ニ高サ三尺斗、幅二尺五寸ホトノ石櫃アリ、右ノ山、字庵料谷トイフハ、御前在世ノ頃、右一山ヲ村方ヨリ薪山ニ寄附セシニヨリテ、カク唱ヘケルナリトゾ、又ソノ草堂ノ跡ヨリ二町斗北牛上トイフ所ニ廂所ノ跡アリ、又原村ハモトカラ佛原トイヒ傳ヘシヲ、イツノ頃ヨリカ、只原村ト唱ヘケルト、又コ、ニ一話アリ、右郷村ノ間ニ原風トイフ風オコル、ソノ由ヲキクニ、佛御前在住ノ頃、法文咄シケルニ、村ノ人々聽聞ニ參ケルヲ、ソノ女房トモ立腹シテ怨ミケルヨリ、ソノ家内ニ産スレハ、必南風強ク吹出ツトイフ、サレトモ右ノ像ヲ拜スレハ、至テ安産ストテ參詣絶エストナン、

安永八年村役人取調書ニヨル、コノ調書ハ村ノ役人、澤村源次、同源丞ヨリ時ノ奉行芝山織人、寺西清助ニ差出シ、ナリトヤ、

按ニ佛御前ハ、檜垣姫ノ類ニシテ、自拍子ナリ、相國ニ初メテマミエシ時、今様ヲ作りテ

ウタヘルソノ歌

君ヲ初テ見ルトキハ、千世モヘヌヘシ姫小松、御前ノ池ナル亀岡ニ鶴コソムレキテ遊フメレ、

コノ歌ヲオシカヘシオシカヘシ三返ウタヒスマシタリケレハ、見聞ノ人々皆々耳目ヲオトロカシケリトゾ、カヤウノ今様ハ、後世盡ク謠曲ノ中ニ取リイラレタリ、徳川ノ世ニ至リテハ、吉野花扇ナトイフ遊君ノ出シモ、コノ御前ノ類ナルヘシ、

長谷部右衛門尉信連

長長部信連ハ、本藩執長政氏ノ先祖也、治承中、右衛門尉ニ任セラレ、以仁王ニ事マツリケルガ、王、平清盛ノ專横ナルヲ惡ミ給ヒテ、コレヲ討タントテ、檄ヲ四方ニ傳ヘ給ヒ、其兵ノ未集ラザルホトニ、俄ニ敵ニ圍マレ給ケレハ、信連詭計ヲ運シテ、先、王ヲ逃カシマキラセテ、猶アトニフミトママリテ、其宮ヲ守リ、奮闘數合、重傷ヲ蒙リ、終ニ囚人トナリ、嚴シキ拷問ニアヒシカトモ、抗辯屈セザリケレハ、清盛モンノ義勇ニ感ジ、遂ニ死ヲユルシテ流罪ニ處シケリ、平氏没落ノ後、鎌倉將軍ソノ功ヲ賞シ、能登ノ大屋莊ヲ賜ヒケ

レハ、ソノ子孫世々能登ヲ領シ、穴水城ニ住シ、長氏ヲ姓トス、東鑑日本史建藩ノ後、一族ヲ
 アゲテ金澤ニ移リ、前田家ノ執政トナレリ、信連ノ世ニアル、但馬國佐津ノ莊ヲ領シ、輪寶
 城ニ住セシヨシ、ソノ後長九郎左衛門信綱ナトイフ人アリテ、イツレモ輪寶城主タリ大平記
 トイヘリ、ソノ十八世ノ孫ヲ越前守氏政ト稱シ、ソノ次子美濃守信貞ハ、松山城主トナリ、
 今ノ中野邨ノ長氏ハ、ソノ二十二世ノ孫ナリ、譜牒ト云、ソノカミ輪寶城ニ一古寺アリ、信
 連ノ建立ニシテ、觀世音像ヲ安シ、同家ノ祈願所トシテ、殿堂宏麗ナリシガ、氏政ノ時ニ
 至リテ、兵燹ニカ、リ、ソレヨリ、同州美合郡無南垣村ニ移シ、長谷寺ト稱シ、信連以來
 ノ靈牌ヲ安置シ、讀經供養、春秋怠ラス、其寺ノ住持長谷部隆道トイフモノ、明治二十年
 二月ノ比、長氏ガ宗族、及檀越善男六十五人ト連署シテ、兵庫縣廳ニ願出テ、其許可ヲエ
 テ、新ニ改築シ、其遺迹ヲ表シ、碑石ヲ其境内ニタテ、文ヲ川田甕江ニ請ヒシトイフ、ア
 ハレ忠臣ノ裔、各地ニ存シ、縣々タル瓜瓞、人ソノ遺勳ヲ仰ク、誠ニ人臣ノ龜鑑トイフヘ
 シ、故左衛門尉長谷部公碑文

齋藤別當實盛

齋藤別當實盛ハ、鎮守府將軍利仁十代ノ後胤、齋藤實直ノ子也、本姓ハ在原氏、越前國南條郡
 ノ人ニシテ、世々同國ノ著族タリ、實盛ニ及テ武藏國長井ニ遷リ、源爲義義朝ニ事ヘテ、
 白河殿及待賢門ノ戦ニ戦功ヲ立テ、義朝没落ノ後、故アリテ平宗盛ニ仕ヘ、壽永二年夏四
 月、平維盛ニ從テ源義仲ヲ北陸ニ撃ツ、ソノ時都ヲ立イヅルニ臨ミテ、宗盛ニ乞テ云、臣
 必スコノ役ニ打死シテ富士川ノ耻ヲ雪ガム、古人錦ヲ衣テ故郷ニ歸ルトイヘリ、越前ハ臣
 カ生國ニシテ、親戚皆カノ地ニアリ、願ハクハ錦ノ直垂ト石打ノ征矢トヲ下シ給ヘ、コレ
 ヲモテ、身後ノ榮トセン、宗盛ソノ意ヲ憐ミテ、望ノコトク賜ヒケレハ、實盛ウチ喜ヒテ、
 皂甲ノ上ニ赤錦ノ直垂ヲ着シ、石打ノ征矢ヲ負ヒテ戦地ニハセ向ヒ、信州諏訪ノ住人手塚
 太郎光盛ト戦ヒ、終ニ打死セリ、光盛ソノ首ヲ取テ義仲ニ献ジケルニ、ツラツラミテ云、
 コレハコレ齋藤別當也、吾幼少ノ時、コノ老ニ養ハレテヨクシレリ、抑ソノ髮白カルベキ
 ニ、今サハナキハフシギ也、樋口兼光ハ舊同僚也、必スコレヲシリテアラントテ、コレヲ
 示シ、カハ、兼光一見シテ落涙シテ云、ゲニモ實盛也、コノ老常ニ申サレシハ、我年老テ
 若者ニ侮ラル、他日戰場ニ出デンニハ、必ス髮ヲ染メテマジハルヘシト、定メテソノ詞ヲ

踏メルナルヘシ、アラヒテミントテ、池ノ水ニヒタシケルニ、ハタシテ白髪トナル、義仲
 コレヲミテ、イヨイヨソノ健ダナルヲ嘆ジ、且ソノ舊誼ヲ懷ヒ出シテ涙ヲ流シ、厚クコ
 レヲ葬ル、時ニ壽永二年夏五月二十一日、年七十三才也、カノ赤穂ノ忠臣堀部彌兵衛トイ
 ヒ、此ノ齋藤別當トイヒ、イヅレモ婦女子ノ手ニカ、ラザル人ニテ、武士ノ典型タルハ、
 イフモサニナリ、古ノ武士ハ皆情アリ勇アリ、勇ハ義ニ生シ、義ハ情ニ生ス、是ワガ武道
 ノ萬國ニ卓^スレタル所ナリ、ソノ墳墓ハ今ニ加賀國江沼郡篠原村ニアリ、ソノ形圓ク、周リ
 大約十間餘、石ヲ疊ミテメグラシ、高サ一間バカリ、中央ニ古松一株茂レリ、石碑及供養
 塔數臺ソノ上ニアリ、コレハ遊行上人ノ供養セラレシモノトカヤ、篠原ハ北濱十七ヶ村ノ
 一ニシテ、昔ノ北國往來ノ宿驛也、東三里隔テ、安宅湊アリ、西三里隔テ、竹浦アリ、村
 ノ南一里餘ニ潮津村アリ、領内ニ手塚山アリ、手塚大郎ガ陣トリシ所也、麓ニ首洗池アリ、
 實盛ノ首ヲアラヒシ池ナリ、又西北一里斗深田村ノ領内ニ鏡池トイフアリ、實盛カ髪ヲソ
 ムル時用ヒシ鏡ヲ投ケコメシ處ニシテ、ソノ鏡ハ今ニ村民某藏セリトイフ、墳ノ東南一里
 斗ニアル首掛松トイフハ、コノ戰ノ首數ヲ檢シテ、篠原ノ松ニ梟セシ也トイヒ傳フ、ソノ

甲冑直垂ノ錦ナトハ、同郡ノ冬田八幡宮ニ藏ス、義仲ノ納メラレシナリ、義仲ノ願書モ、コノ社
 ノ功ヲ賞シ、社領ヲ寄進シテ、冥福ヲ祈
 ルコトヲ云リ、兒島左久雄調ニ據ル、後、芭蕉翁碑ヲタテ、
 アナムザン兜ノシタノ登

大豆作彌七

彌七ハ、大和國ノモノ也、其姓大神氏、今ヲ距ルコト七百年前、加州石川郡大野郷ニ來リ
 テ、其地ノ舊家横屋彌兵衛方ニ寓セルコト年アリ、彌七大豆ヲ作ルニ名人ニテ、人皆大豆
 作ノ彌七トゾ稱セシ、今ニ一種ノ豆アリ、彌七豆ト稱セリ、其大豆ガラニテ作りシ太鼓ハ、
 金澤舛形ノ西福寺石川郡觀音堂村ニア
 リシ寺也天台宗、ニアリテ、イニシ年博物館ニ陳列セシコトアリ、ト云、
 是ハサル木ニテ作りシヲ豆ガラニイヒ負セタルナルヘシ、彌兵衛ノ家ヲ立去ル時、盃一個
 ニ筵一枚劍一フリ殘シテユキケリトツ、三品トモ其家ノ子孫大和與三郎トイフモノ、重寶
 トシテ、秘藏セシガ、筵ハ俗ニ阿茶婆燒トイヘル大火ノ時ニ燒ウセ、劍モイツシカ紛失シ
 テ行クヘシレズ、今ハ盃ノミ殘レリ、直徑七寸斗ノ朱塗ニシテ、富士山ニ三日月ヲ蒔繪セ
 リ、盃面蒼古一見シテ七百年前ノ遺物トミユト或人云リ、古來右ノ盃面フジ山ニ酒ヲソ、

ゲハ忽チ上ニ浮ミ出タリシガ、前年盃面ニ微瑾ヲ生セシヨリ、ソノ奇瑞モ止ミタリトイヒ傳フ、北陸新報前ニハ彌七アリ、後ニハ辨吉アリ、大野ニコノ兩奇人ヲ留ムル、奇縁トイフヘシ、ソモソモコノ傳説ハ、浮キタル話ノヤウナレトモ、古來ノ口碑ニ傳フル所ナルノミナラス、少種多穫ノ理ヲ教ヘタルモノナレハ、コ、ニ記シテ後攷ヲマツ、

宗良親王

宗良親王ハ後醍醐天皇ノ第五ノ御子ナリ、始メ叡山ニ登リテ座主トナリ、尊澄法親王、妙法院宮ナト稱シ給ヒ、後、髮ヲ蓄ヒテ宗良親王ト稱シ給ヒキ、元弘三年征東將軍ニ補セラレ、東國ニキ給ヒシヲ、延元元年井伊某供シテ、遠州奥山城ニ入レ置キ奉リヌ、コノ時井伊宮ト稱シ給フ、三年ノ冬、源顯家ト俱ニ上洛顯家戰死セシカハ、親王吉野ニ走り給ヒ、興國二年、吉野ヨリ遠江ニ下向アリ、駿河ニ入りテ御子ノ興良親王ニ會シ、同年信濃ノ諏訪ニ移リ、大河原トイフ所ニ至リテ、香坂高宗ガ家ヲ主トシ、コノ際サラニ轉シテ常州小田ノ城ニ渡給ヒ、五年下妻ノ城ニ據リキ給ヒシカ、六年ニ、北陸ノ方ニ、猶志ヲ南朝ニ通ズルモノアリトキ、潜ニ越中ノ國ニ渡リテ、石黒トイフモノ、家ヲ主トシテイタル所歌

ヲ詠ジテ懷ヲ述ヘ給ヒキ、コノ時ハ越中宮ト稱シ奉ル、今ノ放生津トイフ所ハ、昔ノ奈子ノ浦ニテ、漁家三千軒余モアリテ、ソノ東北ノ一區ヲ名子町ト稱ス、コノ邊ヨリ牧野トイフ邊マテヲ、ムカシハ、ナベテ名子浦ト稱セシナルヘシトイフ、牧野ノ東弘寺ハ、親王ノ五年バカリ住ミ給ヒシ所ニテ、今牧野ノ北口ニ小高キ地アリ、コレヲ雪見岡トイフトゾ、ソノ歌ニ、

故郷ノ人ニ見セバヤ立山ノ千年フルテフ雪ノ曙、

マタ親王ノ李花集ニ、興國三年、越中國名古トイフ浦ニ忍テ住侍シ比、都ヘ行ク人ノアリシ便宜ニ、ヤヨヒノ比ニヤ、爲定卿モトヘ申ツカハシ侍シトアリテ、

今ハマタ問來ル人モナゴノ浦ニ塩タレテスム海人トシラナム、

ナトノ歌ミユ、マタ春雨抄ニ、

明ヌトモ猶影ノコセ白妙ノ卯花山ノミジカ夜ノ月、

卯花山モ越中ノ名所也、正平四年、上毛ノ新田庄ニ移リ給ヒテ、上野宮ト稱シ奉ル、七年義兵ヲ起シテ碓氷嶺ニ戰テ利アラス、諏訪ノ方ヘ引キ給フ、コノ時信濃宮ト稱シ奉ル、文

中三年吉野ニ詣リ給ヒ、天授三年三月信濃ニ如キ、遂ニ長谷寺ニ入り、後、河内ノ山田庄ニ閑居落飾、弘和元年ニ新葉集ヲ撰ヒ給ヒヌ、コレハ勅ヲ奉シテ撰ミ給ヒシナリ、ヨツテ以前ノ勅撰ニ加ヘテ二十二代集トイフ、ソノ後ハイカナル所ニテ薨去アリケン、享年七十ニトキコエケリ、我松雲公夙ニ勤王ノ志ニ厚ク、嘗テ宣ハク、我邦ノ中葉ニ至リテ、禮樂陵遲、威福處ヲカヘ、建武ノ際ニ至リテハ、分崩離拆、百川ノ横流、朝宗ノ道ヲ失ヒテ、終ニ海ニ歸セス、コノ時ニアタリテ、宗良親王荆棘ヲキリハラヒテ、宗廟ヲ清メ給ハントテ、始終忠孝ニ勵ミ給ヒシハ、感ズルニ餘アリトテ、享保ノ頃、新葉集ノ中ヨリ歌二首撰出シテ讚シ給ヒシ、ソノ歌一首ノ序ニ、遠國ニ久シク住侍テ今ハ都ノ手フリモ忘ハテヌルノミナラス、ヒタスラ弓馬ノ道ニノミタツサハリ侍テ征夷將軍ノ宣旨ナト賜リシモ、我ナガラフシギニ覺侍ケレハ歌ヨミ侍シ次ニトノ詞アリテ、

オモヒキヤ手ニフレザリシ梓弓起臥ワガ身馴ムモノトハ、

今一首ノ序ニ、戰場ニ出侍シ道スガラ勇ミアルヘキ事ナト兵モノドモニ言含メ侍シ次ニ思ツ、ケ侍シトノ詞アリテ、

君ノ爲メ世ノ爲メ何カヲシカラシテ捨テ、カヒアル命ナリセバ

コノ御歌ドモヲミテモ、ソノ志操ノ高潔ナル、凜乎トシテ霜ノゴトク、イハユル君ト國トノ爲メニ身モ家モ忘ルトイフモノ也、吾返ス返スモ仰慕ノ餘、ソノ姿ヲ寫サントテ、百方古式ヲ求メツレトモ、諸親王家初メ、三公九卿ノ家ニサヘ能ク知ル人アラザレハ、センカタナクオモヒ止リヌト御意アリ、富田景周イハク、公ノ親王ガ志操ヲ標出セラレシハ、誠ニ千載ノ卓論ニシテ、親王ノ幽魂ヲ九原ノ下ニ慰奉ルノミナラス、後來ノ忠臣烈士ヲシテ氣ヲ吐カシメ給フトイフベシ、因テソノ詞ヲ寫シテ書齋ニ扁シ、且暮拜讀シ奉ル云々トイヘリ、吾按ニ僅五六年ノ在住トイヘトモ、ソノ流風ノソノ人ニ傳ハル、餘韻ノソノ地ニ存セル、イカテカ他日北陸勤王ノ志士ヲ振ヒ興シ、遠因タラザランヤ、アハレ風化ノ原スル所、遠カナ深イカナ、

僧 瑩 山

僧瑩山、名ハ紹瑾、瑩山ハソノ號也、越前ノ國多禰郡ノ人也、姓ハ藤原氏、母三十七才ノ時、多禰ノ觀音ニ祈リテ師ヲ生ム、生レテ風神衆ニ異ナリシカドモ、性質短急ニシテ躁暴、

母大ニコレヲ歎キ、又觀音ニ祈リシカハ、ソレヨリ天性漸ク變リ、事ゴトニ溫雅トナル、幼キ時ヨリ超世ノ志アリ、終ニ永平寺ノ二世懷奘和尚ノ室ニ入りテ、落髮セリ、和尚常ニ嘆美シテ云、コノ子行末ハ、必ス人天ノ導師タラントイヘリ、和尚示寂ノ後、金澤大乘寺ノ徹通和尚ニ依リテ、朝夕參敲シ脇ヲ席ニツケス、一日趙州ガ平生心是道ノ話ヲキ、テ、豁然大悟セリトイフ、和尚一日問テ云、汝イカンカ會スル、師云、黒漆ノ崑崙夜中ニ走ル、通云、更ニイヘイヘ、師云、茶ニアハハ、飯ニアハハ、飯ヲクフ、通微笑シテ云、汝向後必洞宗ノ風ヲ起スヘシ、後三十五歳ノ年、大乘寺ノ董席トナリ、江湖ノ龍象皆ソノ座下ニ集マリ、洞宗ノ法筵、是ニ至テ一新シ、大小ノ檀越爭テ寺ヲタテ、師ヲ請ズ、能州ノ永光寺永光寺ハ、滋野信直ト云フモノ、妻中川氏、深ク瑩山ニ歸依シ、其保内ノ一山ヲ寄進セシニヨリテ、正和二年ニ、コノ寺ヲ建テシナリ、加州ノ淨住寺ナトハ、皆師ヲ第一世トセリ、又能州ノ總持寺ハ、モト眞言宗ノ寺ナリシガ、瑩山アル夜ノ夢ニ、コノ寺ニ住ムベキノ告ヲ蒙リ、ソノ寺ノ定賢賢一ニ建ニ作ルハ誤ナリ律師ニモ、靈夢ノ告アリテ、瑩山ヲ迎ニ出テシ途中ニテユキアヒ、互ニ夢物語セシニ、符節ヲ合セタルガゴトクナリシトテ、元享辛酉ノ年、ソノ寺ヲアゲテ師ニ囑セラレ、道下トイフ所ニ移リ住ミ、尾櫻山寶泉寺、ソノ寺ハ

終ニ禪宗ノ寺トナリ、明年八月、後醍醐帝十條ノ疑問ヲ垂レサセラレ、ソノ奏對旨ニ稱ヒシトテ、繪旨ヲ下シ給ヒ、寺格ヲアゲテ天朝ノ功德寺、賜紫出世ノ道場トシ給ヒ、行房藤原氏カニ命シテ、ソノ額ヲ書シメラル、是レ今ノ總持寺別院ナリ、師ノ法弟中、ソノ法ヲツギシモノハ、明峯素喆永光寺二世無涯智洪淨住寺二世峨山紹碩總持寺二世壺菴珍山ナト也、正中二年八月上旬、師微恙ヲ感ジ、同十五日ノ夜半、予、化縁ステニ盡キ、泥洹ノ時至レリトテ、沐浴シテ鐘ヲナラシ、法ヲ説キテ遺囑ス、門弟トモ辭世ヲ請ヒシカハ、師筆ヲ把リテ

自耕自種閑田地、幾度賣來買者新、無限靈苗繁茂處、法堂上有ニ插鋤人、

トカキ終リテ遷化セリ、塔ヲ大乘寺、永光寺、淨住寺、總持寺ノ四大伽藍ニ建テ傳燈院ト號ス、年五十八、佛慈禪師ト諡ス、一生ノ垂語拈提、編録ヲ許サレス、清規、坐禪用記ナト僅ニ存セリ、

僧 大智

大智和尚ハ肥後ノ人、幼少ノ時ヨリ、佛事ノ戯ヲナシ、七才ノ年出家センコトヲ乞フ、父
 ソノ志ノマ、ニ携ヘテ川尻ノ大慈寺ニユキテ、寒崙和尚ニ投ス、寒崙一見シテ之ヲ器トシ、
 手ツカラ卓上ノ饅頭ヲトリテ與ヘラレ、尋ネテ云、汝ノ名ハ何トイフ、大智云萬十、寒崙
 云、萬十ガ饅頭ヲクフ時ハイカン、音通ヲモテ戯レシ也、大智言下ニコタヘテ云、大蛇ハ
 小蛇ヲ呑ム、寒崙云、ヨシ、汝小智アリ、ヨロシク大智ノ名ヲ揚グヘシトテ、大智ト名ツ
 ケラル、サテ二十五才ニ及テ、後二條天皇正和三年元ノ延祐元年ニアタル 大志ヲ發シテ、元ノ國ニ
 入リ、十一年間勤學修行、寶藏ヲ開キ盡ス、スナハチ歸國ヲ願出テシカハ、時ノ帝英宗ヨ
 リ、宣旨ヲ賜テ、本國ノ船ニ乘リテ歸ラシム、時ニ謝辭ノ偈アリ、

謝大元天子詔許還本國

萬里北朝宣玉詔、三山東海送歸船、皇恩至厚將何報、一炷心香

祝萬年

船ヤカテ海上ニ出テシ處、暴風俄ニ起リテ、高麗ノ國ニ吹ツケラレ、一船盡ク碎キシカハ、

偈ヲモテ高麗王ニ助力ヲ頼ミ入ル、ソノ偈、

破船時呈高麗王

曠劫飄流生死海、今朝更被業風吹、無端失却歸家路、空望扶桑

日出時、

右二首ノ偈、イツレモソノ恩ヲ謝シ、ソノ力ヲ頼ムヤウナレトモ、ソノ實ハ、元ノ天子高
 麗ノ王ヘ教化ノ轉法輪也トイヘリ、王コレニヨリテ、ソノ臣ニ命シテ、舟ヲ修復セシメ、
 相送リテ加賀ノ國宮ノ腰今ハ金石ト云ノ津ニ着ス、實ニ後醍醐天皇ノ正中元年也、大智上陸ノ上、
 徑チニ能登ノ永光寺ニ抵リテ、瑩山和尚ニ謁ス、後加賀ノ吉野トイフ所ニ至リテ、ソノ地
 ノ峯巒環抱幽寂比ナキヲ愛シ、一草庵ヲ結ヒテ、コ、ニ住セントアリシニ、ヲリシモ國主
 富樫昌家ノ叔父家宗、大智ニ深ク歸依シ、ソノ隱居所ノ吉野ニアリシヲ改造シテコレニ住
 居セシメタリ、ヨツテコレヲ鳳凰山祇陀寺ト名ツケ、鳳凰一ニ獅子ニ作ル一方ノ法幢ヲ掲ケシカバ參
 徒日ニ集マリ、智光月ニ輝ク、時ハ延元ノ頃也、コレヨリ先キ大智大乘寺ノ明峯禪師ヲ師
 トセシガ、コノ時衣偈ヲ贈リテ賀セラレシトイフ、明峯コノ時既ニ隱居シテソノ地ニ在リ

シ也、ソノ比コノ地ノ十勝ヲ選ミテ詩ヲ題セラレシトイヘトモ、世ニ傳ラス、其品題ハ左ノコトシ、

一 太白山 飛龍岸 高月池 鉢頭峰 虎狼山 白布瀑 仙雲峰 黃門橋 月影潭 雲龍山
大智偈頌ノウチニ、鳳山々居八首アリ、ソノ景勝ヲ寫シ、ナリ、

一 一抹輕烟遠近山、展成淡墨畫圖看、目前分外清幽意、不是道人俱話難

二 截斷人間是與非、白雲深處掩柴扉、當軒栽竹別無意、祇待鳳凰來宿時

三 名韁利鎖留不住、晦跡烟霞水石中、折脚鐺兒煎野菜、住山自効古人風

四 艸屋單丁二十年、未持鉢望人煙、千林果熟携籃拾、食罷溪邊枕石眠

五 萬象之中獨露身、更於何處著根塵、回首獨倚枯藤立、人見山兮山見人

六 焚香獨坐長松下、風吹寒露濕禪衣、有時定起下雙澗、瓶汲五更殘月歸

七 空林卓錫卜幽栖、冷淡家風實可悲、荷葉滿地無線補、白雲爲我坐禪衣

八

終日搬柴運水中、分明顯露主人公、三千日月觀成敗、坐斷須彌
第一峰

富樫高家ノ弟冢善モ、石川郡ノ押野ニアリテ、大智ヲ厚ク信シ、大智ノ郷里菊地武時寂阿ト號スモ信仰アリテ、毎度使書ヲ通シテソノ教ヲ請ヒシト物ニ見ユ、サテコノ地ニ留マルコト二十年バカリニテ、サラニマタ九州ニヤ下ラレケム、肥後ノ國菊地郡虎口村コカウノ奥斑蛇口村ヘンシヤクヨリ半里ハカリノ所ニ鳳儀山聖護寺トイフアリ、コ、ニ大智カ開基ノ跡アリ、住持ノ石塔モ今ニ立テリ、大智コ、ニモ二十年ハカリ山居アリテ一切ノ述作ヲ木葉ニ書付ラレシガ臨終示寂ノ時、遺書ニテ都テ火中ニ入レタリトイヒ傳フト、永福老人カ和尚ノ偈頌聞解ニ見ユ、且老人云、余肥後ニアリシ時、鳳儀山ニ登リテ石塔ヲ拜セリ、ソノ山ノ後ハ豊後國也、ソコニモ長谷部信雄トイフ武士ノ大平山兜率寺トイフヲ建立シテ、大智ヲ開祖トセシ寺跡今ニ存レリ、虎口斑蛇口ノ二村、名ハ大智ノ付ケラレシ也トイヒ傳フ、大石巨岩ノ兩方ヨリ環合セル所ヲスギテ寺ニ登ル也、初ハ虎ノ口ニ入ルヤウニテ、次ハ横長ク赤白黒ノ色ノ岩アルユエ斑蛇口トハ名ツケタル也ト云々、オモフニ菊地氏ニ聘セラレテコ、ニモ錫ヲ留メ

ラレシナルヘシ、ソノ比ノ作ニヤ、左ノ詩アリ、偈頌ニ見ユ、

鎮西道中有感

祖道嗟看日々衰、西風幾度淚濕衣、蚌腸含月深々意、水遠山遙說
向誰、

コレソノ比巡教ニ出テラレシ時ノ作ナルヘシ、祖道トイヒ、幾度トアルニ意ヲツクヘシ、聞解ニモンノ比ハ戰亂ノ最中ニテ、特ニ九州ハ菊地大友太宰島津トテ、大名武士ノ戰ヤム時ナク、佛法モ時節ニツレテ、檀那ノ外護モナケレハ、コノ感慨アリシモ至極也トイヘリ、又肥前ノ島原ノ西海邊ニ補陀山アリ、俗ニ岩殿山トイフ、觀音ノ靈場ニテ寺ヲ水月山圓通寺トイフ、ソノ麓ノ所ヲ笠津ト云、山上ニ和尚ノ坐禪石トイフアリ、海ヨリ拔テ、十四五丈モアリナン、余四十年前コ、ニ游歴セシニ、和尚ノ時ニオリシ猿ノ今ニ二匹ヲルヲミタリ、三松倒レテ一猿死ス云々ト聞解ニイヘリ、同國ノ玉名郡石貫村ノ廣福寺モ大智ノ開山也ト云、和尚ノ遺跡猶コノ外ニモアルヘシ、サテ入寂ノ地ハ、肥後ノ鳳儀山ニヤ、聞解ニ石塔ヲ見タリトモアリ、祇陀寺ノ位牌ニモ、貞治丙申年十二月十日トアレハ、コノ方トモ

オモハルレトモ、同シ開山ノ事ナレハ、ソノ忌日ヲ位牌ニ記シタルナルヘシ、サテ貞治丙申トスレハ、年七十七才ニテ遷化アリシナルヘシ、因ニ云、肥後ノ鳳儀山モ、コノ方ノ名ヲ用ヒテ一字カヘシニテモアルカ、又序ニイフ、吉野ニハ今ニ寺町或ハ大鼓野ト稱スル村アリ、コレソノ遺跡也、イツノ比ニカ火災ニカ、リシカバ、轉シテ越中ノ守山ニ再建シ、慶長中ニ至リテ、金澤ノ八坂ニ遷シテ大安寺ト改メ、ソノ後故アリテ又鶴林寺ト改ム、コレ今ニ存スル寺ニテ、即祇陀寺ノ後ナリ、今金澤ノ寺町ニ祇陀寺トイフガアレドモコレハ延寶中、大乘寺ノ子院永昌院ヲ改メテ、カクハ稱セシニテ別也トゾ、和尚ノ遺集ニハ大智偈頌一卷、逸偈一卷、真歇拈古抄寫本三卷、宏智和尚小參錄抄寫本一冊アリトイフ、ソノ中偈頌ハ入寂ノ時、丙丁ニ付セシ殘ノ諸方ニ散亂セルモノヲ光嚴侍者ノ見キ、次第ニ記錄セシモノトイフ、故ニ大智壯年ノ作モアレハ、老年ノ作モアリ、前後ヲ分ケズ雜載セシモノナレトモ、空前絶後ノ述作ニシテ、禪林ノ光明莊嚴ナリトイヘリ、燕臺風雅ノ中ニヒケル句アリ、コ、ニ録ス、

山居

殘星鼎汲北溪水、午夜炉燒南嶺柴、只有山中、方外、友、朝、雲、歸、去、暮、雲、來、

僧 峩 山

峩山名ハ紹碩、字ハ峩公、能州羽喰郡瓜生田村ノ人也、俗姓ハ源、母文珠大士ニ祈リテ生ム、幼ニシテ風采凡ナラス、父母ニ極テ愛セラレ、十六歳ノ時、出塵ノ志アリ、叡山ニ登リテ落髮シ、天台宗ノ奥義ヲ探リ、永仁五年、師年二十三ノ時、瑩山和尚加州ノ大乘寺ニ開法セラルトキ、テ、徑チニユキテ問テ云、天台ノ教義ハ、教外ノ旨ト異ナラストオモフハ、イカニトアリケレハ、和尚微笑シテ云、別々、師云、別處ハイカニ、和尚便チ寢室ニ入り給フ、師疑ハレズ、正安元年ノ春、再ユキテ參扣ス、和尚云、汝ハ吾宗ノ法器也、衣ヲアラタメテ禪ニ歸セヨ、師云、吾母ヲ養フガタメニ産業ニ携ハルヲイカニスヘキ、和尚云、汝何トテ六祖能大師ヲ學ハザル、師點頭ス、時ニ和尚直襪ヲ脱シテ與ヘラル、コレヨリ參禪問道ニ志ヲハダマシ、機辨超拔、ソノ鋒ニアタルモノナク、正安三年十二月、山和尚ノ印可ヲエ、徳治元年、師年三十三ニシテ、朝鮮ニ游ヒ、元ニ入り、善智識ヲ尋ネテ、

到處法器ト稱セラル、後能州ニ歸リテ、永光寺ニ留マレルヲ、山和尚、アゲテ、一方ニ住セシメントシ給ヒシカドモ、固ク辞シテツカス、十二年ノ後、元享四年甲子八月七日、山和尚吾己ニ老タリ、汝吾ニ代リテ教ヲ演セヨトアリテ、終ニ總持寺ノ後事ヲ囑セラル、師ヤムヲエスソノ席ヲ繼キ、開堂演説、衆徒雲ノコトク集マリ、法ヲ傳フルモノ凡テ二十五人、ソノ中秀拔ナルモノ五人、各寺裏ノ東西ニ地ヲトシ、五ヶ所ニ子院ヲ建タリ、ソノ子院ハ、

普藏院 大源宗真 妙高菴 通幻寂室 洞川菴 無端祖環 傳法菴 大徹宗令 如意菴 實峯良秀

是ナリ、今國中ニ未寺ヲ立テシモノハ、大抵コノ五人ヨリ派レ出タルモノニテ、峩山派ノ未寺、全國ニ萬餘寺ニ及ヘリト也、且師ノ寂後ハ、住職ヲオカス、右ノ五人ノ諸國ニ叛メラレシ末山ヨリ輪番ニ來テ務ムルコト、ハナリヌ、サテ師ハ貞治四年十一月ノ初ヨリ疾ニカ、リ、同二十日夜半沐浴シ終リテ、衆徒ニ範ヲ垂レ、筆ヲ索メテ遺偈ヲ書シテイハク、
 皮肉合成、九十一年、夜半依舊、身横黃泉、

ト書了リテ泊然トシテ寂ヲ示ス、四衆泣悲ミテ父母ノ喪ニ於ケルガコトク、籠ヲ一七日間

留メテ容貞生クルガコトクナリシトイフ、ソノ塔ヲ本山西北ノ隅ニタテタリ、師天性豪快、氣膽斗ノコトク、ソノ永光寺ニ住シケル比ハ、一朝ノ間ニ總持寺ノ朝勤ニ出ラレシト也、ソノ路ヲ後々マテ峩山道ト稱シテ、平人ノ通ヒカタキ險路ナリ、又コノ寺ノ僧徒ハ槻ノ皮ヲ下駄ニシテ緒ヲタテ、ハクト三州舊記ニ見ユ、峩山ノ風ト見エタリ、マタ能登ノ本宿村ノ路傍ニアル老松ヲ峩山松トイフ、ムカシ師カ青年ノ時、盜賊トナリ、常ニコノ樹ニ登リキテ旅人ノ資財ユタカナルモノトミレハ、直ニ下リテ剽掠セラレシ、ソノ時ノ松ナリト能登遊記ニ見ユ、コレハ永光寺ノ僧侶ナトヨリイヒ出テシナルヘシ、ソノ故ハ師ノ總持寺ニ移ラル、時、瑩山和尚カ衣鉢什器ヲ悉ク同寺ニ運ヒ給ヒシトテ、永光寺ノ僧、コトノ外憎ミテ、二寺ノ葛藤久シク絶エザリシヨシキケリ、コレラノ事ニヨリテ、コノ説ヲ捏造セシナルヘシ、師ノ盜賊タリシコトハ一向ニナキコト也、師法語數十言アリ、又宏智小參ノ註解アリ、ソノ餘ノ拈古類モ數々アリトイフ、

僧 大 徹

大徹名ハ宗令、肥前國ノ人也、能登國總持寺二世峩山和尚ノ法弟五俊ノ一人ニシテ同寺

ノ子院傳法菴ノ開山タリ、後去リテ美濃國井益ニ一字ヲ建テ、妙應寺ト稱ス、永和三年丁巳ノ歲、越中國ヲ巡錫シテ靈地ヲ探リシヨリ、一人ノ異人ニアヒテ、立山下ニテ一名區ヲエ、近邊ノ川原ニテサラニ良材ノ數限ナク流レ來レルヲミテ、奇異ニオモヒ、ソノ身ノ來歴ト異人ニアヒシ有様トヲ時ノ堀口城主土肥美作ニ逐一申サレシカハ、美作モイタク感ゼラレ、青銅一貫文ヲ與フ、コ、ニ於テ材木ヲ運ヒ斧斤ヲ加ヘ、堂院日ナラスシテ成就シ、名ツケテ眼目山立山寺リウセントイフ、今ハ立川寺トカケルハ山ヲセソノ村ヲ作花村トイフ、ソノ材木ノ集マリシ所ヲ御山河原トイフ、立山ヲ御山ト稱スル故也、後應永十五年戊子ノ歲正月廿五日、和尚コノ寺ニアリテ示寂、年七十六、遺骨ヲソノ寺ノ東南ニ瘞ミ、寶塔ヲ建ツ、爾來土肥氏檀越トナリ、三千貫ノ地ヲ寄附セシヨリ、伽藍益壯觀ヲ盡クシ、傳法愈隆盛トナリ、竟ニ當國一派ノ本山トナレリ、シカアルニ、師示寂ノ後、シバシバ怪異アリテ、不徳ノ僧居ルコト叶ハス、十日二十日居テ退院セシトイフ、享祿天文ノ比ニ至リテハ、越後ノ上杉輝虎毎度コノ國ニ亂入シ、土肥ノ後裔彌太郎トイフモノモ、終ニ輝虎ニ亡サレ、コノ寺モ兵火ニカ、リテ焦土トナリシカハ、嗣法ノ僧古塔ノ側ニ僅ナル一茅宇ヲ結ヒテ二十年ハカリ住セ

シガ、天正ノ末ニ至リテ、前田大納言公來リテ當國ヲ鎮撫シ給ヒ、百廢俱ニ興リシヨリ、コレ等モ稍舊基ヲ復スルコトヲエタレトモ、昔ノ十ガ一ニモ及ハス、且數十年間ノ亂ニ傳記モ寺器モ殆燒燼シ盡シ、僅ニ龍文ノ袈裟袈裟一幅ハ鬼工ナレハ大半蟲ハミケルトゾ及獅子頭ナトイフモノヲ數品存スルノミトカ、ソノ後寛永年中ニ至リテ、微妙公封内ヲ巡リ給ヒテ、コノ寺ニ興ヲ停メ、ソノ本末ヲキコシメサレシトキ、立山寺アリテ作花村アリ、寺ノ山號ヲトリテ村ニ名ツクヘシ、サレトモ訓ハ猶舊ノマ、然ルヘシト御意アリ、今眼目ヲサククハトヨムハ、コノ故也トカヤ、按ニ作花ハ寺ニ供フル花ヲ村人ノ作りシヨリコノ名アリシナルヘシ、眼目ニモ怪説アレトモ、カンモク岩木ニテアリシナルヘシ、文化ノ比、前住天室和尚、南紀ノ人谷井世昌ニ請テ、ソノ緣起ヲ記シ、モテ後ニ傳フ、富田痴龍モ住僧宗因ノ頼ニヨリテ、ソノ緣起ヲ作りシヨシ見ユ、三州舊記ニ今ノ立川寺ハ、海手一里斗所替シテ再建セシモノナリトイフ、イカ、緣起ニハミエス、

僧 玄 翁

僧玄翁名ハ心昭、空外ト號ス、本姓ハ源氏、越前國萩村ノ人也、能州總持寺二世峩山門下

ノ僧ニシテ、初メ陸上寺ニ入り、俱舎ノ義ヲ受ケ、後五岳山ニ登リテ、曹洞宗ノ旨ヲ傳フ、
 集 後圓融院永和中、峩山ノ門弟大徹和尚越中立山寺在住ノミキリ、同宿ニテアリシカ、
 應永二乙亥ノ比、大徹ニ勅諭アリテ、下野ノ國那須野ガ原ノ殺生石ヲバ、法力モテ打鎮メ
 ヨトアリシヲ、玄翁キ、テ、我ニコソ勅諭アルヘキニ、口ヲシキコトナリ、我先キニユキ
 テ、カノ妖石ヲシツメクレントテ、ヤガテ野州ニユキ、拂子ヲモテ一撈シケルニ、石悉ク
 粉碎シケレハ、時人號シテ割石玄翁トイヒ傳ヘケリ、後世石割ノ槌ヲ玄翁トイフハ、コレ
 ニヨル也、人撰 集 トソ、按スルニコノ殺生石トイフモ、名コソカハレ、安達原ノ鬼林氏百將傳ニ、高丸ト
 イヘル惡黨奥州達谷ノ窟ニタテコモルヲ、藤原利仁將軍之ヲ討テ、其窟ヲ打破フルトアル是ソノ正説ナリ、達谷ハ安達ノ原ナリ、ナトイフモノト同シク、皆當時ノ山賊也、
 尤モ殺生石ハ毒石ニテアリシナルベシ、相州海龍寺ハコノ玄翁ノ開基ナリトテ、ソノ緣起
 ニ、日本史ニ、下野高座山賊藏宗藏安等千餘人聚メテ貢調ヲ掠メ郡邑ヲ害ス、廷議藤原利
 仁ニ命シテ之ヲ討タシムト見ユ、コノ類也、玄翁妖石ノモトニ至リケルニ、白骨髑髏山ノ
 如ク積メリトアリ、是ハ山賊ノ人殺ニテ、大江山ノ酒顛童子トヨク似タリ、ムカシハ強盜
 禪師ト稱セシ和尚モアリテ、強盜ヲ化センニハ、ソノ身モマツ強盜ノ中間ニイラザレハ叶

ハストテ、一時強盜トナリテサテ後法力ヲモテ、アマタノ山賊ヲ度セシ人モアリシ也、今
 玄翁モ即チソノ類也、後大覺禪師大覺年十七、日像ニ親炙シテ精微ヲ窮ム、貞治三年寂ス、ノ嗣法トナリテ、臨濟派ニ變
 シ、會津ノ若松示現寺ニ住スルコト殆ト廿六年、コノ寺ニテ歿セシトイヒ傳フ、コノ事ハ謠曲拾葉集ニヒケリ、
 按ニ海龍寺開山傳ニ、僧大徹石妖ヲ止メントスレトモ能ハス、後深草帝源翁ニ詔シテ止
 メシム、コレヨリ翁ノ名都鄙ニ喧シク、時頼、翁ノ道驗ヲキ、テ奥州會津利根川ノ庄ヲモ
 テソノ饘粥ノ資トス、時ニ建長年間也トアルハ妄也、大徹ハ應永十五年ニ寂セリ、後深
 草院ハ、百五十年前也、イカナルコトニヨリテコノ謬ヲカ傳ヘケン、又謠曲拾葉集ニ、
 大覺禪師ノ嗣法トイヒナガラ、弘安二年ニ示現寺ニ寂ストイヘル、コレマタ妄也、大覺
 ハ後光嚴院貞治三年ニ寂セリ、ソノ嗣法タレハ、大徹和尚ト同時代ニテヨクアヘリ、弘
 安ハ八十年前也、大覺ノ嗣法ニシテ八十年前ニ寂スル、コレ無稽ノ談也、只示現寺ニテ
 寂セシトイフハ、アルヒハ然ラン、因テ本文ニハカク記シオキツレト、猶考フヘシ、マ
 タ玄翁ハ、瑩山和尚ノ弟子ト、加越能舊記ニ見ユルハ、イカ、ニヤ、玄翁ハ篋篋抄ニ、
 玄翁、開山傳ニ源翁、人撰集ソノ他ニハ玄翁トカケリ、

蜷川右衛門尉親當

蜷川右衛門尉親當ハ越中ノ人也、本ハ宮道氏也、後鳥羽帝ノ頃蜷川七郎親直トイフモノアリシ、建久八年八月廿八日卒シ、法名ヲ最勝院光岳居士トイフ、コレヲソノ家ノ元祖トス、ソノ後、五郎親綱トイフモノアリ、後堀河帝元仁元年二月十五日卒ス、法名ヲ蜷川院大岳親綱大居士ト稱ス、ソノ後親吉トイフモノアリ、越中ノ守タリ、親當ハ八世ノ孫ニテ、寛正五年ノ頃、畠山政長、足利氏ノ管領タリシカドモ、未政務ニ馴レス、伊勢守平貞親營中ノ事ヲ專ラ掌リテ威權日ニ振ヒシガ、親當ハソノ子親元歌道人物志ニ、親元ハ智蘊ト號シ、後花園院比ノ人トス、尋ヌヘシ、トトモニ部下ニ屬シ、政所公役京師沙汰人トナリテ、教書奉書等ノ事ヲ司トリ、日夜營中ニ侍セリ、親當ハ文才アリテ、紫野ノ大徳寺和尚一休ト交深ク、常ニ禪話アリ、且口才アリシ人ニテ、一休トノ狂歌問答今ニ傳ハリテ、人ノヨク知ル所ナリ、連歌ヲ僧ノ宗祇ニ學ヒテヨクセリ、竹林抄七子ノ一人也、文明三年一休和尚ヲ招キテ最勝寺トイフヲ建立シテ、ソノ開山トセリ、コノ寺ニ蜷川家世々ノ墓アリ、ソノ寺ハ富山ヨリ一里バカリ南、山ノ手西照寺村トイフニアリ、西照ハ最勝ノ填字也、三州志ニ、最勝寺建立テ親忠トスルハ親當ノ誤也、忠、當、草体相似タリ、親當後剃髮シテ智蘊法師ト號シ、文明十五年卯年三月十日卒ス、後朝戀トイフ歌ニ、

憂時ノ形見モ留メス起テユク朝露キエヌ道ノ笹原、

又越中ニアリシ時ノ發句ニ、

名モシラヌ小草花サク河邊哉、

コレラハ人ノヨクイヒ傳フル所ナリトゾ、サテソノ玄孫ヲ親世トイヒ、新右衛門ト稱セリ、大將軍義輝公ニ仕ヘテ、丹波ノ桐野、河内ノ蟠根寺等ノ邑ヲ領ス、ソノ子ヲ親長トイフ、コレモ新右衛門ト稱シ、書及和歌ヲヨクセリ、剃髮シテ道標ト號セリ、親當ハ今ノ世ニ新右衛門ト稱スレトモ、蜷川系譜ニモ見エス、外ニ徵スル所モナシ、恐クハ親長ヲ誤リシナルヘシ、親當ハ右衛門尉也、親當ヨリ數十世、足利氏ヨリ徳川氏ニカケテ連綿絶エヌトカヤ、

徳大寺實通卿

徳大寺實通卿ハ、本名ハ實規、公胤ノ子也、永正六年、從五位上ニ叙セラレ、累遷シテ權大納言ニ任セラレ、右近衛大將ヲ兼ネ、正二位ニ叙セラル、天文十四年、京師ノ亂ニ、公卿

離散、諸州ニ漂流セシ時、實通卿モ外戚ノ親ヲ憑ミテ、越中ニ來リテ、畠山高慶ヲ頼リ、諸卿九人ノ從者ヲ隨ヘテ、放生津ノ城ニ據リシカ、四月癸巳ノ朔、長尾爲景兵ヲキテ攻來リ、九日城落テ實通卿家臣ノ藏人右馬助藤原博世等九人ト皆打死セリ、時ニ年三十三、嗣ナキニヨリテ、右大臣久我通言公ノ次男ヲ嗣トセリ、徳大寺ノ系圖ニハ、コノ越中ニテ兵亂ニ死ニシコトヲ載セス、ソノ事ヲ忌ミシナルヘシト三州誌ニイヘリ、

冷泉爲廣卿

冷泉前大納言爲廣卿ハ、冷泉家元祖長家十一代ノ嫡孫、入道前大納言贈一品爲富卿ノ男也、足利義晴將軍ノ頃、細川高國權威ヲ擅ニシ、將軍ノ廢立ヲサヘ恣ニシケレハ、義晴將軍モ京ヲ出テラレ、干戈旁午、洛中騷擾、公卿モソノ家ニ安ズルコトアタハス、ヨリテ爲廣卿ハ、大永年中、能登七尾ニ來リテ、城主畠山氏ニタヨリ、終ニ同六年七月二十三日身マカリ給ヒヌ、ソノ塚、イカナル由縁ニカアリケン、加賀國津幡清水八幡神社ノ側ニ葬ムル、土人コレヲ廣塚トイヒ、又塔屋敷トモイフ、五輪ノ塔ナトアリシ故ナルヘシ、ソノ邊ヲ塚田トイヒ傳ヘケルヲ、二百年ノ後、寶曆ノ初、冷泉民部卿爲村卿キ、給ヒテ、明和二年十

二月、國老前田土佐守直躬ニ就テ相謀リ、一石碑ヲ建テ、又廣塚ノ記ヲモ作り、能州ノ不動山天平寺、及津幡ノ弘願寺ユヅリニ納メラレシトイフ、畠山氏ノ連歌ヲ催サレシ時ハ、爲廣卿モシバシバソノ會ニ出席アリシトイヒ傳フ、余コトシ昭和五年一月二十八日ソノ塚ニ詣ツ、次手ニ河合明氏ニ就テキクニ、ソノ地ハ今ハ町トナリ、塚四面ノ田ハ、百姓二人ノ所有ニシテ、塚ノ地ハ共有地ナリ、昔ハ林ノ中ニアリシヲ、陰ニナルトテ、百姓ドモ伐倒シ、墓モアサマニナリシヲ、河合氏獨力ニテ修繕シ、玉垣ヲ結繞ラシケルトソ、明和ノ石碑ニ並テ、明治八年、冷泉家ヨリ書テ送ラレシ歌ヲ刻ミテ、サラニ一石碑ヲ立テタリ、前ノ石燈籠ハ不動山看司ト前田土佐守トノカタカタヅ、立テタルナリ、

能登永閑

能登永閑ハ、能登ノ産也、牡丹花宵柏ノ門人ニテ、月村齊宗碩ニ就テ、連歌ヲ學フ、其比、同國七尾城主畠山右衛門尉義元、風雅ノ人ニテ、騎射ノ暇アレハ、和歌連歌ヲ嗜ミ、小牧トイフ所ノ邊、風景絶佳ノ地ヲ、播州明石浦ニ擬シテ、人鷹ノ窟ヲ建テ、宗碩等ヲ招キテ、時々歌會アリ、ソノ時永閑モ出席セシト也、和學ニ達シ、後ニ源氏物語ノ抄ヲカキ、萬水

一露ト題ス、法華ノ二十八品ニカタドリテ二十八卷トシ、コレヲ十二冊トシテ今ノ世ニ傳
 フ、コノ書ハ、河海抄花鳥餘情ナトノ肝要ナル所ヲ書集メタルモノニテ、末ニ雲隱ノ說一
 卷ソヘタリ、一時ハアマネク世ニ行ハレシ本ナレトモ、公家ノ方ニハ用ヒスト鳥丸光雄卿
 イハレシ由、一時軒隨筆ニイヘリ、田舎ニハ珍ラシキ人ナルニ、公卿ノ嫉妬ニアヒテ、世
 ニ遍マネク弘マラサリシコソ口ヲシケレ、

芋堀藤五郎

ムカシ金澤ニ芋堀藤五郎トイフ人アリ、加賀介藤原良信トイフ人ノ末裔ナリトイフ、京洛
 ノ紛華ヲサケテコノ地ニ來リ、常ニ芋ホリテ市ニヒサキ、コレヲ終身ノ業トシテ、世ニシ
 ラル、コトヲ欲セス、ヨリテ當時ノ人芋堀藤五郎ト稱シケルトゾ、ソノ人トナリ寡慾ニシ
 テ施與ヲ好ミ、家唯四壁ニシテ、衡門三尺、蔬食ヲ甘ジテ晏如タリ、ソノ妻ハ豪家ノナニ
 ガシノ娘ニシテ、ソノ名ヲ和五トイフ、ソノ父母藤五郎ノ人トナリヲ愛シテ、巨萬ノ財ヲ
 娘ニモタセテ藤五ニ遣ハス、藤五固ク辭シケレトモキカス、終ニ夫婦トナル、妻ハ貞節ノ
 聞エアルモノニテ、ヨク藤五ニ仕ヘケルガ、藤五ハモト名利ニ心ナキ人ナレハ、妻ガサト

城南ニ、山科、
 高尾、伏見ナ
 ト云所アリ、
 是ヲ三莊トテ
 京ノ地名ヲト
 リテツケシハ
 藤五ノワサナ
 ルヘシ、其山
 科ノ莊ニ藤五
 ノ手植ノ松ト
 云アリシガ、
 近ク其地ヲ堀
 リシ時、枯レ
 タリト、或人
 イヘリト、高
 桑延宗咄、

ノ奢ヲ憎ミ、窃ニソノ金ヲ近郷ノ貧シキモノドモニ分チケレ、ソノ身ハ猶モトノゴトク、
 芋ホリテソノ日ヲクラシケレハ、妻モアマリニオモヘドモ、貞節ノ女ナレハ、忍ヒテアリ
 ケリ、一日妻ノ郷ヨリ沙金一包オクリコシケルヲ、藤五腰ニハサミテ山ニユキ、マタ貧シ
 キモノドモニクル、カ、ルコトタビタビニ及ヒケレハ、今ハ忍ヒアヘス、ソノ故ヲ聞ケレ
 ハ、藤五笑ヲ含ミテ云、汝カノ沙金ガホシキトヤ、我カ芋ホル山ニイクラモアル也、ホシ
 クハ取テ遣ハスヘシトテ、アクル日夥シクトリキテ城南ノ澤ニテ淘汰シ、モテ妻ニ與ヘシ
 ト云、コレニヨリテソノ比コノ澤ヲ金洗澤トイヒケルヲ、後略シテ金澤トソ稱シケル、コ
 レゾ金澤名稱ノ濫觴トハキコエシ、兼六園内露沸タル寒泉アリテ、ソノ水清クシテ竭キ
 ス、是ソノ澤ナリ、天保十五年甲辰ノ正月、ソノ側ノ岩窟ニ一大碑ヲタテ、金城靈澤碑
 ト名ツク、藩主温敬公ソノ事實ヲ津田鳳郷ニ銘ヲ渡邊栗ニ書ヲ市河米菴ニカ、シメラレ、
 サテソノ篆額ハ、躬ミツカラ筆ヲトラセラル、コレヨリ一勝蹟トナリテ、コ、ニ游フモ
 ノ必スユキテ見ルナリ、殊ニソノ地ハ藩ノ比ハ、竹澤御殿ノ苑中ニアリシヲ今ハ兼六公園
 ノ中トナリ、藤五郎ノ名モ、コノ水ト共ニ千載ニナガレ、金澤ノ名モ、ソノ跡ト共ニ天下

ニ知ラル、ニ至ル、奇遇トイフヘシ、サテ藤五ハ、カ、ルスネモノナレハ、妻モイツシカ、ソノ人ニ化シ、夫婦トモニ他ノ望ナク、平生ハ和歌ヲ詠シテ、ソノ志ヲ養ヒシトイヘトモ、今ハソノ歌一首モ傳ハラス、ソノ人己ニ寡慾ニシテ一点ノ野心ナク、廉直ニシテ仁慈深カリケレハ、近郷ノモノ盡クソノ恩ニナツキ、終ニ推シテ地頭トシケルトカイフ、年イクツバカリニテナクナリケム、寺地山ノ麓大乘寺邊ノ野中ニソノ塚アリ、今ニ破碑ヲ存ス、イツレノ年ニタテタルニカアラン、詩發句ナドヤウノモノヲ刻メドモ、分明ナラズ、程遠クヘテ後タテタルナルヘシ、面ニ二子塚ト刻ミタリ、二五ノアヤマリナルヘシ、藤五和五ヲ并セタルユエ也、誌ニ藤五ヲ評シテ義皇以上ノ人也トイヘル、ウベ也、芋ヲホリテソノ廉ヲ示シ、金ヲ洗ヒテソノ清ヲアラハシ、嫁資ヲ與ヘテ貧ヲメグミ、沙金ヲステ、身ヲ潔クシ、儉ヲ行テ生ヲ養ヒ、歌ヲヨミテ志ヲ樂シム、ソノ清廉潔白深仁寡慾ニシテ自在安樂ノ中ニ逍遙遊ヲシケル、真ニ曠世ノ道人ニシテ、百世ノ遺範タリ、

藤五ガ妻ノ話ハ、三州誌ニノスル所、甚タアヤシキ話ニカキナシテ、フトハ信ジカタケレトモ、今記述スルホトノ事實ハアリシナルヘシ、且ソノ人トナリヨリミルモ、カ

、ル事實ハアリツラントゾオモハル、シカ而已ナラス、世ノ人ノカバミナレバトテ、カクハ記シオク也、益アル話ナレハ、作物語トミン人アリトモ、ワレ禁ゼザル也、

長谷川等伯

長谷川等伯、通稱ハ久六、雲谷ト號シ、法眼ニ叙セラル、能登七尾ノ生也、家世々染物屋ヲ業トス、等伯染物ノウハ畫ガキヨリナラヒソメテ、繪事ヲ嗜ミ、京師ニ上リテ太秦ノ廣隆寺ニ寓居シ、狩野氏ノ門ニ游ヒテ畫ヲ學ブ、ソノ比ハ永徳山樂及ヒ海北友松ナト相繼キテ一世ヲ雄視セシカハ、先ツ永徳ニ就テ畫法ヲ問ヒシ也、晩年ニ及テ、千利休トトモニ狩野氏ノ畫風ヲ駁シ、ソノ格ヲ變シテ別ニ一家ヲナシ、ミツカラ雪舟五世ノ畫孫トイヘリ、ソノ實ハ狩野氏ヲ去リテ雲谷等顔ノ門人トナリシ也トイフ、等顔ニ於テハ、上足ノ門人ニシテ、特ニ肖像ノ寫真ヲヨクシ、一時ソノ右ニ出ツルモノナク、ヨリテ世ニ長谷川派ト稱ス、其力量氣局一等超出シテ、宗法ニモ泥マス、時徑ニモワタラス、天機横出、氣韻生動スト富田痴龍評シケリ、菅廬ノ寶前ニ掛ケタル辨慶ガ土佐坊ヲ擒ニセル圖、自雪舟五代長谷川等伯法眼七十五才及本法寺ノ涅槃像ノ大幅長三丈餘幅一丈餘ナトハ、皆ソノ筆也、藩祖高德公カツテ太閤ヨリ賜ハ

リシ秀次公カ伏見舊館ノフスマニ山水ヲ畫カシメ給ヒシコトアリ、ソノ襖、後越中ノ高岡城ニ移サル、ソノ畫ハ水墨ニ渲暈ヲ多ク用ヒタリト云、等伯ノ人トナリ、氣魄蓋世、ソノ人誠ニ偉ナリトイヘトモ、狩野氏ニ學ヒテ、後コレヲソシリシハ等伯ノ疵也、利休ノ等伯ニ從ヒテ狩野氏ヲソシリシモヨカラヌヲナリト、ソノカミノ人イヒアヘリケルトナリ、

長谷川信春

長谷川信春ハ等伯ノ長子也、通稱ハ久藏、家法ヲヨクツギテ彩色ニ妙ヲエタルハ、父ニモスグレタリ、花草禽獸人物佛像手ニマカセテソノ美ヲ極メストイフコトナシ、ソノ精密ナル所ハ、古法眼元信ヲ學ヒシ也、清水寺ノ樓殿ニ、時宗義秀カ戲諍ノ掛繪アリ、イハユル繪馬ノ絶妙トイヒアヘリ、文錄元年壬辰、肥前ノ名護屋ニ於テ、太閤ノ旅館山里ノ間ニ彩色ノ兒童ヲカケル、真ニ逼リテ動クヤウナリシトソ、能登瀧谷妙成寺ニモ一雙ノ屏風アリ、信春ノ筆也、弟ヲ宗也トイフ、父兄ニ及ハス、信春ノ子ヲ宗宅トイヒ、宗也ノ子ヲ等悅ト云、等悅ノ畫ハ、骨法極テ高シトソ、

林光明

林光明ハ六郎ト稱シテ、加賀石川郡林郷ノ豪族也、其先ハ藤原利仁將軍十世孫從五位下林太夫光家ノ子也、壽永二年、光明同郡横江庄ヲ金劍宮ニ寄附セシコト、源平盛衰記ニ見ユ、ソノ比ノ人ニシテ、其子六郎光茂、其子小二郎家綱、ソノ子六郎則光、相繼キテ林郷ヲ領セリ、六郎則光ハ、足利ノ中頃ニテモヤアラン、去リテ紀州ニ移ル、コレヲ正勝トイフ、三子アリ、吉勝、信時、周堅トイフ、三子ノ幼稚ナリシ時、正勝歿シケレハ、母三子ヲ携ヘテ大阪ニ移リ、ソノ長スルニ及テ、京都ニ徙ル、信時子數人アリ、長ヲ又三郎トイフ、天正十七年癸未ノ生也、是即林大學頭ノ祖羅山先生ナリ、正司考祺經濟問答秘錄ナトニ、慶長年中、神君加州林郷ノ處士林又三郎ヲ徵シテ祭酒トシ給フナトカキシハ、其先林郷ノ出ナルヲ以テカクハイヘル也、コノ故ヲ以テ林家ハ代々前田家ニ出入シ、正月元旦登城ノ後ハ、直ニ本郷ノ御邸ニ參リテ拜賀申上、詩ヲ献ズルガ恒例ナリシト云、久徵館 雜誌コノ郷ハ、順和名鈔ニ見ユルハヤシ拜師郷ニテ、モト十九村アリ、後々マテ、六郎館、六郎畑ナト稱スル古墟アリ、モト光明ノ住セシ處ナリ、元龜天正ノ頃ニハ、賊魁善四郎トイフモノ、コノ郷ノ上林中林下林ヲ押領シ、ミツカラ三林善四郎ト稱シ、天正八年ニ柴田勝家ニ亡サレシト云、

三州遺事中編目次

卷一

前田高德公
前田瑞龍公
前田利政
前田慶次
本多政重
奧村永福
村井長賴
親長
長道
橫山長知
長連龍
山崎閑齋
富田重政
高山南坊
津田重久
上坂又兵衛

雨森彦三郎

卷 二

前田微妙公

小笠原刑部

王伯子

松永遐年

於永永三

板屋兵四郎

中編卷一

前田高德公

前田高德公ハ前田縫殿助休岳公名ハ利春ノ第四男ナリ、其系ハ菅原相公ヨリ出テ、數世ノ後、筑前ヨリ尾張ノ前田村ニ移住ス、ヨリテ前田氏ト稱ス、盖尾張ニ移リシ人ヨリ休岳公ニ至ルマテ、六世ヲ重ヌト云フ、休岳公ハ織田信長公ノ旗下ニ屬シ、荒子城ニ住シ、二千貫ノ地ヲ領シ、勇武ヲ以テ著ハル、公十四才ノ時、信長公ニ謁シ、祿五十貫賜ハリ、長兄ノ利久藏人嗣ナキニヨリテ、ソノ後ヲ襲グ、幼名犬千代、後孫四郎、或ハ又左衛門ト稱シ給フ、長スルニ及ヒテ、智勇絶倫、寛仁人ヲ愛シテ風度豁然タリ、天文二十二年八月、海津ノ戰信長公、其族織田彦四郎ト戦フニ始テ軍ニ從ヒ、奮戰胄ノ首ヲ獲タル、時ニ年十六才、信長公喜テ云、幼年ニシテ己ニ此功アリ、此子膽ニ毛アリトイフヘシト申サレケルトゾ、同年八月二十四日、稻生ノ戰ニ、信長公弟信行叛ス公敵ニ右眼ノ下ヲ射ラレナガラ、ソノ箭ヲ抜カス、進ミテソノ首ヲトリ、生血ノシタダルヲ提ゲテ、信長公ニ献セラレケレハ、コレヲ馬上ニカ、ゲテ衆ニ

示シ、モテソノ功ヲ賞セラル、後清洲ニ着シ、諸將ニ宴ヲ賜ヒシ時、手ツカラ肴ヲトリテ、公ニ下サレ、ソノ髯ヲ捉リテ、美髯子ノ勇武、イカデカ鎌倉權五郎景政ニ劣ルヘキト申サル、永祿二年、信長公ノ童坊捨阿彌ヲ、事ニヨリテキリ殺シ、勘氣ヲ蒙リテ放逐セラレ、同三年桶狭間ノ戰ニ、私ニ出テ軍ニ從ヒ、拔群ノ功ヲ立テ、同四年信長公齋藤龍興トノ戰ニ、マタ奇功アリシカハ、コ、ニ初テ勘氣ヲユルサレ、桶狭間ノ功ヲ併セ賞セラレテ、三百貫ノ地ヲ賜フ、時二年二十四才也、十一年近江箕作城攻ノ時、公前軍ニ屬シ、衆ヲ拔テ先登シ、聲ヲアゲテ奮戰セラル、ヲ望ミテ、信長公云、其威夜又ノゴトク、ソノ聲ハ又左也ト申サレケルトゾ、元龜元年九月、大阪本願寺ノ戰ニ、佐々成政等敗軍ニ及ヒシカハ、公、信長公ノ命ニ從テ馳向ヒ給フ、身ノ長六尺、バカリ赤ノ母衣ヲ負テ銀ノ兜帽ヲ蒙リ、手ニ長槍ヲ提ゲテ、叱咤風ヲ生シ、縱橫奮擊、數十人ヲ目ノ前ニ殪シ給ヒシヲ、信長大ニ喜ヒ、川ヲ隔テ、大聲ニ日本一ノ剛ノ者ゾト呼給ヒテ、嘆稱斜ナラス、世ニコレヲ前田カ土堤ノ槍トイヒハヤセリ、天正九年十月、度々ノ戰功ニヨリ、能登二十三萬三千石ニ封セラレ、長連龍ヲ麾下ニ屬セラレ、其長子利長公ハ越前府中三萬三千石ニ封セラレケル、ヨリテ公

七尾城ニ入り、惡政ヲ省キ、仁惠ヲ施シ、封内悅眼セリ、十一年、豊臣秀吉公柴田勝家ヲ討給ヒシ時、公勝家ト入魂ノ間柄ナリケレハ、勝家ヲ助ケテ、軍ヲ府中ニ歸ヘス、勝家モ秀吉公ニ打タテラレテ、ハフノノ牀トナリ、僅ニ數人ヲ從ヘテ逃歸ル、時ニ大井直泰密ニ告テイヒラク、今ノウチニ勝家ヲ仆シテ秀吉公ト和睦アルヘシ、コレ禍ヲ轉ジテ福トスルノ上策トイフ、公キ、給ハス、ヨリテ絶テコレヲ復サフシケレハ、利家公大ニ立腹シ給ヒテ、直泰ノ智ヲ打チ、ソノ方ハ武士ノ道ヲシラズヤ、余勝家トハ、シタシキ中也、今ソノ敗軍ヲ見テコレヲ殺サンコト、武士ノ本意ニアラス、タトヒ勝家ヲ殺シテ天下ヲ獲トモ、何ノ面目アツテカ人ニ對スヘキトテ、城門ヲ開キテ迎ヘ入ル、勝家コレヲ謝シテ落涙ニ及ヒシヲ、色々トナクサメテ、勝家ヲ北庄ニ歸ラシムルウチニ、秀吉公府中ニ着到アリテ、和ヲ申入ラレシカドモ、キ、入レ給ハス、使者三反ニ及テ、始テ和ヲ議シ、サラニ勝家カ死ヲ許サレンコトヲ頼入レラレケルニ、秀吉公モ公ニ面シテ御免アリケレハ、早速コレヲ告遣ハスヘシトテ馬ニ鞭ウチテ驅出ラレシガ、未タ城門ニ至ラヌウチニ、城内ヨリ火アガリテ、勝家終ニハカナクナリケレハ、利家大息流涕シテ、事已ニ後レタリ、サテノア

タラ勇將ヲ失ヒケルト、イタクカヲ落サレタリトイフ、ソノ交義ニ厚キ皆コノ類也、コノ年、加賀ノ河北石川ノ二郡ヲ領シ、尾山ニ城ヲツキ、先代佐久間盛政ノ苛政ヲ除キ、封内盡ク公ニ服セリ、十三年二月、秀吉公越中ノ佐々成政ヲ攻メラレ、成政降參ヲ乞ヒケルニ、秀吉公公ニ仰セラレケルハ、成政切ニ頼メトモ、ソノ罪許スヘカラス、今アラハニ許シテ、コレヲ擒ニセハ、イカントアリケレハ、公申サレケルハ、殿下新ニ高位ニ陞リ給ヒ、天皇ノ爲ニ不庭ヲ討ジ給フ御事ナレハ、拒クモノハ誅シ、降ルモノハ許シテコソ恩威並ヒ行ハレテ、信義モ天下ニタチ候ヘケレ、サルヲ降ヲ入レテ、マタコレヲ生捕ニセンハ、コレ僞ヲモテ僞ニ代ヘ候モノ也、何トテ威信ヲ天下ニタテ給フヘキ、シカズソノ自新ヲユルシテ、ソノ他ヲ安堵セシメ、速ニ天下ノ望ニ叶ハセ給ハンニハト申サレケレハ、ゲニモトテ、コレニ同ジテ降ヲ許シ給ヒケリ、コノ年閏八月、累年ノ功ヲ賞セラレ、越中礪波射水婦負ノ三郡ヲ拜領シ、サラニ姓ヲ賜ハリテ羽柴筑前守ト稱セラル、十五年豊公西征アリテ、世子ハ從軍、公ハ京師ニ留マリテ專ラ皇室ヲ護リ、京畿ヲ鎮メ給フ、十六年後陽成天皇太上皇トトモニ、豊公聚樂ノ亭ニ行幸アリテ御製ヲ下シ賜ヒ、豊公以下應制ノ歌ヲ献ル、公ノ御

歌ニ、

植オケル砌ノ松ニ君カフル千代ノ行クヘゾカネテシラル、

十七年、豊公奥州ノ役ニ、公ノ先陣既ニ發ス、公引續テ下野ノ絹川ニ到ラル、ニ、偶大雨ニテ川漲リケルヲ、公愛馬ノ京水ヲオドラシテ渡リ給ケレハ、世子利長公初メ諸將アラソヒテ水ニ入り、既ニワタリツキテ、サテノ危カリシト申ケレハ、諸公ノ危ミシモサルコトナレトモ、先鋒已ニ川ヲワタリテ後軍涉ラズ、ハアタラ股肱ノ將士ヲ棄ツル也、股肱ノ士ヲ失ヒ候ハ、余ノ生候ハンモカヒナキコト也ト申サル、コレヲキ、テ一軍感泣シケリトイフ、十九年二月、多年皇室ヲ擁護シ、京畿ヲ鎮撫セラレシ功ヲ賞シテ清華ニ列セラル、公參朝アリテ白銀ヲ献シ、御宴ニ倍シ給フ、スヘテ當時皇室ノ不勝手ナル、言語ニ絶シケレハ、度々物ヲ献シテ用度ヲ助奉リ給シナリ、文祿元年、朝鮮ノ役起リ、二月公八千ノ兵ヲキテ、肥前ノ那古屋ニ著陣、秀吉公ノ命ヲ奉シテ、徳川家康公トトモニ軍事ヲ督セラレ、三年權中納言ニ任セラレ、十月宇治川ノ築堤ヲ命セラレ、公ミツカラ畚ヲ荷ヒテ土ヲ運ヒ給ハントスルニ、膂力人ニスクレ給ヒテ、相棒ナカリシヲ、齋藤刑部及長連龍ノ家來鈴

木因幡ノ兩人、ミツカラ進ミテ相手仕リ、旬日ヲヘズシテソノ功成就シケルトゾ、時ニ夫人イサメテ申サレケルハ、古ヨリ納言ノ官ニ昇リ給シ御身ニシテイカテカミツカラ畚ヲ荷ヒ給フ人ノ候ハンヤト申サレケルヲキ、テ、ゲニモサル人コソ候ハネ、今コノ身ノカクスルハ、一ハ子孫ヲシテ祖先ノ苦勞ヲミテ安逸ニクラサシメザランタメナリト申サレケレハ、イツレモキ、テ感奮シケルトナン、慶長元年正月十一日、從二位ニ叙シ、權大納言ニ任セラル、時ニ諸臣ニ仰セラレケルハ、各方、天文以來、多年ノ間、余ニ從テ攻城野戰ニ力ヲ盡シ、今日身共ノ三州ヲ領シ、位二位ニ昇リ、官亞相ニ至ルモ、皆各方ノ力ナリ、身共ハ日夜コレヲオモヒテ勳業ヲ失ハンコトヲ恐ル、ナリ、各方モコノ意ヲ深ク体シテ、吾力過ヲ咎メ非ヲ諫メテ、ソノ忠節ヲ完ウセテレヨトアリテ、一同益々忠勤ヲ勵ミケリトゾ、三年七月、豊公病重リ、愈エサルヲ知り給ヒテ、大老中老等ヲ定メ、公ヲ擢ケテ大老トシ、大坂ニ留マリテ嗣子秀頼公ヲ保リ、徳川家康公ハ伏見ニアリテ事ヲ視ルハキヤウ、且ツ諸侯伯ヲシテ數條ヲ約セシメラレ、程ナク薨去シ給ヒキ、時ニ豊公父子伏見城ニアリ、四年正月、公秀頼公ヲ護シテ大坂ニ移ラント謀ラレケルニ、生母淺井氏承知セス、家康公モ期ヲ延ハシテ可然

ト申サル、公云、先君ノ体未冷エザルニ、ハヤ遺令ニ違ヒ給フカト申サレケレハ、家康公以下留ムルコトヲエス、十一日、公秀頼公ヲ護シテ大坂ニ徙リ給ヒシガ、コノ時タマ〜家康公福島伊達蜂須賀ノ三家ト婚ヲ結ヒシカハ、石田三成コレニ乘シテ諸大老ニ家康公ノ遺令ニ違ヘルヲ訴へ出テ、急ニコレヲ討チ給へト申ス、諸候オノ〜ソノ用意アリシカドモ、公コレヲ許シ給ハス、諸大老等ト連署シテソノ遺令ヲ詰リ給ヒシカハ、家康公アヤマリ給フ、ヨリテソノ事止ミシカドモ、コレヨリ讒間兩家ノ間ニ入り、其隙解ケス、二十九日伏見ニ會同アリテ、初テ故ノゴトクナリシトイフ、閏三月、御病氣危篤ニ及フ、乃チ遺令ヲカキテ利長公ニ授ケ、夫人ニ仰セラレケルハ、嗣君幼ニシテ父君ニ別レ給ヒ、徳川殿ト我ヲハ常ニ江戸翁加賀翁トヨヒ給ヘル、ソノ愛ノ深キイカニゾヤ、シカルニ今我空クナリヌトキカレ候ハンニハ、イカハカリ歎キカナシミ給フラン、コノ身ニ取テモ、今五年七年トナガラヘ候ハンニハ、必ス嗣君ノ天下ヲ治メ給フ時ニアヒ奉ンモノヲ、サリトテモ限アル命ナルコソウラミナレト、身後ノ事ヲオモヒヤリ給ヒテ、忿恚ノホトモ色ニ見エサセラレ、眼ヲ張り齒ヲクヒシバリ、カタヘナル新藤五國光ガ中脇刀ヲ取り、鞘シリヲ御曾

ニアテ、イラ、ギ給フコト兩三聲ニシテ息氣絶エ給ヒキ、實ニ慶長四年閏三月三日、天文七年十二月廿五日ノ御生ニシテ、年六十二才、天皇キコシメシテ、震悼シ給ヒ、特ニ從一位ヲ賜ラセ給フ、遺骸ハ遺言ニヨリテ金澤城南野田山ニ葬リ奉ル、配ハ高島氏、名ハ松、左京大夫吉廣ガ女也、芳春夫人ト稱ス、十四才ノ時、休岳公トリテ公ノ配トセラル、賢ニシテ貞靜也、世子利長公襲封、公人トナリ、只智勇人ニスクレ給ヒシ而已ナラズ、干戈騷擾ノ間ニ生レ給ヘトモ、夙トニ學文ニ志サシ、治方ヲ明ニシ、上ハ天朝ヲ尊ヒ、下ハ豊公ヲ佐ケ、終始一節噉カナルヲ日星ノゴトク當時ソノ類ヲミサル所也、ソノ上、京師ニ居給フ時ハ、藤原惺窩ニ就テ論語ヲヨミ、託孤寄命及國有道則見ノ章ニイタリテハ、尤意ヲイダシ、終身忘レ給ハス、人ニモシハ、コレヲモテサトシ給ヒ、平生鎧櫃ノ内ニハ論語一卷ト算盤一挺トヲ收メ給ヒシ由、其他織田信長公右筆武井肥後守ヲ招キ、近臣ノ岡本三休トトモニ兩人ヲ左右ニオキテ、儒書ヲ講セシメ、或ハ疑義ヲ問ヒ給ヒテ、ツユモ怠給ハサリシトイフ、サレハソノ智ソノ勇、多クハ聖經賢傳ノウチヨリ出來シモノナレハ、智ニシテ鑿ニナガレス、勇ニシテ暴ニ陥ラス、寬ニシテ弱ナラス、簡ニシテ疎ナラス、臣節ヲ欠

ケルモノハ、細美アリトモ取ラス、大義ヲ全ウセルモノハ、微瑾アリトモ問ハス、ソノ他瑣細ノ事マテモ、心盡アリケレハ、人心ニ結テハナレサルモノアリ、關白秀次公ノ滅サレシ時、猪子内匠等、コレニ連ナリテソノ家ヲ沒收セラレシカハ、姦人爭テソノ家寶ヲ奪ヒケルヲ、公巨金ヲ投ウチテコレヲ買ヒモトシ、其宛明ニナリテ赦サル、後、悉クコレヲ返サレケルトゾ、コレヲハ人情ノ難トスル所也、平生ハ至リテ節儉ヲ守リ給ヒ、其佩刀ノ柄ナトハ、革マキニテ、終身カヘ給ハス、ヒタスヲ租稅ヲ寬クシ、萬民ヲ安ンズルヲモテ心ト給ヒシトナン、又諸侯ノ豊公ニ倣ヒテ各ソノ姓ヲ功臣ニ授クルヲミテ申サレケルハ、凡テ士タルモノ、命ヲ棄テ、君ニ忠センハ、皆ソノ祖先ノ姓名ヲアラハサントテ也、カノ太閤殿ノゴトキ威德アラハ、サテモアルヘキカ、諸侯ニシテコレニ倣ハンハ、イハレナキノミナラス、人情ヲモシラヌワザ也ト申サレシナト、皆ソノ學德ニ原ヅケルヲ想フヘシ、猶遺令ノ數條モアリテ、人事ノ細ヨリ治國ノ大ニ至ルマテ兩端ヲアゲテ説盡サレシトイヘドモ、公カ一生ノ行事ハ、皆是遺令ニシテ萬世ノ遺訓也、我三州ノ人情風俗モ、オノツカラソノ遺範ノウチヨリ陶鎔シ出來リシモノ也、今マテモコノ遺範ヲダニ守リタランニハ、何ソ天

下ニ雄飛スルニ至タラザランヤ、シカルヲ道ヲ遠キニ求メテ近キニ求メス、何ノユカリモナキ西國ノワシントンヤ、ナボレオンノ事ハ知レトモ、高德公ノ行事ニ至テハ、ソノ一端ダニモ嘗トシテシラザルモノ多ク、ソノ甚シキニ至リテハ、維新ノ失策ヲモテ、遠ク高德公ノ御身上ニ及ホシケルモノアリ、豈慨嘆ノ至ナラスヤ、我北國ノ人士ハ、トカク機ヲミテ進マス、人進ミテコレニ從フ、コレ今日ノ通弊ニシテ、先ツ一大打撃ヲ加フヘキモノ也、何ソ高德公ノ行事ヲミテコノ弊ヲタメサザル、末森ノ急報至ル、公尾山城ニ在リ、蹶起シテ馬ヲヒキ出サシメラル、夫人云、孫四郎瑞龍公ヲマチテ御出馬アソハサレテ然ルヘシト申サレシニ、公聲ヲ勵マシテ云、婦女何ソ兵機ヲシラムトテ、ミツカラ甲冑ヲ着シ給ヘハ、夫人急キテ酒ヲマキラセラレケルニ、公欣然トシテ大白ヲアゲ、鞭ヲアゲテカケ出テ給ヒ、諸將士カクトキ、テ森下邊ヨリ津幡マテノ間ニテ、漸ク追付ケルトゾ、コレ何ソ豊公カ賤岳ノ戰ニ赴カレシニ似タルゾヤ、ア、吾北國勇士萬世ノ遺訓ハ、近ク高德公ニアリ、學ヒテソノ人トナラバ、君ニ仕ヘテハ、社稷ノ臣也、主ニ仕ヘテハ顧命ノ臣也、國ニ臨マバ具瞻ノ大人ニシテ、人ニ接ハラバ、翹望ノ君子也、勇將トナルモ、智者トナルモ、眞儒トナ

ルモ、國士トナルモ、孝子、義僕トナルモ、人ノ取ル所ニマカス、孔子ノ門人ハオノノソノ一体ヲ取テ成人ノ徳ヲ成セリ、今我縣十萬ノ人士モ、オノノ其性ノ篤キ所ニヨリテ、公ノ一体ヲ具フヘシ、吾コレニヨリテ公ノ傳ヲ書スル、細事ヲステ、其大躰ヲカケ、以テ觀感ノ資トス、心アラン人、ヨロシク留意細看スヘシ、
太閤ノ柴田勝家ヲ征スル、城ニ火ノアガルヲ見テソノ首ヲ見ズ、直ニ越中ニ趣キ、佐々陸奥守ヲウチ給フ、ソノ神速ナルコト、槩ネ此ノコトシ、
蒲生氏郷ノ近習問テ曰ク、太閤沒後關白殿秀次ニ馬ヲ撃キ給フヤ、氏郷曰ク、カ、ル愚人ニ從フモノ、誰カアラム、又問フ、シカラハ天下ノ主タル人ニ、誰ヲカ推シ候ヘキ、曰ク加賀ノ又左衛門ナリ、曰ク又左衛門聽給ハスハ、誰カ代リ候ヤ、曰ク又左衛門聽キ給ハスハ、我代ルヘシト、家康公ノ事ヲ問ヘハ、彼ハ天下ヲ得ヘキ人ニアラス、人ニ知行ヲ過分ニ與フルノ器量ナシ、又左衛門ハ人ニ報ユルニ十分ノ加増ヲ吝マス、天下ヲ取ルヘキハ此人ナリ云々、コレヲミテ公ノ行事ハ、スヘテ太閤式ナリシコトモ、將又當時ノ世評モ公ニ歸セルサマ、想合ハスヘシ、

前田瑞龍公

瑞龍公名ハ利長、幼名ハ犬千代、後孫四郎ト改ム、永祿五年正月十二日、尾張ノ荒子城ニ生給フ、天正九年冬十一月、織田公ノ女ヲトリ給フ、コレヲ玉泉夫人ト稱ス、十年織田公ノ明智光秀ニ弑セラレ給ヒシ時、公伊勢ノ松ヶ島ニ赴キテ、織田公ノ第三子信雄幼名茶筍、後内大臣トナルニ復讐ヲ勸メテ、大舉ヲ議ル、十四年十二月豊臣公ノ西ノ方島津氏ヲ討チ給ヒシ時、岩石ノ城西海第一ノ要害ニシテ、薩摩武士モ豊公ハタトヒ鬼神ナリトモ、ヨモヤコノ城拔カレマジトオモヒ、味方ノ諸士モ、イト難カル色ノミエケルニ、公蒲生氏郷トトモニ慨然トシテ云、人抜カスンハ我等抜クヘシト申サレケレハ、豊公モコトニソノ勇ニ感シ、羽柴秀勝ヲシテコレヲ統ヘサセテ攻寄り、敵味方トモ殊死シテ戦ケルガ、公ノ將大田長知松平康定マツ先ニ進ミテ北門ヨリ登ル、氏郷ノ兵モ次デ南門ヲ破リ、南北夾打ち、城遂ニ落チケルヲ、豊公遙ニ望ミ、急使ヲ馳セテ之ヲ賞シ、感狀ヲ賜フ、島津氏ノ降參ヲ願入レシハ、コノ城ノ落チシニヨルトゾ、十六年、天皇聚樂行幸ノ時、歌ヲ献リ給フ、

數ヘミム千歳ヲチギル老松ノ宿ニ小松ノ陰ヲ並ベテ

慶長三年、高德公隱居セラレテ、公封ヲツギ、從五位ニ叙シ、權中納言ニ任セララル、四年閏三月高德公ノ薨去アル、公遺令ニ從テ、大坂ニ留マリ給フ、時ニ加藤清正等三成ヲ誅セント申サレシカトモ、只今兵ヲ動カサバ、亂必コレヨリ起ルヘシ、諸君願クハ忍ンテ暫ク待チ候ヘ、モシ誅セント欲セハ、諸公ヲ勞スルマテモナク、某一人ニシテ事足ルヘキ者ヲト申サレテ、ソノ八月暇ヲ乞テ金澤ニ入部セラル、九月石田三成等加賀殿異志アリトノ流言ヲ放チケレハ、徳川家康公立腹セラレシトヤランニテ、細川忠興中ニ入テ、事ナクスミケリ、サレトモ、其頃ヨリ兩家ノ間不和ヲ生シ、公ハ務メテ鋒鏑ヲ斂メ給ヘトモ、天下ノ耳目ハ、兩家ニ集マリテ、兩立セザルノ勢アリ、別テモ家康公ハ、子ノタメニ毫トナリ、ハヤク秀忠ニ豊臣家ノ跡ヲ取ラセテ、ソノ行末ヲ見届ケテ逝キタシトノ一念ニ傾ケル程ニ、諸事取急ク、大坂方ハ全クソノ術中ニ陷テ、遂ニ關原ノ戦トナリ、ソレニ海内ノ諸大名ハ永年ノ戦ニ倦ケレハ、徳川ニ抗スル者モナク、ソノ間ニ秀忠公ハ征夷將軍トナリテ、覇業ノ基全ク成リ、目ノ上ノ瘤トナル者ハ、唯瑞龍公ノミナレハ、事々ニ睨マル、ノウルサ、ニ、慶長十年終ニ封ヲ利常公ニ讓リテ、富山ニ退老セラレケルガ、十四年城中ノ火災ニア

ヒテ、一時魚津城ニソノ難ヲ避ケ、尋デ關野ノ地ヲ相シ、高山南坊ニ命シテ城ヲ築カシメ
 ラレケルゾ、今ノ高岡ニシテ、詩ノ鳳凰鳴矣。于彼高岡ノ文字ヲトラレシ、寓意ノアルコ
 トナルヘシ、ソノ地山河ノ形勢、誠ニ高岡鳳鳴ノ勢アリテ、古ノ關野ノ名ニモ負カス、
 一方ノ要害タリ、サレハ一朝事アラハ、天下ノ衝ニ當ランノ用意ハ、ヲサノ意ナカリシ
 者ノゴトシ、シカルニソノ翌三年ノ春、ハカラス病ニカ、リ、十八年ノ冬、大坂ヨリ織田
 左門ヲ使トシテ、大坂方ニ味方セラレンコトヲ頼マレ、公理ヲ盡シテ手ヲヒカレシカド
 モ、先公ノ遺令モアルコトナレハ、固ヨリソノ本意ニハアルヘカラス、サリトテ大坂ニ
 左祖スレハ、天下再大亂トナリ、關東ニ左祖スレハ、大坂ニ忠ナラス、進退コ、ニ谷マ
 リテ、病氣益募リ、終ニ湯藥ヲ絶チテ申サレケルハ、吾死ナバ天下一統トナラントテ、五
 月二十日五十三才ヲ一期トシテ薨シ給フ、吾前田家藩祖以來、公ホト苦境ニタチ給ヒシハ
 ナク、ソノ傳ヲ讀ムゴトニ、吾未曾テ落涙セスンハアラス、アハレ豊公薨去ノ後、高德公
 逝キ、加藤侯逝キ、シカシテ家康公跡ニ殘リテ豊臣家亡フ、豈天ニアラスヤ、公ノ國家ニ
 殉シテ天下ノ塗炭ヲ救ハレシモ天ナリ、利常公ノ北陸唯一ノ菩提所ヲ建テ、前後ニ類ナキ

墓域ヲ築キ、以テソノ遺靈ヲ慰メ給ヒシモ、故ナキニアラス、且又公ノ一代ニ越中ヲ開拓
 シ、土民ヲ安撫シ給ヒシ、ソノ浩澤ハサラニモ云ハス、ソノ忠勇ノ流風、今ニ高岡市民ノ
 勤王トナリ、尙武トナリ、勤儉ノ氣魂トナリテ商工人ニシテ武士根生ノ、今ニ存セルハ、
 イツレモ公ノ遺範ナラサルハナシ、豈亦偉且大ナラスヤ、

前田利政

前田利政ハ幼名又若、長スルニ及テ孫四郎ト稱シ、侍從ニ任セラル、高德公ノ第二子瑞
 龍公ノ同母弟ナリ、天正六年尾張荒子邑ニ生レ、文祿三年九月、京師ノ第二テ鎧着ノ式ア
 リ、會津ノ城主蒲生氏郷ソノ席ニ臨マル、氏郷ハ利政ノ岳父タリ、後能登ニ封セラレ、慶
 長二年老臣長連龍高山南坊不破源六ナト皆利政ニ屬シテ、七尾城ニ住セラル、四年三月高
 徳公疾篤キニ及テ、遺令ヲ書キ、藩士ヲ二分シテ一半ハ瑞龍公領カリテ大坂ニ在リ、一半
 ハ利政率キテ金澤ヲ守ル、且先公ノ遺言ニ、我死シテノ後、豊臣家ニ對シテ、不軌ヲ圖ル者
 アラハ、利政直ニ兵ヲ師キテ西上シ、兄ト力ヲアハセテ決戦スヘシトアリケレハ、關原ノ
 役ニ、兵ヲ率キテ大聖寺ヲ圍ミ、金澤へ歸ラレシ後、徳川家康公ヨリ使ヲ以テ出兵ヲ趣カ

サレタレドモ、秀頼公ニ味方スルノ志ハ、露モカヘ給ハス、芳春大夫入ヲ人質トシテ江戸へ遣ハシ參ラスルニモ、異議アリ、ヨツテ疾ト稱シテ兵ヲ出サス、是ヨリ先キ家康公ノ高徳公ガ病氣ヲ見廻レシ時モ、隙ヲ狙ヒテ刺殺サントシテ、瑞龍公ニ相談アリケルニ、公驚テ申サレケルハ、徳川公ハ病氣見舞ニ來ラレシナリ、今故ナクシテコレヲ刺サハ、天下是ヨリ再亂ルヘシ、他日反形露ハレナバ、トモカクモナリ、ユメ輕舉事ヲ過マルヘカラスト制シ給フ、ソノ詞ニ從ハレタレトモ、ヒ首ヲ懷ニシテ、隙ダニアラハ、近ヨラル、サマナリシカハ、瑞龍公色ヲ厲シテ近ヨラシメス、利政モ詮ナク、事ニ託シテソノ席ヲサラレシトゾ、是ノ事ニヨリテ、終ニソノ封ヲ除カレテ京師ニ上リ、祝髮シテ宗悅ト號ス、十九年ノ役ニ、家康公十萬石ヲ以テ招カレシカドモ、笑テ應セス、秀頼公モ事成ラバ、加賀越前二國ニ封スヘシト申遣ハサレタレトモ聽給ハス、寛永十年七月十四日、孤憤ヲ抱テ京都ニ卒ス、年五十六、紫野大徳寺中芳春院ニ葬ル、利政人トナリ沈毅ニシテ忠勇、武技ニ長シ、高徳公ニ深ク愛セラレケルトゾ、又風流ニシテ三絃ヲ彈シ、今様ヲ謠フ、京師ニト居セラレシトキ、人來テ尋ヌレハ、ソノ曲ヲ奏シ、是ハ能登ヲエタル一曲也ト申サ

レシトゾ、時々芳春太夫人ノ安否ヲ伺ヒ、高徳公ノ事ヲ談ズレバ、落涙頤ヲ沾サレシト云フ、其子三左衛門直之本藩ニ仕ヘテ小松ノ城代トナリ食祿一萬石ニ至リ子孫世襲、今ノ前田男爵直ハソノ世系ナリ、尙詳シキハ加賀藩史稿ニ就テ見ルヘシ、

前田慶次

前田慶次郎名ハ利太、實ハ織田家老臣瀧川左近將監一益ノ從子、儀太夫益氏ガ子、初ハ宗兵衛利益、又利治ト云リ、前田利家卿ガ兄藏人利久ノ養子トナリ、祿五千石、能登七尾城主タリ、學和漢ヲ兼ネ、史記國字解ヲ書テ、桃源抄ト名ツケラル、ソノ説精覈ニシテ、學者ノ未タ發明セサテ云、喻ガ勇ハ攻城野戰ニアラス、顔ヲ犯シテ高祖ヲ諫ムルニアリト申サレシヨシ、殊ニ源語勢語ニ精シク、又詩ヲクシ、韻譜ヲ手抄シ兵馬ノ間折テ細楷ニカキ、厚表紙ヲツケ、麻繩ニテツヅリ腰間ニ帶フルニ便ス、ソノ書現ニ上杉伯爵家ニ傳フト岸上質軒カ文ニ見ユ、能樂ニ長シ、連歌ヲ昌叱ニ學ヒ、慶長七年春直江兼續等ト同道シテ龜岡文耕堂ニ遊ヒ、互ニ唱和セラレタル歌アリ、ソノ中樵路ツ、ツニ、山柴ノ岩根ノツ、ツカリコメテ花ヲキコリノカヒカヘル路、船過江トイフニ、吹風ニ入江ノ小舟コギキエテカザノオトノミタ波ノ上書ハ本阿彌光悅ニ學フ、當時滑稽諧謔ヲ以テ世ニ鳴ル、或時猩々緋ノ羽織、虎皮ノ袴ニ、茶筌搦ヲ横ニシテ、聚樂亭へ參ル、貴様ノ鬚ハ、何故ニ横ニマゲテアルゾトイヘハ、マゲタルガ故ニ鬚トイフ、サレドモ君ノ御前ニテハ眞直ナリトテ首ヲ横ニムケラレシトソ、又猿樂ノ席

ニテ、素袍大紋、鬚モ正シクシテ出テ、我等モ一指舞ハントテ、舞ツ、浮田中納言秀家、
 徳川内大臣家康、毛利中納言輝元、伊達宰相政宗等ノ膝ノ上ニ尻餅ヲツク、上杉中納言景
 勝、オノレト短刀ヲ膝ノシタニオキテ、田樂ザシニシテヤラント待ケルニ、ソレトシリテ
 カ避ケテイタラス、前田家ノ仕打面白カラストテ、一日利家卿ヲ招キテ、水風呂ニ入レ、
 ソノ間ニ逃ケテ太閤ヨリ前田家へ下賜ヒシ名馬松風ヲ、厩ヨリ引出シテ、一鞭コレニノリ
 テ、跡ヲ晦マス、一年京都ニ在リシトキ、松風ヲ馬丁ニヒカセテ、鴨河ニ浴セシムルニ、
 烏帽子ヲツケタリ、或人何人ノ馬ゾト問ヘハ、足拍子ヲトツテ、此鹿毛ト申スハ、赤イチ
 ヨツカイ皮袴、茨ガクレノ、鐵カブト、鶏ノトツサカ立烏帽子、前田慶次ガ馬ニテ候ト、幸
 若ノ曲ヲ謠ヒテ過ケルトゾ、是ニテモ、ソノ飄逸想フヘシ、』サル程ニ、景勝卿ノ人トナリヲ
 慕ヒ行テ、隨身トナリタシト乞フ、ソノ時ハ穀藏院^{ヒヨツト}忽之齋ト號シ、今ハ長袖ナリトテ、二
 幅袖ニシテ、景勝ニマミエシト云、景勝大ニ喜ヒテ祿ヲ一萬石與ヘ、關原ノ戰ニ一流ノ將
 トナリ、ソノ旗印ニおほふへんものト記セルヲ、大武邊者トヨミテ怒リシヲ、大不便者ト
 イフ也トイフ、其後會津百五十萬石ヲ削テ、米澤三十萬石ニ減封セラレシトキ、慶次暇ヲ

乞タレドモ許サレス、是ヨリ食祿ヲ受ケス、堂森ノ善光寺ニ寓居シ、風月ヲ友トシテ和歌
 ニ心ヲヨセ、或ハ源氏物語ヲ講シ、優遊自適、慶長十七年六月四日、景勝ガ子忠勝ノ世
 ニ歿ス、ソノ墓碑ハ善光寺ニアリ、善光寺寓居ノ後、同地肝煎太郎兵衛ガ家ニ移リシ由、
 ソノ後裔某、今ニ慶次ガ陣太鼓ヲ藏スト云、慶次ハ妻モナク子モナクソノ善光寺ニアリシ
 時、庵ヲ無苦庵ト稱シテ、ソノ記ヲミツカラ作りシトテ後ニ傳フ、
 等ノ快人ニシテ、家康公ニ尻餅食サレシハ一服ノ清涼散也、或日手巾モテ面ヲ包ミ、禪ニ小
 刀サシテ風呂ニ入ル、同浴ノモノ、コレヲ恐レテ入ラジトスレハ、臆病トイハレントテ、各刀
 ヲサシテ入ル、慶次板間ニテ小刀ヲ抜クヲミレハ、竹篋也、コレニテ足ノ垢ヲカク也、人
 皆欺カレテ刀ヲヒタシ、柄モ下緒モ、損シタリト悔ミケルトゾ、ソノ奇行カクノコトシ、
 逸話 又或時志賀惣右衛門、栗生美濃守等、慶次ニ向ヒテ言ケルハ、殿様ノ歸依僧ナレトモ、
 文庫 林泉寺和尚ノ顔憎ラシク、一拳ハリタク思フ、トイヘハ、慶次我レウツテ遣ハスヘシトテ、
 巡禮ニ化^{ナリ}テ林泉寺ヘ行キ、庭ノ築山見物シ、五言絶句ノ詩ヲ即坐ニ作りテ、方丈ニ示ス、
 和尚、巡禮ハ奇特ナリトテ馳走ス、慶次客殿ニ基盤ノアルヲ見テ、基ノ咄ヲスルニ、巡禮ハ

某氏ノ撰
傳ヲ取ル

碁ハ成ルカ、一番打タント有レハ、御相手仕ラン、負クル時ハ鼻梁ハナバシラニシツペイヲ當テント定メテ、碁ヲ打ツ、慶次ワザト負ケ、御約束ノ通り、私鼻ハナヘシツペイヲ加ヘラレヨト云フ、和尚約束ナレドモ出家ノ身トシテ、人ヲ痛メンハトイフ、慶次カクテハ面白ナシトテ、強テ望ム、サラバトテ、爪彈ヲ當テタリ、サテ二番目ハ、慶次勝チケレバ、シツペイヲト望ム、慶次方丈ニシツペイヲ當ツルハ、佛身ヲ破ルニ同ジトテ、ワザト辞シケルヲ、是非ニトアリ、慶次左候ハ、恐レナガラ當テ申サント、拳ヲ握リ、力ニ任セテ、目鼻ノ間ヲシタ、カニハツタリケレハ、和尚衲流レテ氣絶ス、ソノ間ニ、慶次逃ケ去リ、此由ヲ栗生志賀ニ語リシカバ、皆笑坪ニ入り、是ニテ留飲サガリシト云ケルトゾ、慶次ハ歌文ニ長シタルニヤ、無苦庵記ナトハ、天下ノ至文ニシテ、尋常ノ及フ所ニアラス、ソノ前田家ヲサル時ノ詞ナトハ、一篇ノ小品ニ充ツヘシ、ソノ詞ニ云、無苦庵ハ余無彩文編ニ載ス、就テミルヘシ、

萬戸侯ノ封トイヘトモ、心ニ叶ハザレハ浪人ニ同シ、唯心ニ叶フヲ以テ萬戸侯トス、去ルモ留マルモ、適意ヲ樂シトオモフナリ、

是等ハ張翰ノ詞ニモマサリテ、面白クオホユ、

本多政重

本多政重ハ佐渡守政信ノ次男也、安房守ト稱ス、徳川家康秀忠ノ二公ニ仕ヘタリ、慶長二年十八歳ニシテ、岡邊庄八庄八ハ秀忠公乳母ノ子、井上河内守カ伯父也、ト江戸ニテ口論シ、途中ニテ庄八ヲ切殺シ、ソノ夜江戸ヲ立退キコノ時倉橋長五郎ト稱ス、半年バカリ伊勢ノ山田ニ留マリシガ、大谷刑部少輔ニ招カレテ出京シ、慶長四年年二十才ニシテ、備前浮田中納言ニ招カル、コノ時正木左兵衛ト稱シテ二萬石賜ハル、翌年石田治部少輔事ヲ起シ、中納言コレニ組シ、伏見ニ向ヒテ家康公ノ城ヲトリマキシ時、政重中納言ニ先タチテ追手ノ門ニ向ヒテ、鎧ヲ合セ、中納言ヨリ自筆ノ感狀ヲ賜ハル、伏見落城ノ後、美濃國關原ニ向ヒ、中納言ノ家來明石掃部等ニ下知スヘシトノ命ヲ奉シ、井伊侍從ノ勢ト馬上ニテ鎧ヲアハセテ功名シ、コノ勳ヲ井伊家康公ニ申上ケシヨシ、コノ時金ノバレンノ大指物ヲサシ、關東勢ノ先キチノリ通シケルトゾ、中納言モシ戰場ニテ討死アラハ、政重モ御供仕ルベシトオモヒシ程ニ慥ニ逃レ給ヒシトキ、テ、關原ヲ退キケル、ソノ後金吾中納言ヨリ果藏主ヲ使トシテ備前ノ兒島ヲ以テ招カル、瑞龍公ヨリモ岡田長右衛門ヲ御使トシテ召サレケレハ、吾北ニ向ハントイフ、果藏主カクテハ我歸リテイカ、申スヘキトイヒケレハ、政重ソノ儀

ナラバ、イツ方ニモ仕ヘマジトテ、高野ニ登リ、清水トイフ所ニ居リケルウチニ、福島左衛門大夫ヨリ招カレテ同年廣島ニユキ、知行三萬石拜領、七年藝州ヲ退キテ程ナク瑞龍公ニ再ヒ召サレテ稻葉右近使ヒス、初テ本藩ニ來リ、三萬石拜領、本多山城守ト稱ス、サルホトニ浮田中納言薩摩ヨリ京ニ上ラル、トキ、御暇申テ、生害アルニ於テハ御供仕ルヘシト思定メテ上リケルニ、遠流ニ處セラレ給ヒシト聞テ引カヘス、九年政重年二十五才ニシテ、奥州米澤上杉景勝實子ナク、ソノ家臣直江山城守一女子アリケレハ、政重ヲ養子ニトリ、サテコレヲアハセテ上杉家ヲ讓ラントノ縁談申來リケレハ、瑞龍公キ、給ヒテ本意ナクモ、政重ヲ奥州ヘ遣ハサレケルニ、ソノ翌年ニ至リテ、景勝ノ夫人、一男ヲ生ミ、上杉彈正ト後ニ稱ス直江ノ女子モ病死シケレハ、今ハ用ナカルヘシトテ、米澤ヲ退キテ京ニ上リケルヲ、公ヨリ度々使ヲ以テ、慰ニ仰ラレケレハ、同十六年本藩ニ歸リ、コ、二本多氏ニ復ス、米澤ニテハ直江大和守勝吉ト稱シケルトソ、同年八月十二日、元ノ三萬石拜領但追付五萬石増スベク先歸參スヘシトテ折紙ニハ五萬石トアリケルヨ、ソノ後瑞龍公ヨリ越中一國ヲサシ上ベシトテ政重ヲ使トシテ佐渡守上野介名ハ正純、政重ノ兄也ニヨリテ、ソノ旨ヲ達シケル時、政重、江駿兩公ノ間ヲ奔走セシコト、七度ニ及ヒ、

終ニ越中國ヲ舊ノゴトク下サルトノ命アリテ、百二十萬石全ク御領知トナリシハ政重ノ功也ト仰セラレ、ソノ年二萬石加増アリテ、全ク五萬石トナリ、小松ノ城ヲ預與フヘシトノ御意ナリシカドモ、政重存寄アリテ辭退申ケレハ、ソノ意ニ任セラル、ソノ時政重ヲ近クメサレテ、モシ年ヲヘスシテ大坂ニ出陣スルコトアリトモ、此方病身ニテ行歩意ノコトクナラス、ソノ方ハ功者ナレハ、士卒ノ下知、万事頼ム也トアリケルニ政重御尋申ケルハ、軍ノ勝敗ハ、兵ノ多少ニヨラヌ事ニ候ヘハ、大坂ト關東トノ不和ヲ生シ、万一大坂ガタ利運ニムカヒ候ハ、イカ、心得ヘキヤト申上ケレハ、ソノ義ハ肥前モ覺悟アリ、モシ大坂勝軍ニナリ候ハ、必打死ノ心得也ト御意ナサレケレハ、左様ニ候ハ、スヘテノ事相濟候ト御受仕リシ由、案ノ如クソノ暮、大坂陣アリテ御出馬、翌年夏陣トモ兩度ノ陣、恙ナク働キ、ソノ功ニヨリテ肩衝御茶入拜領、數度御懇ノ思召アリ、ソノ後ハ國老トナリテ、政事ヲ掌トルコト累年、居然タル佐命ノ臣トナリ、正保四年六月四日病歿、年六十八歳、嫡子政長母ハ鳥丸大納言殿ノ女、藤原氏、後南呂院ト號ス、室ハ微妙公ノ御娘、元祿四年ニ安房守ニ任セラレ、同十五年隱居素立軒ト號ス、

奥村永福

奥村永福ハモト尾張ノ人、奥村助左衛門尉ノ第三男也、其先ハ筑前ノ人福富氏、後尾張ニ移リ、奥村ニ居ル、ヨリテ氏トス、天文十年、永福荒子ニ生レ、幼名助十郎、後助右衛門ト改ム、幼ニシテ父ヲ喪ヒ、前田利春ニ養ハレ、長スルニ及テ、高德公ノ兄前田利久ニ仕フ、天性剛毅ニシテヨク成ヲ守ル、永祿十二年高德公信長公ノ命ニヨリテ利久ノ養子トナリ、荒子ノ城ニ入ラントシ給フ時、利久清洲ニアリテ、永福留守タリ、ヨリテ拒テ納レス、公信長公ノ朱印ヲ示シ給ヒシカハ、永福云、拙者織田殿ノ朱印ニ要ナシ、主君ノ手書ヲ得候ハズハ、死ヌトモ納レマキラセストイフ、ヨリテヤムヲエス、使ヲ清洲ニ遣シ、利久ノ書ヲ得テ與ヘラレシカハ、初テ城門ヲ開キテ納レケルトゾ、公其忠勇善ク守ルヲ見給ヒテ、感賞斜ナラス、天正十一年、公能登ノ末森山ニ城ヲツキ、守リノ人ヲ衆議ニカケ、終ニ永福ニ守ラシメラル、其翌年九月越中ノ佐々成政大兵ヲ舉ケテ來リ攻ム、急擊一晝夜、永福、子ノ榮明トトモニ死ヲ誓テ拒キ戰ヘドモ、衆寡敵セス、外城遂ニ陷チテ、僅ニ一重ノ城壁ヲ殘シ、カドモ屈セス、衆ヲ激シテ云、余君命ヲ蒙リテコノ城ヲ守ル、モシ保タレズハ、城

ヲ枕ニシテ打死スヘシト、ミツカラ長槍ヲ奮ツテ相戰ケレハ、士卒マス／＼振ヒ、其室加藤氏モ、侍女ヲキテ出戰ヒケルウチニ、公急報ヲキタヤ、瑞龍公トトモニ直ニ出馬アリ、内外合撃シ給ヒシメハ、成政ハウ／＼ノ体トナリテゾ逃歸ヘル、コノ時、公永福ノ死守ヲ、殊ノ外賞シ給ヒ、即坐ニ鍾馗ノ馬幟、ミツカラ着シ給ヘル甲冑、大小ノ寶刀二口、金紙ノ腰指ニ、黄金ソヘテ下シ賜ヒ、祿一千俵加増アリ、外ニ與力ヲ三十人屬セシメラレシトイフ、永福ノ功名、コレヲ第一トス、蓋公ノ業ヲ三國ニ創メ給ヒシモ、コノ時ノ戰ニヨルトイヘリ、ソノ後、永福公ニ從テ常ニ拔群ノ功ヲ立テ、終ニ從五位下ニ叙シ、伊豫守ニ任セラレ、豊公ヨリ豊臣ノ姓ヲ賜ハリ、徳川家康公、秀忠ノ二公ニモ謁シテ、黒印ノ御書ヲ賜ハリケルトソ、永福ハ老ニ及テ益壯ニシテ歴任三公ニ及ヒ、高德公ノ病篤キ時、瑞龍公ニ遺言シ、永福ハ忠勇老練、大事ハ必コレニ任セヨトアリテ、慶長十九年、大坂ノ役ニモ、其子ドモハ皆瑞龍公ニ從テ出陣、永福ハ獨金澤城ヲ守ル、其功スヘテ比類ナカリケレハ、數十年ノ間、頻ニ恩遇ヲ蒙リ、軍國ノ事與リ聞カストイフコトナク、晩年祿ヲ榮明ニ讓リテミツカラ快心居士ト稱ス、時ニ秩祿一萬千九百五十石、ソノ中三千石ヲミツカラ

領シテ隱居料トシ、寛永元年夏六月十二日病テ卒ス、年八十四、野田山ニ葬ル、墓碑ノ文ハ木下順庵ノ撰ニシテ、書モ順庵ノ筆ナリトイフ、配加藤氏男四人女一人生メリ、長ハ榮明後ヲツギ、從五位下河内守タリ、次ハ易英、榮賴、榮賴ハ大坂ノ戰ニ敵地ニ深入シ、進退度ナク、軍士多ク死傷セシカハ、君ノ寵愛モメデタカラス、元和元年ニ及テ、國ヲ去ラシコトヲ願出テケルニ、微妙公其意ニ任スヘシト御意アリ、時ニ一族ノモノ永福ノ一言ヲキイテ、ソノ意ヲ決セントテ永福ニ尋ネケレハ、人ニシテ子ヲ愛セヌモノハナケレドモ、一人ノ子ノ爲ニ、臣子ノ節ヲ變スヘキニアラス、榮賴ハ既ニ君命モアレハ、速ニ立ヌクヘシ、ソノ餘ハ安心シテ君ニ事ヘヨトイヒケレハ、人皆落付キシトイフ、季某ハ早ク死シ、女ハ小塚氏ニ嫁セリ、永福卒シ、其子榮明、孫榮清、相繼テ國老トナリ、榮清ノ後榮尙マタソノ家ヲ克クセリ、易英ノ子和忠先キニ亡シ、孫庸禮嗣テ國政ヲ秉ル、榮明易英ノ二家對立シテ國ノ柱石トナリ、賢子令孫、綿々絶エス、安富樂榮、恩澤ニ沐浴セルハ、永福ノ餘慶也、ト木下順庵イヘリ、吾永福ノ傳ヲカク、其功何ソ只一二ニ止マランヤ、万功ヲ本傳ニユツリテ、僅ニソノ城守ノ一事ヲ掲グル、微意ナキニアラス、蓋一國ノ柱石トナルモ、

一家ノ棟梁トナルモ、コノ剛毅善守ノ風ハ、アリタキモノ也、我石川縣人ノ氣風ニ、コノ剛毅善守ノ風乏シクナシヤ、吾久シク熊本ニ居テ、ソノ地ノ氣風ヲミルニ、善ク守ル、佐々友房ソノ縣ノ人ヲ評シテ、城ヲ守ルニ巧ニシテ、攻ムルニ拙ナシト評セリ、ゲニモ城ヲ攻ムルニ拙ナキハ、ソノ地ノ短所ナレドモ、ソノ城ヲ守ルニ巧ナル、我縣人ノ見習フヘキ所也、國家ヲ持スルニ進取ハアルベク、退守モナカルヘカラス、退守ナキモノ、何ソ進取ヲ保タンヤ、取テ失フハ守リテ失ハサルニイヅレゾヤ、奥村家ノ綿々タルモ、ヨク祖先ノ善守、世々ノ家範タレハ也、後進小生ヨクノ心エチガヒアルヘカラス、俗ニオナベノカイ餅ツケタラ持テコイ、トイヘルハ末森ヲ守リシ時ノ諺ナリ、永福夫人ノ働キハヌハラシキ者ニテ、白鉢卷ニ長刀ヲ提^{ナキナタ}グテ防戰シ、兵ニハ餅ヲツイテ給サセシモノトカヤ、其名ハオナベノ方トイヒシトカ、サレハ鍋ニ名ヲヨミカケタルナルヘシ、

村井長賴

村井長賴、幼名ハ長八郎、通稱ハ又兵衛、高德公ノソノ功ヲ賞シテ又ノ字ヲ賜ヒシナリ、村井玄蕃長忠ノ子ナリ、天文十二年、尾張ノ荒子ニ生レ、十一才ニシテ前田利久ニ養ハル、

ソノ人トナリ勇武ニシテ膽畧アリ、兵ヲ用フルコト神速、機ヲ見テ善ク斷ス、年十四才ノ時ヨリ、高德公ニ從ヒ、十六才ノ時、尾張ノ岩倉城攻ノ時、軍ニ出テ、始テ敵ノ首ヲ取り、ソレヨリ兵馬搶擾ノ間ニ出入シ、常ニ先登ノ勳ヲ策シ、就中、越中蓮沼城攻ノ時ノコトキ、越中ノ將、銳ヲ悉シテ來拒キ、家兵數人打死シケレハ、長賴憤怒シ、槍ヲ奮テ血戰シ、直ニ數十人ヲ仆シ、斬獲八十七、滿鎧矢ヲ被ルコト蝟毛ノ如ク、流血淋漓、戰袍盡ク裂ケタリ、苦戰ノ狀、見ルモ凄マシク、高德公感賞斜ナラス、直ニ廣正ノ佩刀ヲ脱シテ賜ヒシ、ソノ功當時比類ナカリシトゾ、ソノ他斬將擐旗ノ功、數フルニタヘス、天正十九年、豊公、高德公ニ命シテ、家臣叙爵ノ人ヲ舉ゲシメラレシ時、公長賴ヲモテ御對アリシカハ、六月十四日、豊後守ニ任セラレ、從五位下ニ叙セラル、コレヨリ先キ、聚樂亭ニテ、諸侯伯ノ秀吉公ニ拜謁セシ時、上杉景勝高德公ト坐順ヲアラソヒ給フ、上杉ノ臣直江兼續劔ヲ持シテ景勝ノ後ニアリ、長賴ハ公ノ劔ヲ持シテ公ノ傍ニアリ、兼續奏者ニ向テ云、吾主君ハ、先官也、且世々關東ノ管領ニテ御座ナサレ候ヘハ、先ニテ候ヘシトイフ、長賴趨進ミ兼續ヲニラミテ云、貴公何トテ系圖ヲ申サレ候ヤ、今日太閤殿下武功ヲ以テ、天下ヲ治メ

給ヒテ候ヘハ、諸侯ノ侯伯タルモノモ、武功ニヨリ候ハスヤ、何ソ先祖ニ關スルコトノ候ベキ、且武功ヲモテ論シ候ハ、誰カ吾主君ニ先タツ人ノ候ハン、マシテ門閥ヲイハ、吾主君ハ、菅家ノ後裔也、決シテ區々タル管領ノ比ニハ候ハストイヒケレハ、奏者モ尤トオモヒ、ソノ劔ヲ受取り、公マツ拜謁ヲ遂ケラレケリ、後、公村井ノ髯ヲ掀ケテ、乃公ヲシテ海内ニ重カラシメタルハ、コノ髯公ノ力ナリト申サレケルトゾ、公ノ薨去セラル、ニ臨ミテ、世子ニ向ヒ、大事ハ必長賴ニ任セヨト申サレケレハ、世子ノ世ヲ襲ガル、ニ及ヒキモ、依然大國ノ股肱トナリテ公務ヲ執リ、終始一節ソノ功烈聲威、奥村家ト相並ヒ、當時宿將老臣多カリシカトモ、ソノ右ニ出ツルモノナカリシトイフ、長賴ハ文祿元年隱居シ、ソノ料トシテ四千石賜ハリ、慶長十年十月江戸ニテ卒ス、ソノ子長次襲祿、一万二百四十五石、ソノ次子勘十郎長明モ、幼ヨリ國祖ニ近侍シ、常ニ筆ヲトリテ開國ノ事蹟ヲ記シ、或ハ御夜話ニ仰セラシ事ドモヲ書留メテ後ニ傳ヘキ、コレヲ高德院御夜話ト號シテ三冊アリ、長賴モ自筆ニテ瑞龍公ノ御夜話ヲ書留タルヲ、長明カ家ニ持傳ヘシヲ、五世松雲公ノ時、御所望ニテ、貞享三年ニ指上ケルニ、御親翰モテ御喜悅ノヨシ仰下サレシ由、葛

卷昌興カ筆記ニ見エタリトテ、富田痴龍、村井長八郎方へ借ニ遣シケルニ、先年焼失シテ今ハナシト申ケルトソ、下學老談ニ見エタリ、ヲシムヘシ、長明ハ後大聖寺侯ニ仕ヘテ、子孫ソノ地ニ住メリ、父子トモ、我國祖以來ノ事ヲ書傳ヘタル、今ヨリ當時ノ事蹟、カタハシナガラモシラル、ハ、多クハ長明ノ功ニヨル也、後ノ人ソノ恩ヲシラザルヘカラス、其後ニ親長アリ、通稱出雲、信齋ト號ス、ヨク祖宗ノ跡ヲツギテ闔藩ノ望タリ、ソノ人トナリ敦謹ニシテ驕ラス、幼ヨリ學ヲ好ミ、黽々トシテ倦マス、身ハ國老ナリシカトモ、少モソノ貴ヲ挾マス、羽黒養潛ヲ師トシテ、ソノ禮遇極テアツク、崇道希賢ノ志、ソノ色ニアラハレシトイフ、富田痴龍云、戴記ニ、凡學之道、嚴師爲難トアリ、吾村井大夫ノゴトキ、コレヲ行ヘリトイフヘシト評セリ、ヲシキカナソノ遺文モ傳ハラス、其孫長道、浩齋ト號ス、此人モ學アリ、書ヲ善クス、文政庚寅ノ秋、螢雪小記ト云書ヲ著ハシ、自書シ自刻シ、私春堂藏書トス、其序ヲミルニ、今茲庚寅ノ春、予ニ豎ニ侵サレ、文藝ヲ捨テ、武技ヲ廢スルヲ、六七月ハカリ、長日亢坐、枕邊ニ書五六卷アルノミ、之ヲ讀テ倦メハ止ム、悶ノ遣ルヘキナシ、筆ヲ把レハ亦懊惱ヲ覺ユ、因テ誦スル所ヲ侍童ニ謄寫セシメ、遂

ニ一小冊子ヲ成シ、戲ニ螢雪小記ト名ツク、庶幾クハ初學ニ小稗補アラシ、敢テ識者ニ視メストニハ非スト云云、原漢文其議論ヲミルニ、儼然儒者ノ見ナリ、其妻ハ前田土佐守ノ女ニシテ、女丈夫ナリシ由聞ケリ、詳ナルコトハエシラス、猶後々ニ補記スヘシ、

横山長知

横山長知姓ハ小野、小字ハ三郎、初ハ大膳、後山城守ト稱ス、ソノ先ハ敏達帝ヨリ出ツ、父名ハ長隆、母ハ杉野氏、永祿戊辰ソレノ月、美濃多藝郡直江ノ庄ニ生ル、七才ノ時、丹波ノ水谷山圓通寺ニ入り、字ヲナラヒ、書ヲヨミ、聰敏人ニマサル、天正十年、父ニ從テ越前ニ至リ、瑞龍公ニ仕フ、時ニ年十五、明年江州柳瀬ノ戰ニ、父子共ニ一方ニ出陣セシガ、コノ時父大創ヲ負テ死ス、年四十五乃殿シテ退キ、反擊數度、敵ノ驍將ヲキリシヲ、瑞龍公ミテ、ソノ勇壯ヲイタク稱シ給ヒケルトゾ、末森ノ軍ニ、高德公俄ニ發シ給ヒシヲ、瑞龍公シリ給ハス、少々後レ給ヒケレハ、長知急ニ公ノ旗ヲトリテワシリ進ミ、前路ノ沙上ニ立テ、火ヲアゲケレハ、味方ノ兵、瑞龍公己ニ前軍ニアリトオモヒテ、勇氣振立チケルヲ、後高德公聞テ大ニ憚給ヒ、瑞龍公モソノ知畧ヲシリ給ヒ、任用日ニ厚ク、公ニ從テ軍

ニ出ツルゴトニ奇功アリ、慶長四年ノ秋、徳川家ヨリ申コサレケルハ、太閤御他界アリテ、秀頼公尙幼少ナルニヨリテ、我等大坂ニ留マレドモ、イツマテモ留マリテハ、國元心許ナク候ヘハ、交替ニテ當年ハ御在陣アリテ、明春我等參覲仕ルヘクヤトアリケレハ、仰尤也、ト申遣ハサレテ、翌年歸國シ給ヒケルガ、程ナク越中御鷹野ニ出ラレ、黒部川邊ニ御坐アリシニ、上方ヨリノ使者ナリトテ、兩人カラシリ馬ニウチノリ、文箱ヲ首ニカケテ來ル、イヅカタヨリノ使者ゾト御尋アリケレハ、備前中納言秀家ノ使者ニテ、上方一統ニ加賀陣ニ極マリ、冬中ニ打手下ルヘシトノ注進ナリケレハ、先富山ニ入り、翌日金澤ニ歸城アリ、老中談合ノ後、長知ヲ使トシテ伏見ニ遣サレケルガ、小松丹羽五郎左衛門長通スマジトイヒケルヲ、様々斷リテ、通リツレドモ、越前ノ舟橋ニテハ、關所ヲオキ、何トイヒテモ通サス、ヤムヲエス、飛脚ヲイダシテ、長知ハソノ所ニ逗留シ、徳川公ヨリ通セトノ折紙ヲエテ、初テ上京ス、上下三度ニシテ、瑞龍公ヘノ難題六七ヶ條モアリケルヲ、一々申開キ、芳春院ヲ証人トシテ伏見ニ遣ハサル、ヤウニトアリテ、ソノ冬十一月長知御供シテマキリヌ、コノ時長知三十六才ナリシトゾ、年未強ニモ至ラスシテ君命ヲ辱メザル、ソノ間ノ苦心オ

モヒヤルダニモ身震スルバカリ也同七年、太田但馬守無調法アリテ手打ニセヨト命ゼラル、太田ハ勇悍ノ士ナリシカハ、公モ助太刀ニ出ラレ、終ニ打果シ、ソノ祿ヲ併セテ長知ニ給フ、後故アリテ御咎ヲ蒙リテ髮ヲキリ、田舎ニ蟄居シケレトモ、公ノ怒霽レス、去リテ山科ニ屏居シ、其室ヲ石菴ト號シテ、ソソ志ヲ堅ク守リシガ、十九年ノ冬十月大坂ニ事アリテ、東西兵ヲ聚メシ時、徳川氏ヨリモ召シ、豊臣家ヨリモ招カレタレトモ應セス、公ノ世子微妙公大坂ニ赴カルト聞テ、二子康玄長治ヲツレテ馳向ヒ、越前ノ淺生津ニテ微妙公ノ馬前ニ拜シ、再家臣タランコトヲ願ヒシカハ、公ソノ忠義ニ感シ、罪ヲ赦シテ舊祿ヲ給セラレ、扱申サレケルハ、北陸ノ人心尙穩ナラス、汝ユキテ留守セヨトテ、二人ノ子ヲノミ從ヘテ往カレシガ、程ナク和睦トナリ、明年再兵ヲ構ヘシ時、長知先鋒トナリテ勇戦シ、落城ノ時、万衆擾亂シケレハ、長知騎士ヲ左右ニ分列シ、標旗ヲトツテ指揮ス、ソノ軍容極メテ見事ナリシカハ、公大ニ賞セラレ、徳川公ヨリモ本多正信ヲモテ褒詞ヲ下サレケルトゾ、コノ歳ノ閏六月、徳川公ヨリ仰アリテ、從五位下ニ叙シ、山城守ニ任セラル、長知ハ藩主三代ニ歷事シ、國政ヲ掌リテ治績アリ、正保三年正月廿一日、金澤ノ私第ニテ歿ス、

年七十九、男八人、長子康玄繼テ執政トナリ、次ハ長治、與治、知清、與治ハ、十二才ニシテ徳川公ニ召サレ采邑ヲ給ハル、子ナクシテ弟知清ヲ嗣トセリ、ソノ次詳ナラス、長治ハ微妙公ニ仕ヘテ祿ヲ給ハリキ、女モ九人アリテ皆名家ニ歸ス、關屋政春筆記、木下順庵横山君傳 嗚乎出テハ君命ヲ辱メス、入テハ治績ヲ立ツ、智勇兼備、眞ニ是レ社稷ノ臣トイフヘシ、ソノ餘澤ノ遠キモ、誠ニ故アルコト也、

長連頼

長連頼ハ、金澤執政長家二代目也、九郎左衛門ト稱ス、俗ニ髭九郎左衛門トイハレシ人也、或年江戸參觀ノヲリ、御供申シテ參リ、御禮申上ケルニ、奏者井上河内守、九郎左衛門カ前ニ來テ、立ナガラニ大刀ヲ受取ラントシケレハ、九郎左衛門モ、ツト立チテ太刀ヲワタス、河内守發言セントテ後目ニ睨ミシカハ、九郎左衛門モ、顔色タ、ナラス、ソノ座ハソレニテ事ナクスマケルガ、後河内守諸人ニ對シ、加州ノ長ハ器量モノ也、サテノ加賀殿ハヨキ家來ヲ持タレケルトイヒシトソ、五世松雲公ニモ仕ヘケルガ、公歸國ノ節ハ、年寄中ヲ初テ、三丸ニイデ、イヅレモ蹲踞スレハ、夫々ニ御意アルガ恒例ナリシニ、或時イカ

バアリケム、年寄ノ前ヲ素通ニセラレケレハ九郎左衛門進出テ、ソノ故ヲ御尋申上ケレハ、立カヘリ、例ノコトク會釋アリケリトゾ、後ニテ、ワカキ殿様ノ氣マ、ナルハ、宜シカラヌト、イヒケル由、畢竟君ノ人ニ傲ルハ、コノ人ナキ故也、誠ニ名言トコソイフヘケレ、上ニ松雲公アレハ、下ニ九郎左衛門アリ、上ニ九郎左衛門アレハ、下ニマタ久世平助ノゴトキアリ、君臣ノ遇合トイフヘキニヤ、九郎左衛門平生投網ヲ好ミ、宮腰邊ノ川口ニユキ、上下ニ繩ヲハリテ人ヲヨセス、ソノ威光ニ恐レテ誰モ繩ノ内ニ入ルモノナキニ、久世平助網打ニユキテ、ソノヤウスヲ見テ、ツカノト入りケレハ、家來ドモ居テ、コレハ九郎左衛門殿ノ網打場ニテ候ヘハ、御入ノ義ハ、御無用トイヒケルヲ、イヤコノ場ハ殿様ノ海也、長殿モ我等モ網打ノ隔ハアルマジク、今直ニ申上候ハ、御構ナサルマジキ旨申ス、ヤカテ九郎左衛門ソノ側ニヨリキテ、イロノ物語アリ、兵助モンノ傍ニテ網打ケル、ソノ膽勇ニ感ゼラレ、末長ク長家ニ出入シケルト也、九郎左衛門ハ識量ニ富ミシ人也、江戸ニユキシヲリ、信州關山ニ通りカ、リシニ、一人ノ浪人來テ加賀様ノ御家老トキ、申候、何トゾ御助力下サル、ヤウニトイフニヨリテ、供ノモノ色々トイヒ歸サントスルヲキ、テ、コレ

へヨベトアリケレハ、浪人駕籠脇ニ來リ、右ノ趣ヲイフ、九郎左衛門申サレケルハ、人ノ浮沈ハ、時ノ幸不幸也、先浪人トアラハ、仕官ノ望トオモハル、イカヤウノ望ニ候哉、ソレニ付テモ御名前ハト尋ネケレハ、サレハニ候、コノ近在ノモノニテ、百五十石給ハリ候處、不慮ノ事出來テ、サテハカヤウニ浪人トナリ候、名前バカリハ御免候へトイフ、サラハ五十石遣スヘシ、不足ナガラ承知ニ候ハ、幸拙者侍不足ニ候故、召抱申スヘシトアリケレハ、コレハ存知モヨラヌ事ニ候へドモ、シバラク相考ヘサセ下サルヘク、イヨ〜了簡定メ候ハ、今晚御泊マテマキリ候ベシトイフ、ソレハ勝手タルヘシ、當日ハ野尻泊ナリトテ押通ラレケレハ、何レモ他國ノモノヲカ、ヘラレケルハ、イカバトオモヒテ、ソノ旨尋ネケレハ、皆々合点ユクマジイナ、浪人ドモノ助力アレハ、金子五兩ヤ十兩デハ承知スマジイゾ、扶持遣シ候へハ、コノ方ノ家來也、サレハ即坐ニ手ニカケテ切害ストモ、天下ノ物笑ニハナルベカラス、コレニテ埒明ク也、見ヨ今ノ浪人ハ必來ルマジト申サレケルガ、果シテ來ラサリシトゾ、ソノ明斷カクノコトシ、識量ノアル人ナラデハコノ斷下ルヘカラス、加陽諸士言行筆記抄

山崎閑齋

山崎閑齋、初ハ庄兵衛ト稱ス、高德公ヨリ三世ニ歷仕シ、武邊比類ナキ人也、天正年中、越前國富田富田彌六亂ヲ起シテ地ノ一揆ト戰フノ亂ニ、庄兵衛落人トナリテ、アサウツ淺水邊ニ通りカ、ル時、土堤ノカナタニ敵アリ、互ニシラス、フト行合ケルガ、敵ノ鐵砲モテ狙撃セントスル所ヲ、來ノ國光本阿彌長識ノ鑿定ニハ來國行カ作也トイフガ刀ヲモテ拔打ニシ、ケサ掛ニ切付ケレハ、鐵砲ハ蓮切ニ尺バカリ切落サル、我身ナガラユ、シキ切カナトオモヒツレドモ、落人ノ身ナレハ、首取ニモ及ハス、只ソノモノヲ擊仆シ、鐵砲ノ尖ノ切落チタルヲノミ持歸ル、後年ヲ經テ去ル寺ニ詣テテ住持ニ對面シ、物語シケルニ、住持ノイヒケルハ、侍衆トイフモノハ、何ニカヘテモ切物ノ刀ハ持給フヘキ也、イツゾヤノサワギニ、何者ヤラン、死人ヲカツギ來リ、愚僧取置シケルニ、其死人袈裟掛ニ切放サレ、ソノ上一挺ノ鐵砲ヲソヘタルガ、蓮切ニ切リタルアトアリ、ソノ先ハ見エス、今ニ藏セリト語ル、庄兵衛サテコンオモヒアタルコトノ候、ソノ鐵砲讓受タキモノトイヘハ、易キ事ナリトテ、取出シテクル、依テ尖ノ切放シヲ出シテ合セミルニ、露モタカハス、ソノ刀ヲコレヨリ切刀ト稱シ、鐵砲ヲ合セテ、コノ家ノ重物ト

セリ、後室鳩巢銃切刀ノ記ヲカケリ、鳩巢文集ニ見ユ永山近影云、余ソノ刀ヲ一見シタルニ、極テ丈夫ナル作
ニテ、作柄モ上出来也但シ帽子ノ焼又ハ極テ細ク、殆無キカコトシ、傳
云鐵砲ヲ載リ
シ所也トカソノ與力ニ鷺津九藏トイフモノアリ、コレニ語リテ云、凡テ侍ノ銃ヲ合スルモ、
ソノ手ノ大將ガ下知アシクテハナルマジキ者也トイヒケルニ、九藏ソレハサル事モ候ハン、
サレトモ我等ハイツモ下知ヲマタスシテ、銃ヲ合候トイフ、其後鳥越ノ役ニ敵ノ城ヨリツ
キテ出ケルニ銃先ヲ敵ニムケテ、庄兵衛ニイヒケルハ、カヤウノ時組頭ノ下知ヲマツヘキ
モノニ候ヤトイヒステ、銃追取テ敵ニ走り向ヒ、シバシツキ合セケルホトニ敵競ヒカ、
リテ味方ヲ攻タテケレハ、高德公丘ニアリテ、庄兵衛ハヲラヌカト仰セラレケレハ、言下
ヨリ紙子ノ羽織ニテ取テ返シ、銃ヲ合セ、倉知猪之助トイフモノヲツキサシケルヲ、細井彌
左衛門ソノ下ヲクバリ倉知ト組合、谷ニコロヒ落チ、終ニソノ首ヲ取リテケリ、是役庄兵衛
ソノ部下ト共ニ甲首十一級エタリトイフ、後ソノ功ヲ賞セラレテ、祿七千石加増アリ、庄兵
衛六十餘歳ニ及テ、法躰トナリテ閑齋ト號シケル比、一夜客人アリ、ソノ歸ルサニ、閑齋
手燭ニ火点シテ、色代マテ送出テ、廊下脇ノ小姓部屋ニ廿五六才ナル小姓ノ氣ニ違テ扶持
ヲメシ放サレタルモノ、カクレ居タルヲ見テ、歸ニ手燭ヲサシ入レテ覗キミレハ、右ノ小姓

逃カタシトヤオモヒケム、刀ヲ抜キテ閑齋ニ切テカ、ル、閑齋額ニ少シ手ヲオヒケレトモ、
終ニ手燭ヲ取捨テズ、右ノ手ニテ一尺五寸ノ脇ザシヲ抜キ、一人シテ終ニソノモノヲ切フセ
タリ、六十歳ニ餘ル老人ノカ、ル働キハ、終ニ未聞ノ事ナリト取サタシケルトゾ、サテ養
生ヲ加ヘケルホトニ、微妙公モ度々使ヲ遣ハサレケレハ、本復ノ後、御禮ニトテ御夜話ノ
内ニ出、御禮申ス、ソノ挨拶ニ、シホラシキ顔ニ相成候ト申シテ、頭ヲ地ニツケタルハ、一
段ト見事ニテアリシト佐々伊左衛門ソノ節小小姓ニテ御前ニ詰合テ見タリトテ物語リセシ
由關屋政春自
筆ノ覺書ソノ後山崎長賢トイフ人アリ、閑齋ノ後也、一字ハ子重、通稱ハ庄兵衛、臨阜
ト號ス、鳩巢コノ人ノ爲ニ山崎譜序等カケリ、ソノ林亭ニ題セシ詩モ、ソノ文集ニ見ユ、

富田重政

富田越後守重政、始ハ山崎六左衛門ト稱ス、其祖ハ江州佐々木氏ノ族ニシテ、越前國ニ移住
シ、數代朝倉家ニ仕フ、天正十二年、佐々成政能登國末森城ヲ攻ムル時、六左衛門鎗ヲ合セテ
軍功アリ、六左衛門ハ富田治郎左衛門ニ從テ中條流ノ劍術ヲ學ヒ、名人ナリシカハ、治部
一女ヲコレニ配セ、富田ノ氏ヲ讓リ、ソノ家系ヲ繼ガシム、後徳川秀忠ノ命ヲ奉シテ、擊

刺ノ事ヲ言上シ、名ヲ海内ニアラハシ、我藩ニ來リテ、高德公ニ仕へ、秩祿一萬三千五百石賜ハル、武藝小傳後微妙公仰セラレケルハ、卿カ家ニ無刀取ノ術アリトキク、イザコレヲ取テ見ヨトテ、真劍ヲ拔テ立給フヲ、富田畏テ候、サリナガラ、コレハ拙者ガ家ノ秘法ニシテ、人ノミルヲ許サス、今障子ノスキマヨリ覗クモノアリ、コレヲ退ケサセラレ候ヘト申ス、公、人ノゾクカト後ヲ見返給フ所ヲ、ツト進ミテ御拳ヲシカト執リ、拙者ガ家ノ無刀取ハカヤウニ候ト申セハ、殊ノ外御感アリシトゾ、ソノ頓才カクノコトシ、又人ノオモフ所ヲ中ツルコト奇也、ソノ鬚ヲ家人ニソラセケルニ、頤ノ下ニ及フ時、越後殿ハ劍術ノ名人ナレドモカヤウノ時ハ、咽ノ下ヲ一髮剃ニヤラレ給ヘシト、フト心ニウカミケレハ、汝ハササマジキコトヲオモフモノカナ、左ヤウニオモフトモ、センナキモノゾトイヒケルト也、閑窓夜話又高德公ノ時、山崎閑齋病テ今ハノ際、生田四郎兵衛ヲ以テ仰セラレケルハ、ソノ方ノ煩ハ、存命不定ト見エ候、モシソノ方相果候ハ、誰ニ先手仰付ラルベウモヤ候ハシ、存知ノ通、心底ヲ殘サス、申上クヘシト仰セラレケレハ、閑齋起上ガリ、涙ヲ流シテ答奉リケルハ、殿様ノ思召ニアヤマリハ御座アルマジク、我等今ニ及テ申上候ハ、非義ニ

候ベシト辞退シケルヲ、生田、末期ニ及テモ、存寄ハ申上ラルベシ、遠慮ニヤ及フト申セハ、サラバ申上候ベシ、明日イカヤウノ事候トモ、富田越後ニ御先手仰付ラルベシ、危キ事御座ナク候、但シ手綱ヲユルメ遊バサレ候モノニハコレナク候、其段ハ御意ニ御坐候ベシト申上ケル由、桑華字苑

高山南坊

高山南坊、名ハ友祥、右近ト稱ス、南坊ハ入道シテノ號也、又大虛ト號ス、二万石ヲ領セリ、モト攝州高槻ノ城主ニシテ、天正年中、山崎合戦士大將ノ一人ナリ、寶寺ノ合戦ニモ功アリ、後瑞龍公ニ属シ、淺井繩手ノ合戦ニ、四大將ノ一人タリ、新安手簡南坊ハ茶道ニ深ク茶道系譜中ノ正シキモノ也、又築城ノ術ニモ達セリ、越中國高岡ハ、元ト關野トイヒシ所ナリ、其城ハ瑞龍公ヨリ南坊ニ仰付ラレテ繩張セシ也、コノ事ハ清水傳兵衛、御鷹匠清水長兵衛ノ父ナリト云見テ、松雲公ノワカキ御時ニ申上ケシトゾ、梅花雜記シカルニ南坊耶蘇宗ヲ信シ、將軍家ノ禁ヲ犯シテ佛宗ニ轉セザリケレハ、慶長十九年正月廿六日、其子十次郎、内藤德庵、德庵ハ二千石旗本内藤飛彈守ノ甥ニテ飛彈守ハ耶蘇ノ張本人也宇喜多久、千五百石品川右兵衛、千石柴山權兵衛等トトモニ捕ヘラレテ、京都ニ送

ラル、其外ニ女子一人アリテ、横山大膳ニ嫁シケルモ、コレト同シク京都ニ送ラル、大膳モ婿ナレハ御暇ヲ乞ヒシカドモ、許サレス、妻ノミユキシ也ト云、サテ京師ヨリ伊太利國ニ追放セラレシトイヘトモ、伊太利ヘハユカス、呂宋ヘユキシ也トイフ、新安手簡ニ、南坊ノカノ國ヘユキシ時、内藤飛彈守徳安モ參リ、大ニ後悔シケリトソ、ソノ故ハ、コノ方ニテモ大身ノモノナレハ、先方ニテモ丁寧ニアツカハレン者トオモヒシニ、殊ノ外輕クアツカハレシ故也ト云、當時呂宋ニハ日本町トテ、三十人斗モ住居シテ、ヨキ人ハ馬ニノリ鎧ヲ持セナトシテ、日本ノ風俗ソノマ、ナリト羅馬人カタリシヨシ、今ノマニラナリ、オモフニ、コノ比ノ人ノ耶蘇ヲ信ゼシハ、後世ノ信者トハ趣異ナリ、只オモシロ半分ニ信ゼシ也、殺伐ノ世ノ中ナレハ、伊達陸奥守ノコトク、イサ、カニテモ、内國ニ不平アレハ、万里ノ波濤ヲ破リテ、異國ニワタリ、オモフマ、ニ、南蠻人ドモヲシテソノ威風ニナビカセハ、一時ノハライヤシニモナラントノ心也、其志ハイゾコマテモ大和魂ニシテ、ソノ舉甚タ快也、後世今時ノ愚夫愚婦ノ耶蘇ヲ信ジテ、牧師ノ尻馬トナルヤラ、犬ノ子トナルヤラノ徒トハ、雲泥ノ差アリ、徳庵南坊ナトノ後悔セシハ、ソノ志ノゴトクナラザリシ

故也、

津田重久

津田重久、初メ與三郎ト稱ス、明智光秀ノ家來タリシカ、山崎合戦ニ、光秀敗軍トナリシ後、主從三人直ニ高野山ニ落行キ、シルベノ寺ヲ頼ミ、カクレ居タリケルニ、豊太閤高札ヲ立テ、明智ノ家來ドモ、今日ヨリ七日ノ中ニ申出候ハ、命ヲ助クヘシ、日限ヲスギテ出候ハ、成敗セラレヘシトノコト、常々入魂ノモノヨリ告シラセケレハ、重久ソノ狀ヲ見テ、シハシノ間コソハカクレモセメ、畢竟出ズバナルマジ、トテモ死ヌル命ナレハ、日限ノウチニ出テ、万一赦免ナクバ、尋常ニ腹仕ルヘシト覺悟ヲ極ム、ソノ比ノ指料ハ、カツテ安土ニテ光秀ヨリ賜ハリシニテ、刀ハ長光、脇差ハ貞宗、山崎ノ合戦ニハ兩腰ニサシテ出テシトイフ、山ノ僧ニコノ貞宗ハ至リテ代ノ高キ物ナレハ、カヒオカルヘシ、後日ノ爲ニモナルヘシトテ、ミセケレハ、アル寺ノ住持百貫ニカヒケル、ソノ錢取テ、ソノ中ノ一枚ニテ輕キ脇差ヲ求メ殘ノ金子ニテ宿料等ノ拂シテ立出テ、急キ京ニ上リケルニ、ソノ比太閤伏見ニ御陣ヲ取ラレケレハ、ソノ方ノ知人ガモトニ立ヨリテ太閤ニ謁ヲ乞ヒケルト

キ、太閤後ノ戸ヲアケテ出ラレ、津田ヲ御覽シテ、與三郎メ憎キ奴也、成敗スヘキ筈ナレトモ、早クイデシユエ、命ハ助クヘシトノ御意ニテ、尾藤甚右衛門ニ預ラレ、與力ノ躰ニテアリケルガ、天正十六年、筑紫ノ陣ニ、勘氣ヲ蒙リシ比、本藩ニ召出サレ、六千石賜ハリ、遠江守ニ任セリ、瑞龍公ノ時、代官ヲ務ケルニ引負アリテ、右ノ長光ト他ニ眞壺トヲソノ方ニ献リシヨシ、刀ハコノ比ヨリ遠江長光ト稱シケルトゾ、サテ遠江ガ常々子孫ヘノ遺訓ニ、當時ノ事ヲ語リテ云、必々目高キ人ニ對シテ恨ナド含ムヘカラス、何程ニオモフトモ叶ハヌモノ也、天正比ノ太閤ハ、イハレ一ノ諸侯ニテ、先主同列ノ人也、サレハ織田殿ノ天下ヲ知給フ比ハ、太閤モ輕キ大將ナレハコソ、カ、ル處ヘモ出テラレケレハ、我ヨリミレハ、主人ノ敵也、一刀恨ミテ死ナンヲリモアラント、ハラ底ニハ思ハサルニモ非サルニ伏見ノ陣中、後ノ戸ヲサラリト明クルモノ、アルヲ、誰ナラント見返セハ太閤也、スハヤトオモフ處ニ、與三郎メニクキ奴ト申サレシ聲ハ、ゲニモナル雷ノ落カ、リタルヤウニテ上ヨリオシ付ラル、ヤウニ覺エ、内々ノ心ダクミハ、イツコニカウセテ、地ニモ入りタクオモフ外ニハ、何ノ念モナク、只平レフシテ、シバシ頭モアガラス、サテモ威ニマ

サルモノナシト悟リヌ、目高ノ人ニ對シテハ、イツモカクノゴトク、何ホトニオモフトモ、ソノ期ニ至レハ、ヤガテ常ノ心ヲ忘ル、モノゾ、必スコノ遺訓ヲ失フナヨトイヒケルヨシ、殘囊拾玉集實地ノ談、ゲニモトオモハル、孟子浩然ノ氣ヲ養フコトヲカマビスシクイヒケムモ、コノ故也、ソノ氣餒ウル時ハ、一場ノ演說スルニモ、カネテオモヒ設ケタルコトノ半モウチワスレテ、前後錯亂、エリスソノアハヌモノ也、マシテ蓋世ノ豪傑ニアフ、サモアルヘキ也、コレヲ要スルニ、人ヲ吞ムトノマル、トハ、大ナル違ノアルモノニコソ、

上坂又兵衛

上坂又兵衛ハ瑞龍公ノ家臣也、知行五千石、足輕百人預ケラレケル時、イカバオモヒケム、足輕五十人サシ上タキヨシ申上ケレトモ許シ給ハス、センカタナク、年頃知音ナリシ浪人ヲ近付ケ、近頃卒爾ナルコトヲ申スヤウナレト、某カ存ズル所ヲ申ス也、ソノ事別儀ニアラス、某カ知行五千石ノ内、並ニ足輕五十人、ソナタニ預置キ、自然大事アラハ、申合セテ戰場ヲツトメタシトオモフハ、イカニトイヒケレハ、ソノ人異儀ニモ及ハス、其意ニ任セタリケレハ、又兵衛ノ仕打比類ナシトテ、取々ニサタシケルトゾ、白石秘書ニ、コノ事

ヲ記シ、上下ニヨラス、コノ心得アルヘキ也トイヘリ、五千石ノ知行ヲワカチテ、浪人ニ與へ、五十人ノ足輕モ與ヘテソノ功ヲワカタントス、士ヲ養ヒテ國用ニ供シ、祿ヲ辭シテソノ廉ヲ傷ラス、ムカシノ武邊、何ソユカシキ志ナルゾヤ、

雨森彦三郎

雨森彦三郎ハ金澤ノ士也、天正十八年、武州八王寺城ノ合戦ニ、高名ヲ顯ハシ、人也、ソノ比大音藤藏トイフモノ、年十七ニシテ、瑞龍公ノ小姓タリシガ、公ノ命ニソムキテ、蟄居セルヲ、無念ニオモヒ、窃ニ逃出シテコノ戦ニ加ハル、コノモノ眞先ニ首ヲエタレハ、雨森モツバキテ首一ツ得タリト注ス、ソノ實ハ雨森一番先ニ首ヲ獲タルニテアリシヲ、大音ノ蟄居セルヲ痛ハリテ、ソノエタル首ヲ一番トシタル也トゾ、後、瑞龍公父子トモニコレヲキコシメサレテ、イタクソノ友誼ヲ賞セラレ、大音モコレニヨリテ、遂ニ蟄居ヲユルサレ、元ノコトク近習ニ加ヘラレシト也、小瀬甫菴カ太閤記ニ云、高名ヲ一番首ニツケシトアリシヲ、二番ニ辭シタル、義士ノ心中ヨクオモフヘシ、大坂寅卯ノ戦ニ首トリテ前後ノアラソヒ、耻ヲモ顧ミサリシモノアリ、或ハ聊ノ働キヲ大キニ申タテ、或ハ冑ヲ拾ヒテ首

ニ着セ、冑付ト注シテ入子ノナニガシト後指サ、レシモノモアリ、雨森ノ靈知ルコトアラバ、サゾ笑フコトナラントイヘリ、雨森ハ、ソノ後イカニシテハテケム、高誼ノ士ノ千載ノ下ニ傳ヲ失ヘル、遺憾ノ事ドモ也、

中編卷二

前田微妙公

微妙公名ハ利常、初ハ利光、高德公ノ第四子ナリ、慶長十年六月襲封、寛永十六年六月退老、小松ニ住ミ給フ、依テ小松中納言ト稱ス、世ニ御夜話ヲ傳フ、公ノ懿行嘉言、ソノ中ニ充積ス、ソノ數ケ條ヲ抄出センニ、江戸本郷御屋敷富士見ノ御亭ニテ、織田左衛門富士山ノ巔ニ池アリ、水モ出候由、不審ト申ケレハ、左衛門其方合点ユカヌカ、人ノ頭ヲワレハ、血カ出ルト同シ事ニハ非スヤト仰セラル、一座ノ者ソノ頓智ニ感入ケルトソ、又公ハ二度ノ食三汁十菜ナルヲ、岡島兵庫、九里覺右衛門ナト御膳番ニテ申ケルハ、御三家ナトハ、大抵二汁五菜ト聞エケルニ、三汁十菜ハ如何ト小林檢校ヲ以テ申上シ處、覺右衛門等ハ合点ユカヌカ、三人ノ衆ハ位ゾクトイツバ、身ドモハ及ハネドモ、知行ニ至テハ、身ドモニハナルマイゾヤ、コ、ガ分限相應ト申モノナリ、孔子モコ、ヲ大事ト申サレシトナリ、小松へ御隠居ナサレシ後、筑前様光高ヨリ侍十人斗御指圖有之度、小林檢校ヲ以テ頼入ラレシ

ニ、家督相渡シタル上ハ、主ノ目利次第ニ成サルヘシト書付ヲ返サレケルニ、當惑ノ体ニテ、未タ若年ニ候ヘハ、御指圖ヲ願出候ナリト再御願申サレケレハ、爪ノ先ニテ貳人斗点ヲカケラレシトナリ、ソノ頃御咄衆トテ古キ事トモ見シリタルモノ四五人毎夜御夜話ニ參ル、ソノ話ニ申サレケルハ、太閤ナト、絶無ノ生付、信長ハ武勇ノ生付、越後ノ謙信ハ餘程ノ生付、信玄ニ至テハ、小サクテ役ニ立タスト頭ヲ度々フラレシトゾ、又江戸ニテノ御咄衆内藤外記トイフ人ノイヒケルハ、諸大名ハ諸事上様ノ風ニナビカレ候ニ、コナタト政宗殿ハサヤウニナキハ、イカ、哉ラント、世間ノ人トリサタスト申上ケレハ、至テ機嫌アシク、オモヒテ見ヨ、大府大納言ハ兩論ノコトシト、太閤ノ時分ハ申候ヘドモ、大納言ハ早世、大府ハ長生ニテ、天下ヲ取ラル、身ドモハ、ソノ下ニナリ候ヘドモ、何モ大府ニナヒクヤウナシ、政宗殿モソノ身ニ就テハ、ソノ心得ニテ候ハント申サレシ由、三四代マデハ、コノ氣魂一藩ノ上ニ漲リシモノニテ、キクダニモ人意ヲ強クス、公ノ大ナル所ハ右ノ如ク、ソノ細ヲイハ、草履取ノ半九郎、身上甚見苦シ、チト奇麗ニセヨト申付ヘシ、就テハ木綿壹疋拾貳匁、裏表染賃三匁五分、綿三匁、以上拾八九匁ニテ奇麗ニナリ候ヘドモ、

小判三兩トラセト、品川左門ニ申サレシヨシ、左門モソノ細ナルニハ驚キ候ヨシ見エタリ、總シテ公ハ太閤風ニテ、幕府ナトハ、眼中ニナク、勝手氣マ、ニフルマヒ給フウチニ、質素緻密ヲ忘給ハス、東海道ヲ通ル時ナトハ、諸藩士ハ旗小屋ニ入テ食ヲトリシモノナレトモ、加賀武士バカリハ、木賃トテ自分ニテ食ヲナシ、晝飯モ腰ニツケサセテ、亂國ニテハハタコモナルマジイゾト申サレ、元和ノ後ニ至テモ、士道ノスタレザルハ、加賀肥前殿ノ家中バカリナリト噂セシヨシ、カウヤウノ風、今ニ小松ニ遣レルニヤ、孔子曰、吾九夷ニ居ラント欲ス、或人曰ク陋ナリ、子云君子之ニ居ラハ、何ノ陋カアラムトイハレシゴトク、名君住メバ田舎モ都トナリ、暗君スレバ、都モ田舎トナル、史記ノ孟嘗君ガ傳贊ニ、吾嘗テ薛下ヲ過キテ、ソノ俗ヲ見シニ、無賴ノ子弟多ク、鄒魯ノ風トハ大ニ殊ナリ、ソノ故ヲトヘハ、孟嘗君天下ノ任俠ヲ招キ、姦人ノ薛中ニ入ル者、六万余家アリシト云、是薛下ノ風、漢ノ世マテモ遣レルナリ、ワカ金澤城下ハ、高德公以來十數世在住、ソノ中ニ明君モアレハ暗君モアリ、隨テ賢臣モアレハ姦臣モアリ、別テモ本多長ノ兩家ヲ初メテ、八家ノ面々ニ各家中數万戸アリテ、一城ノ下ニ群居セルコトナレハ、婦女子ノ寵ヲ恃ミ妍ヲ妬ム

ガゴトク、此間ニ高德公以來ノ風度豁達ノ美風良俗ハ消シテ、韜晦陰險傲慢嫉妬ノ惡風ハ長シ、終ニ人國記ノ評ヲシテ定論タラシムルニ至レリ、コレニ反シテ越中ノ高岡ヲ見レハ、大納言ノ風アリ加賀ノ小松ヲミレハ、中納言ノ風アリ、是皆一代キリノ御在任ナレハ、其良風美俗ハ後ノ惡習ニ攪亂セラル、ノ憂ナク、人情風俗スヘテ中納言大納言ノ遺風ヲ傳ヘテ、商工業ノ發達、金澤ニ對抗シテ遜色ナキハ、豈ニ陋ヲ變シテ華トナセルニアラスヤ、吾是ヲ觀テサラニ今日ノ世態ニ照ラシ見ルニ、都ハ變シテ鄙トナリ、夷トナリ、陋トナル、是皆政黨屋トイフ一種ノ渡鳥ノアシハラニスメルガゴトク、スムカト見レバハヤタチ去リテ、次ノワタリ鳥來ル、カ、ル世ノ中ニ、何ノ良風カアル、何ノ美俗カオコル、官吏既ニ渡鳥ナレハ、民俗モ皆渡鳥トナリ、上ニ家持ナケレハ、下ニ借屋ズマヒ多クナリテ、浮草ノ民情ヲ生スル、怪シムニタラス、國家ヲ荷フモノ、コ、ニ思慮分別アリヤ否ヤ、ソノ本ニ反リテ稽フヘキ也、

前田陽廣公

陽廣公名ハ光高、初ハ利高ト稱ス、容儀端潤、温乎タルコト玉ノコトク、顔色ヲ和ゲテ百

僚ニ見エ給ヒシカバ、進見スルモノ、先ソノ寛裕ニ服シケルトソ、公ハ戰國ノ際ニ生レ給ヒシモ、陋習ニ染ミ給ハス、マツ聖經ヲ尊ヒテコレヲ興シ、公ハ江戸ニアリシ時ハ、林道春ヲ延キテ教ヲ受ラレシトイフ和歌ヲ嗜ミテ思ヲ述ヘ、忠孝ヲ建テ、教ヲ施シ給ヒシカハ、我三州靡然トシテコレニ向ヒ、初テ文學ノアルコトヲ知レリ、文化ノ開キシハ、松雲公ノ時ニアリトイヘトモ、コレヲ先啓キ給シハ公也、シカルニ在位ノ日淺クシテ中道ニ薨シ、遂ニソノ志ヲ遂ケ給ハサリシコソ、カヘスノモ口ヲシケレ、公カツテ遺訓五十餘條ニ教ノ歌百首ヨミ給ヒテ、群臣ニ示シ給ヒキ、ソノ辭義明敷、教戒深切、人臣ノ弦韋ニアツヘシトテ、寛政甲寅ノ年、富田景周校正シテ傳ヘタリ、ソノ餘ニ一本種、自論記ナトイフモノアリ、自論記ハ、大猷公カ内旨ヲ奉シテ撰進セラレシモノトイフ、サレトモ今世ニ傳ハラズ、ヲシムヘシ、景周云、世ニハ水戸黃門ガ西山遺事、尾張宰相ガ温知政要ナトイフモノノアルコトヲ知レドモ、コノ君ノ此遺訓アルコトヲシラス、殊ニ公ノ御著ノ二侯ニ先タツコト二十年、モシクハ八十年也、文教ノ未開サル始ニアリテ、コレヲ發シ給ヘル、豈水尾ノ二侯ニ凌駕スルモノニアラスヤトイヘリ、公嘗テ江戸ノ龍口邸ニオハセシ時、白鷺ノ來テ常ニ坐邊ニ馴レ、左右頡頏、公ノ

使呼ニ從フ、公出テ給ヘハ送り、入り給ヘハ迎フ、公コレヲイタク愛シ給ケレハ群臣ノ崇敬モヨノツネニアラス、サルホトニ一日飛テ家臣某ノ庭ニ下ル、某ソレトモエシラス、杖モテウチ殺シ、壁上ニカケオキテ、心友ノ來ルヲマチテフルマハント思ヒシニ、友人某トヒキテ、コレヲ見テ驚テイハク、コレハ君ノメテ給ヘル驚也、何トシタル事ゾトイフニ、ソノモノ愕然色ヲ失ヒ、ヤガテソノ狀ヲ具シテ有司ニ申出テ、謹慎命ヲ待チシニ、公コレヲキ、給ヒテ、驚ハヲシケレドモ、禽モテ人ヲ罪スルハ、君道ニアラス、禽獸ハ近ツケマジキ物ゾト御意アリシカハ、ソノモノ初メ、群臣ノキクモノ、皆感泣セリトソ、又或時吉田大藏ガ制リシ弓ヲ幕府ニ進ラセントテ、武庫ヨリ出シテ別廳ニオキ給ヒシニ、一夜當直ノ壯士二三三人密ニ行キテコレヲヒキシニ、ニキリ弼ノ下ニ蟲バミアリテ、ハタトヲレヌ、ソノモノ汗ヲ流シテ人色ナシ、自刃シテ罪ヲ謝スヘシトテ、恐ルノ申上シカハ、密ニ行キテコレヲヒク、ソノ罪ナキニアラス、サレトモ虫バミヨリヲレシハ、コノ方ノ幸也、若シコノ事ナクシテ進ラセタランニハ、不恭ノ罪ハ遁ガレガタシ、安心セヨトテ、敢テ御咎モナカリシカハ、イツレモ恩命ヲ辱ガリシトナリ、コレラハ皆聖學ヨリエ給ヒシ也、

公ハ風度清廓、胷中一点ノ塵氣ナク顯諸侯ノ氣象、天然ニ存セリ、嘗テ僧ノ天海姓ハ平、大僧正トナリ

テ寛永寺ノ開山タリ、寛永十九年十月朔寂ス、慶安元年四月、勅アツテ慈眼大師ト諡ヲ賜フ、南光坊トイフハコレ也、ヲ招カレシ時、書院ニ藤原亞相公任卿ノ真筆

和漢朗詠集ヲオキテ、清玩ニ供セラル有澤永貞が古兵談中ニ、藤原定家卿ノ真筆伊勢物語トセリ、孰カ真ナルヲシラス、天海寒暄ヲ述ヘテ

後、拜觀數回、讚歎已マス、サテ公ノ識量ヲ試ミントテ、所望シケレハ、公何ノヲシゲモ

ナク、ソノマ、與ヘラレテ自若タリ、天海退席ノ時、コレヲ懷ニシテ出テ、式臺ニ至テ是

ハ貪道ニ用ナキモノナリトテ御返シ申テ、ソノ雅量ヲ嘆美シテマカリ歸リシトゾ、

公ハ只文道ニ深キノミナラス、ソノ武勇モ人ニ絶シ給ヒキ、寛永十二年ノ冬、將軍武藏ノ

板橋ニ游獵セラレシ時、公コレニ從ヒ給フ、一猛猪ノ鏃創ヲ蒙リ、タケリ狂ヒテ來ルアリ、

公奮躍シテ直ニ刀ヲモテサシ留メ給フ、時ニ公ノワラヂノ紐キレケレハ、手ツカラ腰ニ挾

ミ給ヘルヲトリテ、ハキカヘ給ヒケレハ將軍御覽シテ、サテノ捷勇ノスグレタルコトカナト賞シ給ヒケルトゾ、

木下順庵云、筑前公ハ聰明秀發、日ニ就リ月ニ將ミ、特ニ仁聲威望諸侯ノ右ニ軒翥リ、大

猷公ハ常ニ今枝直恒ノ輔導方アリト稱シ給ヒケルトゾ、直恒ハ公ノ御守役タリ、公ハ儒將

ノ風ナレドモ、ソノ氣魄ハ、父君ニモ劣ラス、事ニフレテ流露セシモノト見エテ、一年參
觀ノ節、幕府ノ大廣間ニ坐シ、薩摩侯ト歡晤シ給ヒケルホトニ、柱ニ手ヲカケテ、貴殿ト
カヲアハセテ搖ガセハ、此柱モ動クベシトオモフガ、イカゞ思召サレ候哉ト聲高ニ仰セラ
レシヲ聞テ、人皆舌ヲ卷キシトナリ、

小笠原刑部

小笠原刑部ハ、モト甲州ノ人也、小笠原與齋トイフ人ノ末孫也、出家シテ佛學ヲ修メ、シ
ツケ方軍配ナトニ上手也、殊ニ推歩術ニ精シク、氣ヲ見ルコト妙也、或時野遊ニユクトテ
山田半右衛門ソノ他一兩人同道シテユク、厩町ヲスグル時、フシキナル氣ノタツヲミテ、
各アレヲ見給へ、喧嘩ノ氣也、カヤウノ所ニハヲラヌモノゾトテ足早ニユキ、小立野邊マ
テユキ、七ツ時コロ歸宅ストテ、本ノ道ヲ通りケレハ、人多ク群ガリアフ、何ゾト立ヨリ
ミレハ、女夫ノイサカヒシテ、女房ノ頭ヲフツト打割リ、半死半生ノ躰也、サレバコソト
テ、人皆信仰セリトゾ、又大阪冬ノ陣ニ、城ノ上ニ氣タテリ、微妙公御前ニメサレテ、コ
レヲミヨ、吉凶イカニト御尋アリケルニ、龍虎ノ氣也、ヤカテ和談ニナリ候ヘシト申上ク、

ハタシテソノ通也、夏ノ陣ニモ、堀ノ上ニ氣立ツ、公又御尋アリケルニ、山崩ノ氣也、三
日ノ内ニ落城スヘシトイフ、手柄ナルウラナヒト半右衛門咄桑華
字苑コレモ支那一種占氣ノ法
ニシテ、魔法ニハアラス、識者ノヨクシル所ナルヘシ、

王伯子

王伯子名ハ肅柱、字ハ國鼎、福建清漳ノ人也、明季ノ亂ヲサケテ、我國ニ歸化シケルヲ、
慶長年中、瑞龍公召サレテ城内ニ寓セシメラル、後ニ程乘屋敷トテ、程乘ノ住ミシ所ハ、
ソノ跡ナリトイフ、コレヲ諸侯カ異邦ノ儒者ヲ抱ヘシ濫觴也トス、コノ後尾張侯ハ陳元
贊ヲ召シ、水戸侯ハ朱舜水ヲ召ストイヘトモ、イヅレモ七十年ノ後ニシテ、ソノ先鞭ヲツ
ケシハ吾瑞龍公也、今越中ノ瑞龍寺ニ、微妙公ガ喜捨シ給ヒシ、畫鷹屏風ノ讚辭十六首、
生藥屋中屋半仙ガ藏セル二十四孝畫屏風ノ讚ナトハ、イツレモソノ筆蹟ニシテ、筆力遒勁、
嘉稱スルニ足ルトイフ、マタ醫者ノ津田トイフモノ金撒ノ扇面ニ山水ヲカキ、コレニ詩ヲ題
シ、日本慶長六年八月大明王伯子寓加陽旅舍題トカケルモノヲ藏セシガ、書畫トモ、邦人ノ
及フ所ニアラザリシヲ、主人ノ養氏壯年ノ比、豪放ニシテ資産ヲ失ヒシ時、コノ扇面ヲウリ

テ醫書ヲカヒケリト、富田痴龍ニ語リシヨシ、今ハイヅクニカ歸シケム、ヲシムヘシ、近頃元和八年壬戌ノ秋ニカキシ詩ノ寫ヲ見タリ、今手鈔論語ノ跋ヲ下ニアグ、

論語跋

日本重刊先聖四書、間多錯漏、而文句向背、稍違聖語、余入加賀、加賀國王筑前守様、命鼎照日本刻論語抄寫、余幼習聖經、尙記章句、知有錯誤、遂補其損、裁其益、間有一二字近通者、存諸、蓋因其音語讀法顛倒之不同也、抄成二十章、字拙不工、聖經永寶、

王國鼎

松永遐年

松永遐年ハ平安ノ人松永久秀ノ後ニシテ、逍遙軒松永貞徳ノ子也、字ハ昌三、字ヲ以テ通稱トス、講習堂ト號ス、易ニ君子ハ朋友ヲモテ講習ス、コレヲ取レル也、又尺五堂ト號ス、嘗テ睿命アリテ、尺五堂ヲ禁闕ノ側ニ下賜ヒシヨリコノ號アルナリ、石川丈山ガ燕賀ノ詩序ニヨレハ、天ヲ去ルコト尺五トノ意也、禁裏ニ接近セシ地ナレハ也、惺窩先生ノ子冷泉爲

景ハ、昌三ノ門人タリ、詩ヲモテコレヲ賀ス、ソノ畧ニ

吾翁傳道學、君獨得膏腴、舊聽漢三傑、今逢魯一儒、

マタ春秋ヲ尤ヨク講セシ故、春秋館ノ號アリ、明儒者李全直、ソノ講ヲ聽キテ心醉シ、春秋館ノ三字ヲ大書シテ贈リシトソ、藤原惺窩ニ從テ學ヒ、博學洽通、聲名海内ニ遍ネク、林羅山トソノ名ヲ齊クセリ、蓋當時ハ戰國ノ末ニシテ、學文トイフコトハサラニナク、上下貴賤、只武力ヲ尊ミテ禮樂ヲシラス、赴々タル武人ハ、時ヲエガホニ、世ニ横行シ、儒士文人ノゴトキハ、到處人ニ擯斥セラレ、儒書ヲ挾ミテ王侯ノ門ニ至ルハ、イハユル章甫ヲ越ニヒサギ、瑟ヲ操リテ齊門ニタツモノ、類ナリ、コノ間ニ當リテ惺窩先生獨英邁ノ質ヲモテ闕里ノ緒ヲ繼ギ、赤幟ヲ掲ケテ宋學ヲ唱ヘ、モテ徳川三百年ノ泰平ヲ開キ給ヒシ、ソノ風ヲキ、テ興起シ、走リテ先生ノ門ニ入り、ソノ羽翼トナリシモノハ、羅山ト昌三ト也、コ、ヲ以テ先生ノ門人極テ多カリシカドモ、獨ソノ巨擘ト稱セラル、モノハ、唯コノ兩人ニテ、ソノ後羅山ハ江戸ニ走リ、昌三ハ京師ニ留マリ、東西呼應シテ程朱ノ學ヲ唱フ、コレヨリ伊洛ノ流派、天下ニ蔓衍スルヤウニナリヌ、兼ネテ醫ヲモ心エシニヤ眼疾ヲヤミシ片

手ツカラ万明膏ト云フヲ數年用シテ長岡意丹ニ與ヘシ書ニミュ、昌三年十八歳ノ時、豊臣秀頼公ニ謁シ、大學ヲ講シ、後去リテ攝南ノ諸侯ニ説キシモ、皆ソノ道ニ合ハス、歸リテ講習堂ニ屏居シ、門人ノ瀧川昌樂、野間三竹、安東省菴、宇都宮遜庵、木下順庵ナドト、日夜講習餘念ナカリシカ、我陽廣公河間東平ノ風アリテ、學ヲ好ミ賢ニ下リ、四方ノ名儒ヲ聘シ給ヒシ時、マツ蒲輪ノ禮ヲ以テ昌三ヲ招キ給フ、實ニ寛永十七年ノ事ニシテ、コレヨリ我北國ニモ宋儒ノ學ヲ傳ヘ、後來ノ教化鬱乎トシテ藩内ニ弘マリシ、ソノハシメハ昌三ナリトス、ソノ京ヲ出テ我藩ニ來ル、途中ノ作數首アリ、

大津

東風脂轄向天涯、湖水悠悠別恨加、客袖飄然逐歸雁、春來辜負洛陽花、

大聖寺

青松夾道自盤桓、十里風聲征袖寒、好是新林總添綠、崢嶸無復舊時看、

ソノ比微妙公小松ニ御座アリテ、時々昌三ヲ御招アリ、寛永十九年九月十三日ノ夜、河上ノ水亭ニ月見ノ宴ヲ賜ハリ、詩ヲ献ツル、其詩、

來見小松城裡月、今宵再若遇中秋、棹舟行碎剌溪雪、揚學俱娛瀛海流、水面風微波浪穩、峯頭雲淡斗星幽、迴廻身坐廣漢殿、上下清光万玉浮、

幸蒙恩許登亭榭、北國山川入一望、漁艇迎晴齊下網、華筵鍾景各傾觴、峯高天濶雲夢澤、人傑地靈崑玉崗、湖上流光看不厭、前身何愧賀知章、

コレヨリサキ、寛永九年閏九月下旬、藩侯ノ命ヲ奉シテ、齋藤實盛ノ兜ノ銘ヲ作ル、コノ兜ハ小松多田八幡ノ神庫ニアリ、九年ノ比ハマダ昌三ノ來ラサリシサキ也、京師ニテ命セラレシナルヘシ、ソノ銘、

藤君年老、意何止休、殞命軍場、輝此北州、千載武名、永以不朽、社中威德、存一兜鏊、

是ニヨレハ微妙公トクニ昌三ニアヒテソノ人トナリヲシリ給ヒシユエ、陽廣公ニ至リテ即チ聘セラレシナルヘシ、我藩ノ文學モ治畧モ、大カタハ微妙公ノ開カレタルナリト故老ノ人ニキケルガ洵ニ後人ヲ誣ザル也、昌三ノ詩右ノ外江戸湯島十景、市原山莊八景、凹凸窠十二景、山州水室十二景、併セテ四十二首ハ載セテ扶桑名勝集ニアリ、下ニ聊ヒクヘシ、晚年本藩ヲ辭シテ京師ニ歸リテ教授シ、明曆丁酉講習堂ニ卒ス、年六十六、丁酉ハ明曆三年ニテ、昌三ノ生ハ文祿元年也、我賀ニ留マルコト凡十年バカリナルヘシ、ソノ京ニ歸ル、板倉周防守京師ノ所司代トナリ、學ヲ好マレシヨリ、イタク尺五ヲ重ゼラレ、數々尺五ヲ延テソノ説ヲキ、遂ニコレカ爲ニ奏請シテ地ヲ堀川ニ求メテ一講堂ヲ築カシメ、以テ縉紳ノ諸士ニ教授セシメラル、即チ南内ノ側ニシテ、講習堂コレ也、ソノ落成ノ時、名流ヲ招キテ、新築ノ賀アリ、門人木下順菴頌禱ノ詩五言古一首七律二首献ス、ソノ中ニ、

先生何爲者、淳々說典常、董帷春晝靜、韓檠秋夜長、白鹿近仙洞、
三鱣落講堂、遊戲或詩賦、餘波溢文章、豈只諸生福、真是大明祥、
大哉賢哲志、百世可流芳、

ノ句アリ、コノ詩ニイヘルガゴトク、昌三ハ人材育成ニ妙ヲエタル人ニテ順庵ノ門ヨリモ多士濟々トシテ出テ太平ヲ鳴シ、モノ數多カリシモ、尺五ニ淵源スト先哲叢談ニイヘリ、ソノ三十三年忌ニ、宇津宮遜菴カ詩ニ、

先生學術建三元勳、往昔門人聚若雲、三十年來追遠日、獨披荒草問孤墳、

又講習堂ヲ過ル七律ニ、

講堂如見先師面、幾對遺書感舊恩、
ノ句アリ、コレヲヲミテソノ育英ノ程ヲミルヘシ、嗚乎上ハ惺窩ヲ佐ケテ、伊洛ノ學ヲ播メ、下ハ人材ヲ聚メテ無數ノ法門ヲ開ク、コノ人ヲ聘シテ北國ニ道學ヲ施シ、教化ヲ行ハシメシハ、陽廣公ニシテソノ德仰ケハ彌高シ、トイヘトモ、尺五輔佐ノ功モ亦大ナリト云ヘシ、

昌三ノ詩文ハ、上ニ引ケル外ニ、名所ノ詩、往々見エタリ、サレドモソノ比ハ文運未興ラス、万事草昧ノ姿ニテ、カヒナキコト多カリ、今ソノ一二首アケテ、風氣ノ源スル所ヲシ

ラシム、

城北市原山八景 録一

北肉峯 キタシノ

北肉峯中保谷神、古今唯有兩三人、儒風隆盛又應待、當日二南
從是新、

コノ八景ハ、冷泉爲章卿ノ別墅ニシテ、ソノ父惺窩先生ノ隱居所ニセラレシ所也、八景モ
先生ノ撰ミニテ、一々和歌アリ、昌三八丈山三竹ト寛永十五年ノ夏六月、丁巳ノ日ニ、ツ
ノ山莊ニ招カレテ、コノ詩ヲ作リシ也、惺窩ハ北肉山人ト號シテ市原山ノ麓ニ居住アリ、コ
ノ詩ハ惺窩ヲ賛セシ也、余京師ニ勤メシ比ソノ址ヲ尋ネテ道標ヲ路ノ入口ニ立テ、オケリ、

江戸湯島十景 録三

東叡山山櫻

千樹櫻花枝綴瑤、武江城外白雲遙、嶺頭留得滿天雪、二月東風
吹不消、

聖堂杏壇

太平有象盛朝中、孔席新成道已東、禮樂花開杏壇上、春盈四海
仰仁風、

檻外征帆

幽渺重溟檻外流、揚帆如逐幾行舟、料知万里蓬窓底、載得無邊
風月秋、

凹凸窠十二景詩 録一

滿溪櫻花

万株櫻樹隔輪蹄、爛漫盈山壓隱栖、雨洗羅縠紅日粲、風飄玉佩
白雲低、清容高與伯夷競、粉面新兼平叔齊、桃李不言人有德、啣
花禽鳥自成蹊、

昌三歿後嫡子ノ昌易、ソノ學ヲ傳フ、次子永三モ、本藩ノ侍講タリ、

松永永三

永三、思齋ト號ス、万治己亥、本藩ニ召サレテ文學トナリ、歲祿三百石賜ハル、永三克ク父ノ業ヲ繼キテ、家聲ヲ墜サス、本藩ニ留マルコト十四年、寛文壬子ノ年、骸骨ヲ乞テ辞シ去ル、ソノ本藩ノ聘ニ應スル、マヅ木下順庵ヲメサレシ也、時ニ順庵ソノ聘ヲ辭シ申シテイハク、拙者ハ尺五先生ノ門人ニシテ、ソノ子永三現ニ長シ候ヘトモ、未タ仕途ニ就申サス、家計モヨロシカラヌヨシキ、候ヘハ、何卒永三ヲメサレテソノ宿望ヲ達セシメラレ候ハ、拙者ノ本望コノ上モナシト申シ、カハ、今時ノ人ハ平生手足ノヤウニ交ハルトモ、一朝利害ノ分カ、ル所ニ至レハ、崖岸相向フガ世ノ常ナルニ、順庵ハカリハ、殊勝ノ志ナリトテ、竟ニ順庵ト併セテメサレシ也トイフ、先哲叢談コレラノ美談モ、尺五先生ノ薰陶ニヨルナルヘシ、アリカタキ教化ノ徳トイフヘシ、オモフニ人材ヲ育スル、外ニアラス、只々徳ヲモテ人ヲ化スルニアリ、白石ノ本藩ニ聘セラレシ時モ、辭シテ岡島達ヲス、メタルモ、順庵ノ聘ヲ辭セシトソノ志一也、尺五ノ門ニ順庵ヲ出シ、順庵ノ門ニ白石ヲ出ス、皆ソノ淵源ノアル所ナリ、永三ノ詩二首、

題昇仙石

突兀高峰仰刺天、雲梯過客是昇仙、靈山移在二盆上、縮美藏勝石一拳、

外宮

國常基立自安全、可仰神靈輝一天、應化神通無内外、皇威永護万斯年、

コノ外宮ノ詩ハ、赤塚玄菴、中山三柳、長岡意丹等ト伊勢ノ十二境ヲ詠セシ也、扶桑名勝集ニミエタリ、

板屋兵四郎

板屋兵四郎ハ、小松邑ノ町人ニテ、數學ニ達ス、寛永九年、微妙公金澤城内ヘ犀川ノ水ヒカント計畫セラレシカトモ、城ノ方極テ高く、ソノ業容易ナラス、ヨリテソノ道ヲシレルモノヲ尋ネ給ヒケルウチニ、兵四郎ノ心計ニ富メルコトヲキコシメサレテ、コレヲヨビヨセ、ソノ下役ニ能州ノ小代官下村兵九郎トイフモノヲサシソヘテ、万端ソノ工事ヲ委任セラル、兵四郎是ニヨリテ下村ト共ニ百方考量シテ、漸ク犀川ノ水ヲ小立野トイフ所ヘ引ア

ケテ、以テ城中ニ注ク、コレヲ辰巳用水トイフ、凡上辰巳村ノ川口ヨリ城内ノ蓮池マテ二里四丁四間ノ間ニシテ、ソノ間ヲ或ハ現水トシ、或ハ伏水トスル、ソノケ所ヲイハ、上辰巳村河口ヨリ同所水門マテ二十九間現水、水門ノ下ヨリ吉坂ノ下マテ六百三十四間半伏水、隧道アリテ、ソノ下二間現水、三百三十六間伏水、下辰巳村アタリ五十八間現水、十一間半伏水、十三間現水、十八間伏水、百五十四間現水、十一間半伏水、十三間現水、十八間伏水、百五十四間現水、四十四間伏水、六十四間現水、十三間伏水、九間現水、三十三間伏水、五十四間半現水、四十五間伏水、百二間現水、三十七間伏水、四十六間現水、七十間伏水、サテ末村瀧坂トイフ所ノ左ニ、隧窓アリ、コノ隧窓ノ下ヨリ四十八間伏、十三間現、二百十三間伏、五十八間現、百二十二間伏、七十二間ノ所ニ隧窓アリ六十間現、四十五間伏、五十二間半現、二十八間伏、四百二十一間現、二百九十間伏、隧ハ土清水トイフ所ニテ終ルコノ所ヨリ二千九百七十五間八尺現、終ニ城中ノ蓮池ニ入ル、右末村瀧坂ヨリ下ハ延寶七年巳未ノ年新ニ改修ヲ加ヘラル公ソノ功ヲイタク賞セラレテ、金銀夥シク下シ賜ヒケレハ、兵四郎感泣シテ城ヲ出ツ、時ニ人アリテ卒然狙撃シテ、ソノ跡ヲカクシ、兵四郎ハ終ニソノ場ニ倒レテ死ス、公ソノ非命ニ死スルヲ痛ク悼

ミ給テ城内ニ祠ヲ建テ、祭ラシメ給フ、今公園内蟻螺山ノ塔是ナリト言傳ヘタリ、其狙撃シタルモノイカ、シ給ヒケム、記録ニモ存セス、川上袋村ノ者ドモ殊ノ外ソノ不幸ヲ憫ミ、春秋コレヲ祭リテ後ニ至ル、因テ之ヲ袋神ト世ニ稱セリ、今ノ袋村ノ八幡宮一座ノ祭神是ナリト云、蓋袋村ノ農民ハ、當時コノ役ニ從ヒシモノナルケレハ、村中ニ祠ヲ設ケテ祭リシヲ、後村社ノ中へ配祀セシモノナルヘシ、舊藩ノ頃ハ、祭祀料サヘ下賜セラレシモノナリトゾ、ソモノノカヤウノ話ハ築城ノ際ナトニハ往々アリシ者ニテ、肥後熊本城ヲツキシ時ニモ、コレニ似タル話アリシトキク、ソノ秘ヲ洩サンコトヲ恐レテノ所爲ナルヘケレトモ、ソノ主ニ忠セントシテ却テ不忠ノ誹ヲ招クノミナラス、無念ノ涙千古ノ後マテモ乾カス、今ニ至テハ、所ノ者サヘ知ラザルモノ多カルヘク、マシテ金澤市民ニ於テヤヤ、日々夜々ソノ恩澤ノ水ニ潤ナガラ、ソノ村ニ歩ミヲハコフモノモナク、蟻螺山ノ塔サヘ石扉ヲトリハツシテ中ヲ空洞トナセル、何タルアサマシキ世ノ中ゾヤ、余有志ノ人ト其事實ヲトリシラベテ報恩ノ道ヲ講スルコトヲ久シ、因テ今コ、ニ聊カソノ端ヲ發シテ、印須ノ意ヲ洩ラスノミ、

因ニ云、河北郡高松邊ニ長柄野トイフ所アリ、村井村ノ平兵衛トイフモノ、新開ヲ願出
 テ、夏粟川トイフ河ノ河上一里半ノ所ヨリ水ヲ引キテ、新田ヲ開ケリ、コノ野ハ、右
 ノ河ヨリ百間餘高シトイフ、是ヲ長柄野用水トイフ、三州續志稿是モ兵四郎ノ故智ヲツギシモ
 ノカ、果シテ信ナラハ厚ク祭ツルヘキナリ、

三州遺事中編目次

卷三

- 前田松雲公
- 本多政敏
- 本多政冬
- 奥村庸禮
- 奥村修運
- 奥村忠順
- 葛卷昌興
- 九里正長
- 九里將興
- 有澤永貞
- 脇田直能
- 原元寅
- 今村正信
- 武貞、貞幹
- 德輝

中編卷三

前田松雲公

松雲公名ハ綱利、ツナトシ字ハ取益。コノ字ハ朱舜水ニ頼マレシモノト一ノ字ハ國義、コレハ林鷲峯ニ頼マレシ也見エテ、舜水文集ニ取益ノ説アリノ字ハ國義、コレハ林鷲峯ニ頼マレシ也見ユ、後サラニ改テ名ヲ綱紀、ツナノリ字ヲ中和トセラル、敬義、養民、願軒、三省、香雪、梅嶺、皆ソノ別號也、公ハ江戸ノ辰口邸ニ生レ給フ、時ニ父君金澤ニ在リ遙ニソノ誕生ヲ聞テ、俄ニ東行アリ、信州ノ古間驛ニ至ラレシ時、駕籠ノウチニテマドロミ給ヒ、夢ニ、

開クヨリ梅ハ千里ノ勻哉

トイフ句ヲエテ英物ノ兆トオボシメケルトソ、幼ニシテ國統ヲ繼キ、長スルニ及テ、天骨秀朗、精ヲ經世ニ勵マシ給ヒ、朝儀ヲ起シ、律令ヲ定メ、百爾ノ制度スヘテコレヲ前烈ニ徵シ、將來ニ垂レ給ヒ、百姓ノソノ恩德ニ感孚セル、前後ニ比ナカリシカハ、世ノ諺ニ政事ハ一ニ加賀、二ニ土佐ト申シケルト也、土佐侯モ、コノ時野中兼山ヲ用ヒテ朱子學ヲ興シ、佛寺ヲ毀テ、學校ヲ創メ、農兵ヲ置キ、新令ヲ出シ、一國安民ノ利ヲ施スコト少カラサリシ時也、筑前ノ龜井道藏カ熊本俚談ニモコレヲ載セタリコレニ加フルニ、學該博ヲ好ミ給ヒ、天下ノ奇書ヲ貯ヘ、ソノ

御文庫ハ、宋ノ崇文院ニ倣ヒテ、經史子集ノ四部ニ分チテ納メ給フ、コレニヨツテ海内稱シテ加賀ハ天下ノ書府ナリト申シケルトソ、コノ事新井筑後雨森東五郎ノ手紙中ニモ數々見ユ室鳩巢ガ話ニ、菅侯河間東平王ノ好アリテ、カツテ天下ノ遺書ヲ搜索シ、古今ノ珍籍ヲ收メ、四庫ノ中、倚疊山ノコトク、ソノ收メ給フ所皆四部七畧ノ類ニテ、率ネ大卷巨冊、ソノ餘ノ金石遺文、小史稗編モ、皆ソノ爾雅ナルヲトツテコレニ附ス、近世ノ猥瑣俚俗ノ書ニ至テハ、舉テ收メ給ハストイヘリ、殊ニ天下ノ名儒ヲ招キ給ヒテ書ヲ講シ、學ヲ論シテ、徳ヲ文苑ニ流シ、禮ヲ厚クシテ賢ヲ待ラヘ、食ヲ吐キテ士ニ接スル、殆ト燕昭ノ風アリシカハ、木下順菴、平岩仙桂、野間三竹、林春齋等ノゴトキ、天下ノ鉅儒靡然トシテ來リ、君臣穠々、一堂ノ上ニ喁于シ、文華ノ盛ナル、天下ニ比ナカリシハ、亦偉ナラスヤ、元祿五年三月廿七日將軍常憲公ミツカラ大學ヲ講シ給ヒ、六月三日、台命アリテ列侯ニ經ヲ講セラレンコトヲ乞ハレシトキ、皆辭シテ應スル人ナカリシニ、公自進ミテ中庸ノ首章ヲ便殿ニ講シ、辭義明瞭ナリシカハ、將軍嗟歎斜ナラス、講畢リテ竹間御殿ニテ饗應アリ、且牧野備後守成貞ヲモテ御褒詞アリ、退朝ノ後、林學士ト木下順庵トニ命シテソノ

顛末ヲ記サシメラル、六年十月朔、將軍論語里仁ノ篇ヲ講シ、且大學ノ書ヲ公ニ授ケテ、講ヲ乞給フ、公由テ知止章ヲ講シ給ヒケレハ、講了リテ後八丈ノ繒キヌヲ五十端贈ラレシヨシ七年七月三日、特命アリテ登城、公會津侯ト同坐ニテ、將軍ノ易乾卦ヲ講シ給フヲ聽聞アリ、ソノ時公ニ論語ノ爲政篇ヲ講セラレンコトヲ乞ハル、講了リテ徳不孤ノ三字ヲミツカラ書シテ下サレケル、ソノ時順菴頌徳ノ詩ヲ賦シテ奉ル、享保辛丑ノ年五月廿五日、將軍家宣公有馬兵庫頭某ヲ遣ハシ、室鳩巢ヲ山吹間ニ召サレテ、公ノ政治及學術ノ正邪ヲ數十條御尋ナリ、鳩巢ソノ美ヲ逐一列舉シ、中ニヅク聲色ノ好ナク、賄賂ノサタ一向ナキコトヲ申上ク、又ソノ學問ノ深キヲ稱シテ、無点本ヲサラ〜トヨミ給ヒケルハ、儒者モ及ハヌ所ナリト申上タリ、ソノ事ノ詳ナルコトハ兼山秘策ニ見エタリ、公ノ仁政ノゴトキハ一々舉クルニタヘス、今ソノ一條ヲアゲテ記サンニ、寛文己酉ノ年飢饉ナリシカハ、吾三州ノ鰥寡孤獨赤貧ニシテ便ナキモノ、爲ニ、非人小屋ヲ建テ、コノ中ニ住マシメテ、衣食ヲ與ヘ、疾メバ醫藥ヲ給シ、恒ニ千人バカリ居タリシトゾ、熊谷止齋ガ享保錄ニ三千人或ハ五千人トモ記セリ家宣公モカツテコレヲ賞シ、物茂卿カ政談ニモコレヲ稱セリ、京ノ醫者向井元升ガ庖厨本草ニモ

コレヲ稱シテ、且云、菅原君ハ、幼少ノ時ヨリ鴻業ヲ承ケ給ヒ、長シテ聖人ノ道ヲ信ジ、ソノ心專ラ治國安民ノ德ニアリ、去歲庚戌文ノ夏五月、江戸ヨリ歸國セラレシ時、未駕ヲ下リスシテ、急荒ヲ救ハシメ、三州ノ窮民、倒懸ノ苦ヲ脱スル、ソノ仁惠モ亦博シトイフヘシ云々、ソノ後長久保赤水カ東奥記行附録ニ、越後ノ溝口候カ民ノ七十歳ニ至レルモノニ、養老料ヲ賜ヒシヲ賞シテ周漢ノ仁政モコレニハマサラジトイヘドモ、我公ノ貧民ヲ養ヒ、極老ヲ惠ミ給ヒシ仁政ハ、コレニ先タツコト百年、ソノ數モ彼ニ倍セリト、富田景周ハ稱セリ、サテソノ純孝ナル一事ヲ申サンニ、先妣清泰夫人常ニ鶉ノ卵ヲ錦ノ囊ニイレテ懷ニテ暖メ、溫育ヲ施シテ鷄音ヲ發スルコトヲ好ミ給ヒシトテ、公終身鶉ヲメシ給ハザリシトイフ、又ソノ勤王ニ厚カリシコトハ狩野探幽齋ニ楠公決子ノ圖ヲ畫カシメテ、朱舜水ニソノ贊ヲ書カシメラレシヲ初メテ、南朝ノ忠蹟ヲ涉獵シテソノ史實ノ煙滅ヲ惜給シコト、宗良親王ノ傳ニ云ルガゴトシ、享保九年甲辰ノ九日、江戸ノ本卿邸ニテ薨去シ給ヒヌ、御年八十二、治政五十餘年、公少壯ノ御時ヨリ、詩ヲ好ミテ作り玉ヒシトイフ、コレニヨツテ寛文四年ノ比、林梅洞ヲ本卿邸ニ招カレテ詩經及宋ノ朱子カ感興ノ詩ナドヲ講セシメラレシコト

アリ、又粟崎ノ傍八田湖ノ景色ヲ稱シテ、太清湖ト名付ラレ、亭子ヲ湖畔ニ設ケテ、遊覽ノ所トシ給テ、ソノ亭ニ題セラレシ作アリ、

百尺凌雲碧玉樓、蒼波涵影鏡中流、帝機屢濺江天色、織出檻前

錦樹秋、

以テソノ錦繡ノ勝ヲ見ルヘシ、コノ時木下平岩澤田ノ諸學士ニ宴ヲ賜ヒ、各應教ノ七律アリ、燕臺風雅ニ見ユ、寛文十一年ノ夏、八人ノ諸儒ヲ育徳園江戸ノ本郷邸ニアリニ召サレテ宴ヲ給フ、

ソノ時ノ御作

騷客題詩一草堂、夕蟬和雨送斜陽、人間快樂有何事、吟就此中

興味長、

時ニ園中八景ヲ分ケテ諸儒ニ詩ヲ賦セシメラル、ソノ一ニ長林晨暉ニ清池宿禽、三ニ溪橋聞鶉、四ニ平蕪游鹿、五ニ西塢花雲、六ニ竹逕涼雨、七ニ恠岩紅楓、八ニ蟠松晴雪、又八境ヲ分チテ賦セシメラル、ソノ一ニ蔦旋店、二ニ月到亭、三ニ半曲榭、四ニ通達窓、五ニ標柱石、六ニ青願軒、七ニ望富觀、八ニ睇驥堂、諸儒各詩成リテ、弘文院學士林春常ソ

ノ序ヲ作り、野間三竹ソノ跋ヲ作レリ、ハタ又席上ニテ各、公ノ詩ヲ和スルモノ九首アリ、公游獵ナトニ出ラレシ時ハ、必大儒ノ筆ヲ携ヘテ伴フアリ、ソノ賢ヲ愛シ學ヲ好ミ給ヘルコト蓋天稟ニイヅル也、貞享二年中秋、芙蓉池享ニテ國老大夫ニ駿馬ノ拜觀許サレ、ソノ夜、宴ヲ賜ヒ各ヲシテ明月ノ詩ヲ奉ラシメラル、公卷ヲ舒ヘテ奥村庸禮カ父子ノ詩ニ至リテ、擊節三嘆文辭ノ盛ナル、殆ト漢魏ノ遺風アリト申サレシト也、書ハ公ノ右筆山本源右衛門ガ手ヲ學給ヒ、適美ニシテ俗韻ナシ、吾、反古ノ裏ニ書付給ヘルヲ、一卷ニ裝シテ、秘藏シケルヲ、今ハ市立圖書館ニ寄附セリ、ソレヲ見レハ書籍ノ秘庫ニアルモノナキモノヲ、一々吟味シ給ヘル書付ニテ、又一種ノ和様ニテ見事ナリ、其質素ナルモ、高德公以來ノ御家風ニテ、百世ノ貽範タリ、鳩巢カ本藩立國始末ノ詩、及汾水陪宴ノ詩、尤ヨク公ノ美事ヲ盡セリ、今ソノ中ヲ採テ贊ニ代フ、

我侯祖烈ヲ承ケ、下ヲ化スルニ甄陶ヲ務メ、驃騎居家ヲ樂ミ、河間宿好ニ偏ス、民ヲ愛シテ憂閔々、上ヲ奉シテ執拳々タリ、秉德微草ヲ偃セ、和羹小鮮ヲ烹ル、身ヲ檢シテ儉素ヲ躬ラシ、色ヲ遠サケテ嬋娟ヲ退ク、抑戒敖樂ヲ防キ、徵招沂沿ヲ禁ス、歲幽ニシテ德

政ヲ布キ、令下リテ負租ヲ蠲ク、治ヲ圖リテ能ク小ヲ勤メ、材ヲ舉ケテ詮ヲ誤ラス、對問前席ヲ承ケ、講經細氈ニ侍ス、落珠彩筆ヲ揮ヒ、擣藻華箋ヲ染ム、直道清時ニ合ヒ、高情塵事ヲ捐ツ、原漢文

附 加賀中將本中庸章句跋 林憲

元祿五年壬申六月三日、今ノ大君正殿ニ臨ミ、大學ノ三綱領ヲ自講シ、尾張大納言光友、紀伊大納言光貞、甲斐中納言綱豊、尾張參議綱誠、紀伊參議綱教、水戸中將綱條、加賀中將綱紀、列座拜聽アリ、老臣大久保加賀守忠朝、阿部豊後守正武、戸田山城守忠昌、土屋相摸守政直、及牧野備後守成貞、ソノ傍ニ侍坐シ、近臣柳澤出羽守保明、及ヒ余ソノ席ニ陪ス、講畢リテ特ニ台命アリ、加賀中將中庸ノ首章ヲ講給フ、ソノ講義穩當、雄辯嘖セス、ソノ旨趣ニイハク、中庸トイフ書ハ、子思子カ道學ノソノ傳ヲ失ハンコトヲ憂ヒテ作ラレシ也、故ニ道ヲモテ主トシ、首章ニハ性道教ノ三ツヲ併説スレトモ、性ハ道ノ在ル所、教ハ性ノ成ル所ニテ、コノ道ハ体統ノ一大極也、次章ニ道也者、不可須臾離也トアルモ、首章ニイハユル君子ノ道トイフモ、皆是相比シテ發揮

セシモノ也云々、大君ソノ意ヲコ、カシコニ注キ給ヒシヲ感ジ給フコト斜ナラス、嗚乎、釋氏ノイハユル空ハ性トスル所ニアラス、老氏ノイハユル無ハ道トスル所ニアラズ、楊墨ノ爲我兼愛モ、管商ノ權謀モ、俗儒ノ記誦、百家ノ衆技モ、皆教トスル所ニアラス、イハユル道ノ大原ハ、天ヨリ出タル者ニシテ、包括切要、學者ノ深ク体シテ默識スヘキ所ナリ、日ヲヘテ後、余加賀中將ノ邸ニ參リテ、之ヲ賀シ申ケレバ、中將ソノ講シ給ヒシ中庸章句ヲ示シテ宣ハク、請フ一語ヲ記シテ後證トセヨ、余對ヘテ申サク、君侯ノ平生聖ヲ尊ヒ道ヲ信シ、學ヲ好ミ儒ヲ愛シ給ヘル、楚元ノ風、東平ノ學ニ近シ、誠ニ宗室ノ儀表、武林ノ雋望ト申スヘシ、方今儒風美ニシテ學道盛也、官政ノ施ス所ハ、君侯ノ志給フ所也、上下志ヲ同シクシテコノ道達ス、國ノ爲メ道ノ爲メ、本支百世、期スキヘ也、ソノ德マタ大ナラスヤ、經筵講官大學頭整宇林巖謹テ記ス

原漢文鳳岡文集

本多政敏

本多政敏、字ハ澹靜、安房守、鶴夢ト號ス、別ニ天淵、臥龍ノ號アリ、本多政長ノ子也、

本姓ハ藤原氏、其ノ祖ハ佐渡守正信ノ次男也、高德公ニ筮仕シ、歲祿五萬石、家世々國老タリ、政敏ハ儒學ヲ崇ミ、兼ネテ禪ニ通シ、大乘寺ノ川舟、萬山、天徳院ノ月坡和尚等ト方外ノ交ヲ結ヒ、平生陶淵明ノ人トナリヲ慕ヒ、ソノ居所ヲ仙遊臺ト命シ、サラニ夕佳亭ト名ツケテ源鶴阜シテソノ記ヲ作ラシム、又樓ヲ瞰虹樓ト名付ケテ、室鳩巢ニソノ記ヲ作ラシム、詩アリ、

題畫靜亭

信手縛成一草亭、崑陰泉湧自清冷、夏天無事閑烹茗、日々好山入眼青、

秋日江西山即興

雨打笠頭策瘦驂、偶登江嶺叩禪龕、閑中消却人間夢、揮麈俱甘無味談、

富田痴龍云、澹靜ノ學ハ正心誠意ノ工夫ニ於テハ、蒙窠個字ノ二奧ニ抗スルコトアタハザレトモ、ソノ詩腸ノ錦繡ニ至リテハ、二奧モ遙ニ及ハス、蓋ソノ好ム所ハ鏡花水月ノ境ニ

アラス、要ハ尖新奇巧ノ一生面ヲ開クニアリ、百年前ニ出テ、既ニ今日宋元ノ風ヲ成セリ、ソノ先鞭ノ功賞スヘシトイヘリ、澹靜又臨池ノ技ニ富ミ、行草筆ニ隨テオノツカラ成ル、小白山本地堂、大乘寺ノ浴室、及ヒ能州鹿渡島大悲閣ノ額ナトノゴトキ、天機生動、筆致神ニ入ルトイヘリ、

澹靜江戸ノ邸ニアリシ時、同姓ノ作十郎トイフモノ幕府ノ臣、ソノ一袋ノ奇南香ヲ持キテ云實澹靜カ子ナリ是ハ旗本老中ノ寶、故アリテ貧ニ及ヒ、金百兩ニ賣リテ、先考ノ年忌ヲ行ハン料ニセントイフ、何卒ソノ人ノ爲御求メ下サルマジクヤトイフ、政敏一議ニモ及ハス、ソハ不便ノ事ナリトテ、即坐ニ金百兩出シ奇南ニソヘテ與ヘラル、ソノ比相傳ヘテサスガニ大國ノ御家老ナリトイフ、或年江戸ヨリ歸國ノヲリ、東海道ヲ通り、三保ノ松原ニテ一休シ、紅毛氈數十枚シカセテ酒ヲクミ、宴了リテソノ氈ヲ收メス、ソノマ、ステ、歸リシト云フ、ソノ氣局ノ大ナル、襟懷ノ淡ナル、人皆千古ノ美談トシテ今ニ傳フルナリ、

附 夕佳亭記 源鶴阜

遊仙游臺之日、偶曳筇於青螺峰下、閑行數日、傍流過橋、到處茅

軒、其旁及林木幽翳處、闢地數畝、構堂數椽、圖靖節先生之像而置其中焉、主人屬余題其名、因取山氣日夕佳之句、榜曰夕佳亭、復命作記、以頌先生之德、蓋先生之爲人也、不戚々於貧賤、不汲々於富貴、詩酒常爲樂、琴書永消憂、嗚乎、先生之徳、孰能頌之、東籬之花、黃金滿地、先生之富也、南山之高、不騫不崩、先生之壽也、凜々凌霜、松柏愈堅、先生之節也、耻事二姓、遂不復仕、先生之義也、噫、千載之下、讀其書、猶想其人、况得癸斯堂而拜其像者乎、凡自晋至今、且三千有餘歲、其間王侯大人富貴湮滅者、不可稱數、先生閭巷清貧之士、獨以節義著、故使天下後世人至于今、稱說而不衰、則世之欲以威福取勝者、亦已惑矣、時見螺峰、日已夕而雲起、因爲先生歌曰、雲唯無心、或去或留、人唯慕道、樂以忘憂、北窓之下、永與義皇遊、

本多政冬

本多政冬、字ハ仲貞、俗稱ハ圖書、文峰ト號シ、又龜居トモ號ス、居ル所ヲ藏六窩トイフ、政敏カ弟也、政務ノ暇ニ詩ヲ好ミ、兄弟相和シ、詩ハ烏山芝軒カ風ヲ慕ヒケルトソ、芝軒名ハ輔寛、字ハ碩夫、京ノ儒者也、今ソレニ寄セタル詩ヲ一首コ、ニカ、ク、

烏山隱士、遯跡城南、有年於茲、余弱冠傾蓋、後雁魚不絶、或書

或詩、常相往復、頃賦賀余新居七律一篇見寄、因次韻以謝云、

彩筆寄言千里路、芳情不背少年時、獨在幽邃心地靜、長樂智仁

氣象宜、渭北山高唯疊翠、城南水淨憶漣漪、新居雖窄足容膝、何

日迎君報此詩、

源鶴阜云、仲子ハ余カ畏友也、人トナリ純孝ニシテ、徳容靄然、親ムハクシテ狎ルヘカラストゾ、

奥村庸禮

奥村庸禮、字ハ師儉、通稱壹岐、又名ヲ克、字ヲ顯思ト云フ、蒙窩ト號ス、本姓ハ平氏、其祖ハ筑前國ヨリ出テ、高德公ニ筮仕ス、ソノ詳ナルハ木下順庵カ作リシ稗文ニ見エタリ、

師儉ハ天質愷々ニシテ學ヲ好ミ、志金石ニ比スヘシ、ソノ身國老ノ重任ヲ負ヒテ、政事ニ參シ、機務ニ劇シクシテ、心少シモ弛マヌ、其談スル所、專ラ誠ニ本ツキ、敬ヲ主トシテ、民生日用彝倫ノ間ヲハナレス、年三十歳マテハ、禪學ヲ修メ、臨濟曹洞ノ奥旨ヲ嚼ミ、圓覺華嚴ノ教味ヲ茹フ、一日大乘寺ノ愚禪和尚一ニ愚堂ニ作ルニ法要ヲ問ヒシニ、ソノ答風ヲ捕ヘ景ヲ捉フルコトク、且朱晦庵ガ人ノ死ヌル、燒ケハ灰トナリ、埋メハ土トナルトイヘルハ、晦庵ノ誤也、人ノ死ヌル、イカテカ灰土トナラントイフヲキ、テ、復禪ヲ顧ミス、コレヨリ專儒學ニ志サシ、六經ヲ枕ニシ、孜々トシテ止マス、初メ木門ニ入テ、切劘ノ功ヲ積ミ、後朱舜水ノ大儒タルヲ、早クモ識リテ、サラニコレヲ師トシ、從學數年、ソノ禮ノ厚キト、及フ所ニアラス、藩侯參觀ノ時ハ、必御供ニ立テ、江戸ニ滯マリ、ソノ門ニ通ヒテ教ヲ受ケ、國ニ在ル時ハ、時々音書ヲ通シテ、ソノ疑ヲ質シ、且通鑑ヲ讀ミテ、ソノ不審ヲ問ヒ、舜水モ深ク望ヲ屬シ、循々ト教ヘテヤマサリシ、ソノ趣ハ往々ソノ手簡ニ見エタリ、ソノ返書ノ略ニイハク、

不佞耳ハ聾ニシテ、目ハ盲ヒ、口モマタ叶ハス、賢弟何トテ不佞ヲ師トセン、前論ニ

モ安東省庵ノゴトクセントノ御詞ニ候ヘトモ、カノ省庵ハ一个ノ寒士ニシテ、親戚朋友ヨリ百方コレヲ動かセトモ、ソノ志ヲカヘザルノミ、今賢弟ハ大邦ノ名門ニシテ、ヨク聖賢ノ道ニ志サス、是コソ誠ノ君子ニシテ、徳ヲ尙フ人トハ申ヘケレ、果シテ賢弟ニシテヨク省庵ノコトクニ候ハ、不佞何トテ世俗ノゴトク教ニ吝ナランヤ、マシテ不佞カ貴國ノ人ヲ視ル、一家父子ノコトクナルヲヤ、原漢文

トイヘリ、コレニテソノ舜水ヲ學ヒシコトモ舜水ノ身ヲイレテヲシヘシコトモ明カナルヘシ、只ソノ師弟タル、ワカ邦ト支那トノ間ガラナレハ、書文モ同シカラス、語言モ同シカラス、マシテ傳言ニ託スルコトモ叶ハス、何カニ付テ不便至極ニテ、耳提面命、ソノ底蘊ヲ盡スコトアタハサリシ、ソノ邊ノ嘆息、書中ニ毎度見エタリ、右ノ返書モ、ソノ底蘊ヲ盡シテ教ヘラレサルヤウニオモヒシニコタヘシ也、尤長崎ニテ頗ル國語ヲモナラヒシコトナルベケレトモ、我邦ノゴトクニハアラザリケラシ、且ソノ師ヲ尊ヒ禮ヲ厚クストイフトモ、ソノ比ハ何事モ質素ノ風儀ニテ、カツテ石川丈山ヘノ津田玄蕃ガ手紙ヲミシニ、ソノ贊禮ノ贈物トテ、モミダラ三本ニテ、丈山ノ挨拶極テ厚シ、今庸禮ヨリノ手紙ヲミルニ、コレ

モ白キ麻布五疋ニ、能州ノ青魚^{サハ}二十尾二回、彩牋壹束、大魚壹尾一回、コレハ歲首ノ土宜トアレハ、鹽ダラナトノ類ナルヘシ、コノ外ニ異ナリタルモノ見エス、コレラニテソノ質樸ナル風俗ヲミルヘシ、今ニ至リテハ、中以下ノモノトテモ、カ、ル物ハオクラザル也、シカルニ巨室ノ國老ニシテ、ソノ贈物カクノゴトシ、而シテソノ禮厚シトイフ、ソノ世ノサマヲシルヘシ、故ニソノ人ヲ論スル時ハ、先ソノ世ヲ論スヘキ也、ソノ往復ノ手紙、數十通アリシ由ナレドモ、寶曆已卯ノ火事ニ盡ク焼ケテ、一通モ傳ハラストイフ、ヲシミテモ餘アルコト也、今舜水文集ニミエタルヲミルニ、與ヘシ書十篇ニ、答ヘシ書十二首啓一首也、ソノ手紙ヲミテ、庸禮ノ學ヲ好ミ善ニ急ナリシコトモシラル、也、庸禮別莊アリテ、ソノ莊ニ十六境アリ、曰ク畜德府、繹志圃、止戈庫、範馳場、德始堂、振衣室、艮墩、巽池、景陶門、睇周沼、孤松塢、萬竹逕、邁種園、後穫田、敬疆齋、報先廡コレ也、ソノ扁ハ皆ミツカラカキシ也、其德始堂、敬強齋二境ノ記ハ、舜水カケリ、イマ文集ニ見ユ、著書ニハ讀書拔尤錄二卷アリ、天和二壬戌ノ年上木、五十歳以後ノ著也、林直夫木下順庵各ソノ卷端ニ序シテコレヲ稱セリ、其書薛文靖カ讀書錄ヲヨミシニ思ヲオコシテ、遂ニ胡讚

宗カ從政名言、吳廷舉カ讀書要語ニナラヒテ作りシヨシ、自序ニ見エテ、一篇ノ要領ハ、誠敬ニアリテ、人ヲ勵マスコト深切ナリ、貞享四年丁卯六月八日ニ没ス、享年六十一、其葬ハ朱文公ノ家禮ニ倣ヒキト也、室鳩巢云、敬強君ハ忠貞ノ風、ソノ祖ヲ忝シメス、勤儉ノ行ハ、其國ニ著ハル、ソノ儒學ヲ崇ミ異端ヲ排シテ、聖賢ノ正學ヲ明ニスルニ至テハ、卓然超世ノ識、振古ノ義アリテ、ソノ家ニ傳ハル、君少クシテヨクコノ訓ヲ服シケル故、ソノ上ニ事ヘ下ヲ撫スル、スヘテ根據アリ云々トイヘリ、弘文學士林貢直モ云ヘラク、師儉ハ余カ父ト師資ノ好ヲ修メテ、禮問ヲ缺カス、或ハ經義ヲ談リ、或ハ雅會ニ參セシニヨツテ、余カ父常ニソノ實行ノ篤キヲ感ケル云々、

其子ヲ德輝トイフ、字ハ浚明、一名ハ宣、通稱ハ丹波守、佃字ト號シ、別ニ耕石、誠齋ナトノ號アリ、德輝ハ舜水ノ命スル所ニシテ、ソノ說アリ、誠齋ノ記モ、舜水ノ集ニ見ユ、浚明清貞雅操ニシテ、ヨク先風ヲ繼ギ、弱冠ニモ至ラサル比ヨリ、舜水ニ教ヲ受クレハ、ソノ薰陶ヲ蒙ルコト少カラサルヘシ、其家モト巨室ナレハ、期セスシテ至ルハ、奢侈安佚也、故ニ舜水ノコレヲ戒シム尤モ深切ニシテ懇到ナル、ソノ手簡ノ行間ニ溢ル、浚明純

孝ニテ、先孝ノ栽エラレシ園梅一株ノ傍ニ亭ヲ作りテ、ミツカラ江南軒ト扁シ、源剛伯ヲシテ記セシム、ソノ梅ハ紅梅ニテアリシカハ、晏元献カ江南別樣春ノ句ヲ取り、追遠ノ思ヲ一株ノ紅梅ニ寓シ、モテ忘レサルヲ示ス、ソノ人トナリ庭訓ニ遵ヒテ誠敬ヲ主トシ、言ニ發シテ行ニ徵シ、積學ノ功、炳然トシテ見ルヘキモノアリ、藩侯ノ恩遇モ殊ニ渥ク、政事ノ決シガタキ所ニ至リテハ、必俊明ノ言ヲモテ決ストイフ、ソノ人モト毫モ偏頗愛憎ノ私ナカリシカハ、上下ソノ德ニ懷カサルハナカリシトゾ、寶永乙酉ノ歲病ニカ、リ、久シク癒エス、藩侯數々近臣ヲ遣ハシテ、慰問備ニ至リ、臥衣ヲ下サレ、病ニ宜シキ肉ナトヲサヘ、命シテオクラル、且ソノ女婿ノ前田知賴ヲ召シテ、特恩ヲ以テ親書ヲ賜ヒテノ玉ハク、丹波ハ弱冠ノ時ヨリ、左右ニ事ヲ執リヌ、今ソノ病ヲミテ、ウタ、殘念ニオホシメストアリテ、同年ノ四月、病革マルヤ、ソノ第へ自臨ミテ慰メラレ、ソノ他老臣トモニ戒メテ、醫藥ヲ議セシメラル、ソノ間使者ノ往復、櫛ノ齒ヲヒクカゴトク、國老ノウチニテ病中ノ禮遇ニ厚キ、前古ソノ例ナカリシカハ、浚明モ日夜感泣、病ノソノ身ニアルヲモワスレ、ソノ嗣子兵部ニ淳々ト告ケタイハク、余明主ニ事ヘマツリテアリナガラ、

尺寸ノ報効モナシ、シカルニ何トテカ、ル君恩ヲ蒙リ候ヤラン、老父感激ニタヘザル也、汝ヨロシク骨ニ刻ミテ乃父ノ志ヲ忘レス、他日忠ヲ竭シ誠ヲ盡シ、専心奉公センコソ我ヘノ孝ナレト、返ス〜イヒ告ケテ、尙又ソノ族ノ忠尙トイフモノシテ、室鳩巢ニ告ケテ、之ヲ記サシメタル、ソノ文鳩巢文集ニ見ユ、後幾ハクモナクシテ、燕寢ニテ身マカリケレハ、先例ニ從ヒテ、儒禮ヲモツテ野田山先塋ノノ次ニ葬リヌ、浚明學博ク識高ク、人ノ及ハサル所アリ、カツテ東照宮百年忌ニ、諸侯各祭禮使ヲ下野ノ日光山ニ遣ハス、浚明モ君命ヲ奉シテマキル、日光山内ニムカシ龍宮ヨリエタリトイヒ傳フル一口ノ鐘アリ、ソノ銘ヲヨクヨムモノカツテナカリシヲ、諸侯ノウチニ、浚明カ博學ナルヲキ、テ、ヨミキカサレヨト乞フ、浚明イサ、カモ辭セス、高ラカニヨミアケシカハ、四座愕然、ソノ素聞ニ違ハサルニ服シケルト也、常ニ詩ヲモ嗜ミケルトイフ、

硯 銘

蟠龍含勢、玄雲示祥、福海波濶、永年無疆、

才ハソノ父ニ方ブレハ一籌ヲ進ミシト痴龍翁イヘリ、ソノ後ニ尙寛トイフモノアリ、通稱

ハ河内守慎齋ト號ス、コノ人モ朱子ヲ尸祝、シ窮理ヲ事トシ、嘗テ鄙陋瑣言、蠶海餘瀝ナトノ書ヲアラハセリトイフ、

奥村修運

奥村修運、字ハ子復、通名ハ源左衛門、天遊ト號ス、大奥村ノ族也、世々藩ニ仕ヘテ國ノ望族タリ、初ハ羽黒成實ニ學ヒ、後ハ室鳩巢ニ從テ學ヒ、平生儒ヲ崇ヒ師ヲ禮シ、青地禮幹ト共ニ後進ノ領袖ニシテ、即、室門七子ノ冠タリ、ソノ人トナリ簡重清儉、日夜性理ノ學ヲ研キ、談スル時ハ我ヲワスレテキ、居タリ、サレドモ、ソノ守ル所ニ至リテハ、堅ニシテ撓マス、佛老ノ道ヲ斥スル、惡臭ヲ惡ムカコトシ、一日家人佛經ヲ書齋ノ几上ニオキシカハ、子復コレヲミテ勃然トシテ怒リ、ヒキサキテ池中ニ擲入レシトゾ、後進ノ徒コレヲキ、テ、ソノ宋學ニ頑ナルヲワラヒツレトモ、一向ニ顧ミザリシト也、オモフニ人ヲシテ器局偏狹ナラシムルハ、宋學ノ失ナレドモ、人ノ志氣ヲシテ堅確ナラシムルハ、マタ宋學ノ得也、ソノ公事場奉行トナレル、往々儒術ヲ用ヒテ斷決セシト也、松雲公ハ學ヲ論スルコト剴切ナリトテ、タビ〜命アリテ便室ニ陪セシメ給ヒシトイフ、ソノ文一向ニ傳ハラヌ、

僅ニ一篇ノ詩論ヲ風雅ニ載セタリ、ソノ子ヲ敬忠トイフ、通稱ハ主税、觀海ト號ス、父ノゴトク學ヲ嗜マザリシカトモ、ソノ詩ニ見ルヘキモノアリトイフ、ソノ末ヲ尙之トイフ、通稱源左衛門、藍漪ト號ス、祖訓ヲ繼ギテ文墨ヲ玩フ、詩ニモ巧也、平生茶事ヲ好ミ、潔癖アリ、屋室器物ノ製ヨリ、園中ノ草木ニ至ルマテ、清趣ヲ極メ、織塵ダニモ留メス、別莊ヲ鑑水亭トイフ、致景幽邃ニシテ、宛然タル小輞川也、藍漪人トナリ、豪ニシテ和、恬ニシテ直、カツテ吝嗇ノ行ナク、貴トナク賤トナク、アマネク交ハリテ、オノノソノ歡情ヲ盡シ、トゾ、

奥村忠順

忠順字ハ履信、一字ハ伯亮、通稱ハ彈正、益進ト號シ、又竹溪トモ號セリ、奥村修運ト同出ニシテ、門地モ讓ラス、ソノ人トナリ溫柔慈諒、簡靜自養、壯ニシテ羽室ノ二先生ニ就テ學ヒ、後室門七子ノ中ニ數ヘラル、ソノ事ヲ議スル、衆善ヲ博ク采リテ、人トトモニ善ヲナスコトヲ樂シム、青地伯叔等ト親シク交ハリテ孝慈ニ篤ク、喪祭ニ謹ミ、暇アレハ和歌ヲ嗜ミシト也、富田痴龍ハ、コノ人ノ外孫ニテ、ソノ祖母ニキ、シ所ニハ、暇サヘアレハ

几案ニ倚リテ書ヲヨムヲ、人生ノ樂ミトスト也、スベテ奥村氏ハ、何レノ家ニ限ラス、葬祭ニハ佛式ヲ用ヒテ、サテ祠堂ヲ建テ、神主ヲ祭ル、一切朱文公ノ家禮ニ從ヒシトイフ、ソノ禮ニ詳ナルコト、後世ノ及フ所ニアラス、只ヲシキコトニハ、當時ノ學者ハ、名分大義ノ上ニ疎ニシテ、後世ノ範トナラサルモノ多シ、コレヲ論スルニ至リテハ、室翁トイヘトモ、駁セサルヲエサルモノアリ、サレハソノ弟子タルモノ、オノツカラコノ邊ニ心ナカリシハ、忠順カ鳩巢ノ赤穂義人錄ニ跋カキテ、幕府ヲ朝廷ト稱シケルニテシルヘシ、履信ノ孫ヲ爲則トイフ、字ハ成軌、富田痴龍ノ從弟也、少クシテ穎悟、ヨク書ヲ解シ文ヲ屬リシガ、未弱冠ニ及ハスシテ天セシトイフ、

葛卷昌興

葛卷昌興、字ハ有禎、通稱ハ權佐、ソノ亭ヲ松風亭ト號シ、マタ觀月亭ト號ス、人トナリ倜儻瑰偉慷慨ニシテ氣節アリ、松雲公ノ時、近侍トナリ、祿八百石賜ハル、サル人ナレドモ、ソノ才風雅ニ富ミ、歌ヲヨミ詩ヲ作り、感ニフレテ成ル、彫琢ヲ用ヒス、竹田忠純、奥村忠順、室鳩巢等ト別懇ニテ、時々會晤、藝苑華ヲ生ス、年七十三ノ時ニ雪竹ノ辞

ヲ作りテ、忠純ニ贈リ、孤憤ノ意ヲ寓ス、元祿六年三月十四日、密諫書ヲ奉リテ有司ノ忌諱ニフレ、六月十日寺西宗寛若狹ト稱ス一ニ寺西秀賢石見ト稱ストアリノ家ニ禁錮セラル、錮中花ニ對シテ懷ヲ述ブルノ歌ヲ短冊ニカキテ忠純ニオクル、其歌、

スミハテム身トモオモハデ世ノ中ニ昔ハ花ヲウエテケル哉、

時ニ能州ノ島地ニ遷サントノ議アリテ、ソノ事キコエケレハ、一日モ早クオクラレタシトテ、歌二首ヨメリ、

春過テ深キ緑ニ交リナバアタラ櫻モ名ヲヤケガサム、

吳竹ノヒトヨバカリト思ヒシニ幾曉ノ夢ムスブラム、

時ノ人コレヲミテ酸鼻セサルハナカリシトイフ、果シテ、七月十八日ニ至リテ、終ニ七尾ノ西北十五丁斗、津向村トイフニ流サル、時ニ室鳩巢往キテ尋ネケルニ、秋毫モ君ヲ恨ムル色ナク、泰然トシテ物語セシトイフ、ソノ出發ノヨリモ、鳩巢忠純及青地藤大夫ナト、暇乞ニマキリ、各送別ノ詩ヲ賦シ、山本源右衛門ハ、配所へオノガ書ケル書幅ナト贈リテ、徒然ヲ慰ム、下學老談一日家來スデノ者、見舞ニユクトテ、途中ニテヌカゴノアリシヲ拾ヒテ

オクヲケレハ、

道芝ノ露ニヤツレシイモガ子ヲ草ノ袂ニツ、ミテヤコシ、

トヨミテ遣シケルトソ、梅花雜記謫居十三年ガ間、危坐席ヲ移サス、海山窓ニアタレドモ、起

テモ窺ハス、書見セリ、金澤ヨリ來ルモノアレハ、只君公ノ寢膳ヲ御尋申スバカリニテ、外ニ何ノ詞モナシ、寶永二年終ニ配所ニ歿ス、六年、妻ノ里ナル大野木隼人一基ノ墓ヲタテケルニ、ソノ後久シクヘテ山崩ニアヒ土中ニ埋レヌルヲ近比堀出シテ、百姓ノ竹林中ヘ移セリ、表面ニ大林院殿藤原昌信居士覺位、側面ニ寶永六年施主大野木隼人トアリ、享年五十、所ノ者爲ニ生祠ヲ立テ、歲時享祀シ、ソノ歿スル、老トナク少トナク、涙ヲ墮サ、ルハナカリシトソ、鳩巢慟哭ノ詩六首アリ、ソノ後山ノ西ヨリ妖星アラハレ、毎夜光芒天ヲテラシ、夜半海ニソヒテ下リ、有禎ガ墓上ニ停マル、ソノ大サ尺ニ達シ、五更ニ及テ飛去リヌルヲミテ人皆龍神ノ灯明ヲ献ツルナリトイヒアヘリシヨシ、精誠ノ華マル所、天人感應ト、富田痴龍イヘリ、後八十年ヘテ、天明六年、大梁公ノ時、大野木克成舍人ノ家ニ、有禎ノ遺書アルヨシ、キコシメサレテ、ソノ書ヲ殘ラス指出スヘキヤウニトノ御意アリテ、

献リシカハ、公感悅斜ナラス、舍人ニ御上下二領拜領セシメラル、下學尤、權佐ノ流刑ニ付セラレシトキモ、松雲公ハイタクヲシミ給ヒテ、致スヘキ様モアルヘシトノ御意ナリシカトモ、何分折合アシク終ニ遷謫ノ刑ニ処セラレシナリトカヤ、公ノ時ニシテコノ人ノイヅル、聖賢ノ遇合トモイフヘキニ、カ、ル不祥ノ事アリシハ殘念ナルコトドモ也、蓋泰否通塞ハ、皆命也、權佐ハ一時ニ屈セシカトモ、千載ニ伸フ、吾常ニオモヘラク、士タルモノハ、一時ニ負クトモ、萬古ニ勝タント心掛クヘキナリ、權佐ノ能州ニハヤク遷サレムコトヲ願ヒシモ、ソノ意茲ニアル歟、ソノ謫所ニアル、監者ニ告テ云、ソノ方ドモ吾ヲ高潔ノ舉ヲ好ムトオモヘル歟、ハタ又佛ヲ信シテ出家ヲ願フトオモヘル歟、ソノ方ドモ、カノ士ノ戰場ニ赴キテ、國難ニ殉スルモノヲシラン、余カ志ハコ、ニアリト申シ、ヨシ、青地禮幹權佐ヲ稱シテ志操高潔、古烈士ノ風アリトイヘリシハ、信ナリ、ソノ和歌集ヲ野草玉露トイフ、江戸ガヘリノ紀行モアリ、詩ニモ佳ナルモノアリ、

秋夜觀月亭即興

秋來夜々可_二人腸_一、欹枕耿然臥草堂、竹裏清風五更雨、松間殘月

半庭霜、

獨坐

鳥飛知_二雨候_一、花落惜殘春、不敢求_二過客_一、春山是故人、

富田痴龍翁、暮春ニ至ルコトニ、コノ詩ヲ吟シテ、平暢ノ中ニ深味アリト評セリ、

半山人云、葛卷氏ノ法名ニ、大林院トアリ、村民ノ姓ニモ大門左近ナトイフアリ、必故アルコト、オモハルトイヘリ、按ニ家來ヤウノモノ、來テ永住シケルニハアラザルカ、尋ヌヘシ、

九里正長

九里正長、字ハ仲夫、通稱ハ覺右衛門、夕菴ト號シ、又三々里人ト號ス、嘗テ王代積年記二卷著シテ、松雲公ニ献ス、公コレヲ御覽ジテノ給ハク、正長身武職ニアリテ、諸士ヲ指揮シ、公務繁劇、餘暇幾ハクモナキニ、ヨク編纂ニ志シテソノ功ヲ成ス、只ソノ書ノ我心ヲ慰ムルノミナラス、我ソノ老テ益勤ムルヲ稱ストテ、特ニ正長ヲ召サレテ中古瀬戸燒ノ壺ニ挽茶ヲ入レテ下サレケルトソ、是レ貞享乙丑三月十四日ノ事也、ソノ書ハ平生公務ノ

餘ニ、寛永年末ヨリ和漢ノ歴史ヲ閲テ、帝王及幕府諸侯且名人ノ出處來歴ヲ歷年甲子ノ下ニ記シ、君上ノ正邪政事ノ善惡ヨリ、神社佛閣ノ興廢、夷狄僭窃ノ祥災ニ至ルマテ、一々臚列シ、朱墨青紫ノ色モテソノ部ヲ分チテ、螢抄雪纂、三十餘年ヲヘテ、七十才ノ年初テ成ル、ヨツテ奥村浚明ニ頼ミテ公覽ニ供ヘシナリトソ、錦里文集誠ニ老テ益壯ナリトイフヘシ、

九里將興

九里將興、字ハ孟祥、通稱甚左衛門、正長ノ子也、元祿中騎馬卒頭トナル、ソノ人トナリ、任達豪宕、細行ニ拘ラス、恒ニ國卿大夫ト詩酒ノ會ヲ間キテ相樂ム、ソノ園ヲ至樂園トイフ、貞享三年ノ春、園中ノ垂絲櫻盛ニ開キ、冷艶雪ヲ欺クハカリ也シカハ、詞客奥村庸禮、蒙前田知頼、富田重治、原元寅、奥村英定、野村重威、源貞廣、ヲ招キテ花下ニ筵ヲ開キ、互ニ筆翰ヲ飛ハシ、金聲玉振、源鶴阜五十川剛伯チ云フソノ序ヲ作りテ、李青蓮カ桃李園ニ比セリトイフ、一時傳唱シテ風流ノ盛事トセリ、ソノ後泰雲公ノ時九里恭孝トイフ人アリ、字ハ祥甫、香山ト號ス、通稱ハ縫殿、乾々樓社ニ入りテ詩ヲ弄ス、サレトモ才拙ナクシテミルヘキモノナシト也、

有澤永貞 武貞 貞幹

有澤永貞、初俊貞、字ハ天淵、通稱ハ九八郎、後改テ采女右衛門ト稱シ、梧井庵ト號ス、ソノ亭ヲ高臥亭ト號シ、本藩ノ軍師タリ、幼少ノ時ヨリ兵書ヲ讀ミ、好テ兵事ヲ談ス、佐々木秀乘、山鹿義臣ニ從テ學フコト三十年、貞享内寅ノ年、永貞年四十八、甲陽軍鑑本末通解十八卷アラハス、時ニ北條氏長等、武田家ノ兵理ヲ祖述シ、名聲海内ニ藉甚シク、雌雄ノ二鑑、及雄備武教等ノ數書ヲアラハシ、兵家者流ハ、皆コレヲ巾襲シテ、拱壁ニ比シケルヲ、永貞ミテ喜ハス、是ハ徒古語ニ徴シテ該博ヲウルモノナリ、ソノ說ハ縝密ナレトモ、ソノ實ハ支離也、或ハ牽強附會ナル、高坂昌信ノ遺訓ニ悖ルトシテ、更ニ高坂氏ノ家法ニ就テ、數萬言アラハシケルトソ、ソノ書ハ一切カナニテカキ記シ、文辭ヲ飾ラス、專ラ捷便ヲ要トセリ、ソノ世ニ益スル大也、永貞識見高邁、衆ニ超出セリ、嘗テ昌信ノ書ヲ評シテ云、是ハ兵法ノ土苴也、カノ制勝ノ道ハ決シテコ、ニアラス、サレトモ吾ソノ法ノ約ニシテ明、近クシテ切ナル、且ソノ迹鑿々トシテ驗スヘキヲ愛ス、世ノ兵法家ヲシテソノ跡ニヨリテ其法ヲ考ヘモテ形勢ノ在ル所勝敗ノ然ル所ヲ求メシメハ、コレモ亦一ノ筌蹄

武貞カ加州金澤町割成辨注ニ云、永貞後宗右衛門ト改ム少カリト時ヨリ圖翁遠近道印ノ稱ハ藤井平知トテ越中富山ノ小臣ナリ、磁針ヲ以テ量ル分間圖ヲ作ル武貞幼年ヨリ之ヲ習テ思立チシナリ、道印江戶ノ大圖ヲ作リ又駿府ノ圖ヲ作リシ由誠ニ圖翁ナリシトアリ、右圖成辨ニ云武貞晩年左半身不自由トイフサモ不厭十一月上旬迄ニ、金澤町中小路々々迄モ委ク

改メ、武士屋敷ハ開ニ隨テ、名ナ改メ書ス、當時郡奉行關屋佐左衛門林源太左衛門ニ談シ、享保三月十日ニ養ノ爲ニトテ義ノ免セラレシ、年三十九ケリ、子小太郎今八歳ノ童分、未是非ナシ、後永ク家實トシテ父志ヲ遂ケタルヲ愛セ、幸ナラシカ、最ニ外ハ出ス、病中自筆ノ圖ナレハ、享保四月年甲寅年四月中旬於栖老亭トアリ、其精力察スルニ餘アリ、明治九年ノ比九郎トイヒケ

ン余金澤藩陣立ノ圖ヲ坊間ニテ求メシニ、ソノ裏ニコノ名ミエタリ、

タラン、モシタ、ニ一定ノ法ヲ守リテ、變通ノ畧ナクンハ、兵法モ亦何ノ益カアルヘキトイヘリシヨシ、ソノ一斑ヲオモフヘシ、サテ兵家ハ地理ヲ精クセサルヘカラサルモノナレハ、永貞モ兵學ノ餘ニ、地理學ヲ修メ、一日モ苟廢セス、ソノアラハセルモノ、皆觀ルヘク、殊ニ貞享年中海北海道里圖ヲアラハセリ、室鳩巢ソノ後ニ跋シテ云、加州ハ江戸ヲ去ルコト百二十里、然ルニ宿々相續キ、大抵十日ニシテ至ル、予江戸ニ出テシ比ヨリ、幾度ソノ間ヲ往來シケン、サルニ宿驛ノ遠近、山川ノ位置一切ソノアラマシヲダニエ記セス、往々人ニ問ハレテ、ソノ用心ノ粗キヲ耻ツ、ヨツテ一圖ヲ考ヘ作ラントオモヒシカ所、事多クシテ暇アラス、今コノ圖ハ、イハユル山川ノ位置、宿驛ノ遠近、一モ漏ラサス考テ、ソノ實ヲ明ニシタル、旅裝中ニ缺クヘカラサルモノ也トイヘリ、永貞年七十餘ニ至ルマテ、ヨク奉公ニ勤メ、餘力ヲモテ書ヲアラハス、ソノ精力ノホト、人ノ及フヘカラサルモノアリ、ソノ子ヲ武貞トイフ、字ハ伯尠、通稱ハ森右衛門、桃水軒トイフ、次子ヲ致貞トイフ、通稱ハ總藏、並ニ箕裘ノ業ヲ繼キテ家聲ヲ隕サス、齋泰卿ノ時、銃隊ヲ編シ、軍法ヲ一變セリ、永貞ノ遺言若干卷ヲ註シ、或ハミツカラ書ヲアラハシ、後ノ兵家者ハ、皆收テ帳中ノ

秘トセリト云、富田景周云、三貞ハ皆博覽強記、大抵古今ノ兵書ニ於テ讀マサルハナク、ソノ大義ヲヨク祖述セリ、豪傑ノ士トイフヘシトイヘリ、世ニ三貞自叙傳アリ、ソレニ詳ナルヨシ、

武貞ノ子貞幹、字ハ伯固、通稱ハ左衛門、藍水堂ト號ス、才子ニテヨク父祖ノ家學ヲ唱ヘ御鎗奉行ニ至リシトイフ、近比ノ家主ヲ貞吉トイフ、忠ヲ貞明トイフ、其家ニハモト梧井文庫トイフアリテ傳來ノ書籍ヲ盡クソノ中ニ藏メタリシカ、世變ニツレテ、今ハ己ニ取毀チケレハ、其書ノ散逸ヲ恐レテ、右二人門人ト相謀リ、書籍部數二百三十一部、冊數千拾七冊ヲ十四函ニ分チ、犀川神社ニ納メタリトイフ、其中ニハ永貞以來ノアラハシ、築城并古戰場圖ヨリ前田家及三州ニ關シタル書類、諸名家ノ譜類等、珍ラシキ書モ多カリシトカヤ、久徵館雜誌

脇田直能

脇田直能、通稱九兵衛、其居ヲ麗雪亭ト號ス、錦里先生ノ門人也、先生一日ソノ亭ニ游ヒ、

竹樹連^ニ岩壁、軒亭據^ニ水源、飛泉陰雪灑、高榜細雲翻、僚友集^ニ仁里、弟兄同^ニ義門、勤々主人意、酒茗到^ニ黄昏、

ノ詩アリ、茶式ヲ千宗室ニ學ヒ、ソノ門ノ白眉タリ、富田景角ノ家ニソノ作りシ茶ヒ一把藏セシトゾ、直能ノ父ヲ直賢トイフ、通稱ハ九兵衛、本姓ハ金氏、朝鮮人也、文祿元年、朝鮮ノ役ニ、浮田中納言秀家將トナリテ釜山浦ニ至ル、翰林學士金時省トイフモノ、防戰ヨクカメ、終ニ國難ニ殉ス、コレヲ直賢ノ父トス、時ニ直賢ハ僅ニ七才ニテ、秀家ニ擒ニセラレ、備前ノ岡山ニ來リシカ、ソノ明ル癸巳年、秀家ノ夫人ソノ孤弱ヲ憐ミ、通家ノ誼ヲモテ、吾芳春夫人ノ許ニ送遣ハサル、夫人モソノ愍凶ヲ憐ミ、ミツカラ育給テ人トナル、瑞龍公ノ時、祿百石下サレテ近侍トナリ、長スルニ及テ脇田氏ヲ冒ムル、直賢城東ノ小立野ニ遊フゴトニ、牛坂ノ邊ヨリ、若松山下淺野川ノ西ニナガル、ヲ詠メテ、故郷ノ致景ニ似タリトテ、常ニ思郷ノ涙ヲナガシ、トイヒ傳フ、直賢ハ大坂ノ陣ニ一番槍ノ功衆ニ超エシトテ、家祿千石賜ハル、又連歌ニ長シ、菊池武康淺井政一ナト、深ク交ハリケリ、松雲公カ御生髮ノ式アリシ時、御祝儀ノ發句ヲ献ル、ソノ句、

戴クヤ千年初ノ霜ノ松、

陽廣公ソノ句ヲツギテ下サレシヨシ、ソノ句ニ、

綠モ春ニナヒク吳竹、

長閑ナル池ノ巖ニ鶴ノ居テ、

一時傳唱セリトゾ、歌道ヲモ嗜ミ、古今ノ秘訣ヲ一華堂乘阿ヨリ傳受シ、ソノ道ニヨク通シ、微妙公ニシハ、稱セラレケルトゾ、萬治己亥ノ年致仕シテ如鐵ト號シ、ソノ翌年ノ七月家ニ卒ス、

原 元 寅

原元寅字ハ正夫、一名元憲、字ハ伯成、通稱ハ將監、淇園ト號ス、性風流清雅、初メ錦里先生ニ學フ、先生ノ集ニ、ソノ北海ニ歸ル七律二首アリテ、詩中ニ、
辭氣凌雲眼如電、簿書堆案午生風、

ノ句アリ、ソノ人トナリヲミルヘシ、後五十川剛伯ニ學ヒ、詩ヲ習フコト十余年、又新井白石ト屢々唱酬アリ、ソノ末裔元善カ家ニ、鑲銀花草ノ壓尺二條ヲ謝セシ白石手書ノ詩ヲ

伯成ノ詩ニ白
石ノ批ヲ加ヘ
シモノ七冊ハ
カリアル由、
友人赤井氏三
冊示サル、ソ